FUJIFILM

ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション デスク トップ版のヘルプ ArcSuite 4.0

はじめに

このたびは富士フイルムビジネスイノベーションのArcSuite[®]をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・ パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえ でのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。 コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性 保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメ ントー括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザーの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Excel、Microsoft、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle とJava は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。 Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。 Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

ご注意

- ・本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OSのバージョンによって 異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。 ArcSuite、およびDocuWorksは、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財 産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。 (c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。 マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。 主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウ ザーの操作画面にある[ヘルプ]から表示できます。

補足お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについ て説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説 明しています。
ドキュメント管理サービス管理者	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマ
ガイド	ンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理ア プリケーション デスクトップ版の ヘルプ(本書)	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明し ています。
ドキュメント管理サービス管理 アプリケーション Web版のヘル プ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について 説明しています。
オフラインバックアップ・	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作につ
リストア運用ガイド	いて説明しています。
リソース管理アプリケーションの	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編
ヘルプ	集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケー ションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケー	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのスプール管理、メッ
ションのヘルプ	セージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションの	ユーザープロファイルに表示する項目の設定、お知らせの設定につい
ヘルプ	て説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、お
ケーションのヘルプ	よびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツール	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について
のヘルプ	説明しています。
ログ管理アプリケーションの	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で
ヘルプ	取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベー スの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明して います。
ドキュメントスペースドキュメン	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について
ト操作URLリファレンスガイド	説明しています。
オンラインバックアップ・	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作につ
リストア運用ガイド	いて説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明 しています。
コラボスペース管理アプリケー	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッ
ションのヘルプ	セージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーショ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設
ンのヘルプ	定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケー	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明し
ションのヘルプ	ています。
統合検索サービス管理アプリケー	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およ
ションのヘルプ	びシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URL	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明し
リファレンスガイド	ています。
ワークフロー操作URLリファレン	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明して
スガイド	います。
Webサービスインターフェイス	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明してい
リファレンスガイド	ます。
ドキュメント管理サービスSDK	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについ
リファレンスガイド	て説明しています。
コラボスペースInterface Toolkit	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明して
リファレンスガイド	います。
ワークフロー Interface Toolkit	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明してい
リファレンスガイド	ます。

■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロファイルを変更す る操作について説明しています。 Webブラウザーの操作画面にある[ヘルプ]から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスク を検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメン トを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集 する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件 式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面 の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索な どの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、 作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメントー括操作ツール説明	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクト
書	を処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セット	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明していま
アップガイド	す。
デスクトップクライアント 操作説	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォル
明書	ダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明して
セットアップガイド	います。
連携フォルダ for DocuWorksの	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操
ヘルプ ^(*1)	作する方法について説明しています。

*1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

本書の使い方

本書は、ArcSuiteの基本的な操作について説明しています。 はじめてArcSuiteを操作するときに基本的な操作の一連の流れをご理解いただくために、本書をお読みくだ さい。

■ 本書の構成

本書は、次の章から構成されています。

<u>1 ドキュメント管理サービス管理アプリケーションとは</u>

ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの概要を説明しています。

<u>2 基本の操作</u>

ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの起動・終了など基本の操作を説明しています。

<u>3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル</u> ドキュメント管理サービス管理アプリケーションで使うCSVファイルを説明しています。

4 サービスの設定

ドキュメント管理サービスの設定を行う手順を説明しています。

5 データベース表領域の設定

データベース表領域の設定を行う手順を説明しています。

6 キャビネットの設定

キャビネットの設定を行う手順を説明しています。

<u>7 ドロワーの設定</u>

ドロワーの設定を行う手順を説明しています。

8 操作ログの設定

操作ログのサービス設定を行う手順を説明しています。

9 検索エンジンの設定

検索エンジンの管理の設定を行う手順を説明しています。

10 スケジューラー機能の設定

スケジューラー機能の設定を行う手順を説明しています。

11 メール通知の設定

メール通知の設定を行う手順を説明しています。

<u>12 タイマー機能の設定</u>

タイマー機能の設定を行う手順を説明しています。

13 イベントトリガーの設定

イベントトリガーの設定を行う手順を説明しています。

<u>14 サーバーの設定</u>

サーバーの設定を行う手順を説明しています。

<u>15 RMSの設定</u>

RMSの設定を行う手順を説明しています。

<u>付録</u>

管理アプリケーションで、サービスおよびキャビネットの各モードで使用できる機能の一覧、管理アプリケー ションに [操作ログの削除] メニューを表示しないように設定する手順、文書にスタンプするための設定 の流れを説明しています。

■ 本書の表記

・本書では、次の記号を使用しています。

<>+-	キーボードのキーを表します。 例: <enter>キーを押します。</enter>
[]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例:[新規作成] をクリックします。
[]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例:「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。
ſ	参照するマニュアルの名前を表します。 例: 『システム管理者ガイド』
{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例: [{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例:[システムとセキュリティ] > [管理ツール]
注記	一般的な注意事項を表します。
補足	機能や操作に関する補足説明を表します。
参照	参照する事項があることを表します。
	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例: <u>「1 概要」(P.6)</u>

・Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。

・パーソナルコンピューターを「PC」と表記しています。

・お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。

・特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

目次

1	ドナッメント	、答理十一	- ビフ 答理ア=	プリケー	-ションレけ
T	「干ユハノ」	「日吐り	しへら生ノノ	ノンノ	ノコノこゆ

ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの概要	15
管理ツールの機能一覧	16
[、] ロワー作成までの流れ	23
主意事項	24
同時実行可能数の制限について	24
管理セッションの残存について	24
	キュメント管理サービス管理アプリケーションの概要 理ツールの機能一覧 ロワー作成までの流れ 意事項 同時実行可能数の制限について 管理セッションの残存について

2 基本の操作

29

3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用するCSVファイル

3.1	管理アス	プリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイルについて	31
	3.1.1	ユーザーアトム定義ファイル	. 32
		エラー	. 32
	3.1.2	ユーザー属性定義ファイル	. 33
		エラー	. 34
	3.1.3	アクセス権リストファイル	. 34
		エラー	. 35
	3.1.4	デフォルトアクセス権リストファイル	. 35
		エラー	. 36
	3.1.5	アクセス権マスクリストファイル	. 36
		エラー	. 37
	3.1.6	状態定義ファイル	. 38
		エラー	. 39
	3.1.7	状態遷移定義ファイル	. 39
		エラー	. 40
	3.1.8	ユーザー属性リストファイル	. 41
		エラー	. 41
	3.1.9	コンテントラベルリストファイル	. 42
		エラー	. 44
	3.1.10	エディションキーリストファイル	. 44
		エラー	. 44
	3.1.11	原本性保証情報の格納パラメーターファイル	. 45
	3.1.12	属性制約リストファイル	. 46
		エラー	. 47
	3.1.13	版ラベルリストファイル	. 48
		エラー	. 48
	3.1.14	ユーザーインデックス定義ファイル	. 49
		エラー	. 49
		keyList パラメーターに指定できるシステム属性	. 50
		keyList パラメーターに指定できるユーザー属性	. 50
	3.1.15	オブジェクトタイプリストファイル	. 51

	エラー	51
	objectCategory パラメーターに指定できるオブジェクトカテゴリー	51
3.1.16	スタンプルール定義リストファイル	52
3.1.17	注意事項	52

4 サービスの設定

4.1	サービス情報の確認	54
4.2	サービス管理者の設定	55
4.3	セッション情報の確認	56
4.4	サービスのモード変更	58
	制限事項	58

5 データベース表領域の設定

5.1	データベース表領域の設定の流れ	60
5.2	データベース表領域サイズの算出	61
5.3	データベース表領域情報の確認	69
5.4	データベース表領域の作成	71
5.5	データベース表領域の削除	72

6 キャビネットの設定

6.1	キャビ	ネットとは	74
6.2	キャビ	ネットの設定の流れ	75
6.3	[キャビ	`ネットの作成]画面について	76
	6.3.1	[キャビネットの作成] 画面を表示する	76
	6.3.2	[キャビネットの作成] 画面の構成	78
	6.3.3	[キャビネットの作成]画面-[全般]タブのページの構成	79
	6.3.4	[キャビネットの作成]画面-[ユーザー属性]タブのページの構成	81
	6.3.5	[キャビネットの作成]画面-[エディションキー]タブのページの構成	82
	6.3.6	[キャビネットの作成]画面-[アクセス権]タブのページの構成	83
	6.3.7	[キャビネットの作成]画面-[デフォルトアクセス権]タブのページの構成	84
	6.3.8	[キャビネットの作成]画面-[アクセス権マスク]タブのページの構成	85
	6.3.9	[キャビネットの作成]画面-[状態定義]タブのページの構成	86
	6.3.10	[キャビネットの作成]画面-[状態遷移定義]タブのページの構成	87
	6.3.11	[キャビネットの作成]画面-[コンテントラベル]タブのページの構成	88
6.4	キャビニ	ネットの作成	
6.4	キャビ	ネットの作成 キャビネットの概要を設定する	89
6.4	キャビ	ネットの作成 キャビネットの概要を設定する ユーザー属性を設定する	89
6.4	キャビ	ネットの作成 キャビネットの概要を設定する ユーザー属性を設定する エディションキーを設定する	
6.4	キャビ	ネットの作成 キャビネットの概要を設定する ユーザー属性を設定する エディションキーを設定する アクセス権を設定する	89
6.4	キャビ	ネットの作成	
6.4	キャビ	ネットの作成	89
6.4	キャビ	 ネットの作成 キャビネットの概要を設定する ユーザー属性を設定する エディションキーを設定する アクセス権を設定する デフォルトアクセス権を設定する アクセス権マスクを設定する 状態定義を設定する 	89 89 90 91 92 94 94 96 97
6.4	キャビ	ネットの作成キャビネットの概要を設定するユーザー属性を設定するエディションキーを設定する	89
6.4	キャビ	ネットの作成	89 89 90 91 92 94 94 96 97 100 102
6.4	キャビ	 ネットの作成 キャビネットの概要を設定する	
6.4 6.5 6.6	キャビ: キャビ: キャビ:	ネットの作成	
6.4 6.5 6.6	キャビ: キャビ: キャビ: 6.6.1	 ネットの作成 キャビネットの概要を設定する	

	6.6.3	ファイルフォーマット変換サービスを設定する	108
	6.6.4	エディションラベルを設定する	108
		エディションラベルを設定する	108
	6.6.5	コンテントラベルを設定する	111
	6.6.6	アクセス権を設定する	114
		アクセス権を設定する	114
		デフォルトアクセス権を設定する	116
		アクセス権マスクを設定する	118
	6.6.7	ユーザー属性を設定する	120
	6.6.8	インデックスキーを設定する	122
		インデックスキーを設定する	122
		インデックスキーを削除する	124
	6.6.9	状態定義を設定する	125
	6.6.10	状態遷移定義を設定する	128
	6.6.11	オブジェクトタイプを設定する	130
	6.6.12	キャビネット名を変更する	132
	6.6.13	注釈を設定する	133
	6.6.14	モードを設定する	133
		制限事項	134
	6.6.15	管理操作をキャンセルする	135
	6.6.16	ごみ箱を設定する	135
		ごみ箱を作成する	135
		ごみ箱の情報を確認する	136
		ごみ箱の名前を変更する	136
		ごみ箱のストレージパスを変更する	137
		ごみ箱の注釈を変更する	138
			138
	6.6.17	キャビネットの操作制約パターンラベルを設定する	139
	6.6.18	アカウントログを設定する	139
		アカウントログの設定を確認する	139
		アカウントログを設定する	140
	6 6 4 0	アカウントロクの設定をリロードする	142
	6.6.19	操作ログを設定する	143
		設定済みの操作ロクを確認する	143
		「架作山クを設定する	144
6.7	設定済る	ゆのクラスを確認	.148
	6.7.1	[クラスの表示] 画面の構成	148
	6.7.2	設定済みのクラスの内容を確認する	148
	6.7.3	設定済みのクラスの詳細を確認する	149
6.8	クラスの	D設定	
	6.8.1	[クラスの設定] 画面の構成	151
	6.8.2	クラスを設定する	152

7 ドロワーの設定

ドロワ-	-とは		
[ドロワ	ーの作成] 画面に	ついて	
7.2.1	[ドロワーの作成]	画面を表示する	
7.2.2	[ドロワーの作成]	画面の構成	
7.2.3	[ドロワーの作成]	画面- [全般] タブのページの構成	
7.2.4	[ドロワーの作成]	画面- [アクセス権] タブのページの構成	
7.2.5	[ドロワーの作成]	画面- [デフォルトアクセス権] タブのページの構成	
	ドロワ- [ドロワ 7.2.1 7.2.2 7.2.3 7.2.4 7.2.5	ドロワーとは [ドロワーの作成] 画面に 7.2.1 [ドロワーの作成] 7.2.2 [ドロワーの作成] 7.2.3 [ドロワーの作成] 7.2.4 [ドロワーの作成] 7.2.5 [ドロワーの作成]	ドロワーとは [ドロワーの作成] 画面について 7.2.1 [ドロワーの作成] 画面を表示する 7.2.2 [ドロワーの作成] 画面の構成 7.2.3 [ドロワーの作成] 画面- [全般] タブのページの構成 7.2.4 [ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページの構成 7.2.5 [ドロワーの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページの構成

ドロワーの作成	
ドロワーの削除	
ドロワー情報の確認	
ドロワー名の変更	
注釈の設定	
ストレージパスの変更	
アクセス権の設定	179
	ドロワーの作成 ドロワーの削除 ドロワー情報の確認 ドロワー名の変更 注釈の設定 ストレージパスの変更 アクセス権の設定

8 操作ログの設定

8.1	操作ログとは	184
8.2	操作ログの設定の流れ	185
8.3	操作ログ情報の確認	186
8.4	操作ログのエクスポート	187
8.5	操作ログの削除	188
8.6	操作ログのサービス設定の確認	190
8.7	操作ログのサービス設定の初期化	192
8.8	操作ログのサービス設定の解除	194

9 検索エンジンの設定

9.1	検索エンジンとは	196
9.2	全文検索エンジン連携の設定の流れ	
9.3	全文検索エンジン連携の操作	
	9.3.1 全文検索エンジン連携を設定する	
	9.3.2 全文検索エンジン連携の情報を確認する	
9.4	全文検索インデックスの操作	
	9.4.1 全文検索インデックスの情報を確認する	
	9.4.2 全文検索インデックスを初期化する	
	9.4.3 全文検索インデックスを削除する	
9.5	関連文書検索エンジン連携の設定の流れ	
9.6	関連文書検索エンジン連携の操作	
	9.6.1 関連文書検索エンジン連携を設定する	
	9.6.2 関連文書検索エンジン連携の情報を確認する	
9.7	関連文書検索インデックスの操作	
	9.7.1 関連文書検索インデックスの情報を確認する	
	9.7.2 関連文書検索インデックスを初期化する	
	9.7.3 関連文書検索インデックスを削除する	
9.8	検索インデックスの異常状況を回復する	

10 スケジューラー機能の設定

10.1 スケジューラー機能とは	210
10.2 スケジューラー機能の状態の変更	211
サービスのスケジューラー機能の状態を変更する	211
キャビネットのスケジューラー機能の状態を変更する	211
10.3 スケジューラー機能の状態の確認	212
10.4 スケジュール情報の確認	213

10.5	スケジ:	ュールの中止	214
	10.5.1	サービスの実行中のスケジュールを中止する	
	10.5.2	キャビネットの実行中のスケジュールを中止する	214
10.6	キャビ	ネットのスケジュールの設定	
	10.6.1	[スケジュールの追加] 画面を表示する	215
	10.6.2	[スケジュールの追加]画面-[全般]タブのページの構成	
	10.6.3	[スケジュールの追加]画面-[実行オペレーション]タブのページの構成	217
	10.6.4	[スケジュールの追加] 画面- [実行条件] タブのページの構成	
	10.6.5	スケジュールを設定する	218
		スケジュールを追加する	218
		スケジュールを編集する	
		スケジュールを削除する	
		スケジュールを有効化する	
		スケジュールを無効化する	

11 メール通知の設定

11.1	メール通知設定の確認	223
11.2	メール通知設定の使用状況の確認	224
11.3	メール通知の設定	225

12 タイマー機能の設定

12.1	タイマーの追加	228
12.2	タイマーの編集	233
12.3	タイマーの削除	236
12.4	実行情報の確認	237
12.5	設定情報の確認	238
12.6	状態の変更	241
12.7	スキップリストのクリア	243

13 イベントトリガーの設定

13.1	外部コマンド定義の設定	245
	13.1.1 情報を確認する	245
	13.1.2 外部コマンド定義を追加する	245
	13.1.3 外部コマンド定義を変更する	246
	13.1.4 外部コマンド定義を削除する	247
13.2	イベントトリガー定義の設定	
	13.2.1 イベントトリガー定義を確認する	248
	13.2.2 イベントトリガー定義を追加する	248
	13.2.3 イベントトリガー定義を変更する	257
	13.2.4 イベントトリガー定義の順序を変更する	258
	13.2.5 イベントトリガー定義を削除する	259
	13.2.6 イベントトリガー定義をリロードする	259

14 サーバーの設定

14.1	サーバ-	-の停止と終了	261
	14.1.1	サーバーを一時停止する	261
	14.1.2	サーバーの一時停止を解除する	262
	14.1.3	サーバーを強制一時停止する	263

	14.1.4 サーバーを終了する	
	14.1.5 サーバーを強制終了する	
	14.1.6 サーバーをアクティブにする(管理サーバー)	
14.2	リポジトリーサーバーで必要な設定	
	14.2.1 最大セッション数を設定する	
	14.2.2 サーバーのウェイトを設定する	
	14.2.3 クラスタリングに追加/削除を設定する	
14.3	サーバーの起動	270
14.4	バージョン情報の表示	271

15 RMSの設定

15.1	ユーザー属性の追加	273
15.2	ユーザーアトムの追加	275
15.3	ユーザーネームスペースの追加	277
15.4	RMS 情報のリロード	278

付録

付録A モー	ド別機能一覧	
付録 A.1	サーバー管理	
付録 A.2	サービス管理	
付録 A.3	キャビネット管理	
付録 A.4	ドロワー管理	
付録B [操作	■ログの削除]メニューの非表示設定	
付録 B.1	設定パラメーターを編集する	
付録C スタ	ンプを設定する流れ	

1 ドキュメント管理サービス管理アプリケーションとは

ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの概要を説明します。

1.1 ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの概要

ドキュメント管理サービスの管理操作は、管理ツールを使います。管理ツールを使って、サーバー、サービス、 キャビネット、およびドロワーを管理します。

ドキュメント管理サービスの管理ツールには、次の3つがあります。

- ・ドキュメント管理サービス管理コマンド
 (以降、「管理コマンド」と表記します)
- ・ドキュメント管理サービス管理アプリケーションデスクトップ版
 (以降、「管理アプリケーションデスクトップ版」と表記します)
- ・ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版 (以降、「管理アプリケーション Web 版」と表記します)

「管理コマンド」は、管理サーバーがセットアップされたPC上でだけ実行できます。

一方、「管理アプリケーション デスクトップ版」は、管理サーバー以外でも「管理アプリケーション デスクトップ版」をインストールしたPCで使用できます。

また、「管理アプリケーション Web版」は、クライアントPCからWebブラウザーを使って操作できます。



図:ドキュメント管理サービスの管理ツール

- 参照 ・ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版をセットアップできるマシンについては、 『セットアップガイド』を参照してください。
 - ・ドキュメント管理サービス管理コマンドの使用方法については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイ ド』を参照してください。
 - ・ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版の使用方法については、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版のヘルプ』を参照してください。

「管理コマンド」、「管理アプリケーション デスクトップ版」、および「管理アプリケーション Web版」では、提供 する機能の種類に違いがあります。

参照 提供する機能については、「<u>1.2 管理ツールの機能一覧」(P.16)</u>を参照してください。

1.2 管理ツールの機能一覧

各管理ツールには、それぞれ次のような機能があります。

表:各管理ツールの機能一覧

対象	分類	操作	管理コマンド	管理アプリケー ション デスクトップ版	管理アプリ ケーション Web版
リポジトリー/	基本	一覧表示	\bigcirc	0	0
管理サーバー共 通	起動状態の	一時停止	×	0	×
	変史	強制一時停止	×	\bigcirc	×
		一時停止解除	×	\bigcirc	×
		終了	×	\bigcirc	×
		強制終了	×	0	×
リポジトリー	基本	最大セッション数の設定	0	\bigcirc	×
<u> </u>		サーバーの重み付け設定	0	0	×
		クラスタリングへの参加・ 解除	0	0	×
管理サーバー	基本	アクティブ化	×	0	×
サービス	基本	サービス情報表示	0	0	0
		サービス管理者の設定	0	0	×
		サービスモードの設定	0	0	×
		セッション情報の一覧表示	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
		ファイルフォーマット変換 サービスの一覧表示	0	×	×
	操作ログ	サービス設定の初期化	0	0	×
		設定の表示	0	\bigcirc	×
		設定の解除(操作ログの全 削除)	0	0	×
		操作ログのエクスポート	0	0	0
		操作ログのエクスポート先 ディレクトリーの設定	0	×	×
		操作ログの削除	0	\bigcirc	0
	操作監視	サービス設定の初期化	0	×	×
		設定	0	×	×
		設定の表示	0	×	×
		状態の表示	0	×	×
		サービス設定の解除	0	×	×

表:各管理ツールの機能一覧

対象	分類	操作	管理コマンド	管理アプリケー ション デスクトップ版	管理アプリ ケーション Web版
サービス	スケジュー	スケジューラー状態変更	×	0	0
	7-	スケジューラー状態表示	×	0	0
		スケジュール一覧	×	\bigcirc	0
		実行中スケジュール一覧	×	0	0
	全文検索	エンジン連携設定	0	0	×
		エンジン連携設定の表示	0	0	×
	関連文書検	エンジン連携設定	0	\bigcirc	×
	彩	エンジン連携設定の表示	\bigcirc	\bigcirc	×
	イベントト	外部コマンド定義の追加	×	\bigcirc	×
	-תפ	外部コマンド定義の変更	×	0	×
		外部コマンド定義の表示	×	\bigcirc	×
		外部コマンド定義の削除	×	\bigcirc	×
	メール通知	設定	×	\bigcirc	×
		設定の表示	×	\bigcirc	×
		使用状況の表示	×	\bigcirc	×
	スタンプ	設定の初期化	\bigcirc	×	×
		設定の表示	\bigcirc	×	×
		設定の解除	\bigcirc	×	×
		スタンプイメージ定義の設 定	0	×	×
		スタンプイメージ定義の削 除	0	×	×
		スタンプイメージ定義の表 示	0	×	×
		スタンプイメージ定義の利 用状況の表示	0	×	×
		スタンプルール定義の設定	0	×	×
		スタンプルール定義の削除	0	×	×
		スタンプルール定義の表示	0	×	×
		スタンプルール定義の利用 状況の表示	0	×	×
		スタンプのテスト	\bigcirc	×	×

表:各管理ツールの機能一覧

対象	分類	操作	管理コマンド	管理アプリケー ション デスクトップ版	管理アプリ ケーション Web版
サービス	データベー	サイズ算出	0	\bigcirc	0
	人表祺或	作成	0	0	0
		削除	0	0	0
		一覧表示	0	0	×
	RMS	ネームスペース一覧の表示	0	0	×
		ネームスペースの追加	0	0	×
		ユーザーアトムの登録	0	0	×
		ユーザーアトムの一覧表示	0	\bigcirc	×
		ユーザー属性の登録	0	0	×
		ユーザー属性の一覧表示	0	\bigcirc	×
	運用	バックアップ対象のスト レージパスの一覧表示	0	×	×
		設定情報の出力	0	×	×
キャビネット	基本	キャビネット一覧	0	0	0
		キャビネット作成	0	0	0
		キャビネット情報の表示	0	0	0
		キャビネット削除	0	0	×
		管理者の設定	0	0	×
		クラスがないオブジェクト に関するユーザー属性の設 定	0	0	×
		クラスがないオブジェクト に関する属性制約の設定	0	×	×
		アクセス権(アクセス権、 デフォルトアクセス権、お よびアクセス権マスク)の 設定	0	0	0
		クラスがないオブジェクト に関する状態定義(状態定 義および状態遷移定義)の 設定	0	0	×
		モードの設定	0	0	0
		コンテントラベルの設定	0	0	×
		版(エディション)ラベル の設定	0	0	0
		版 (エディション) ラベル の削除	0	0	0
		インデックスキー(ユニー クキー)の設定	0	0	×

表:各管理ツールの機能一覧

対象	分類	操作	管理コマンド	管理アプリケー ション デスクトップ版	管理アプリ ケーション Web版
キャビネット	基本	インデックスキー(ユニー クキー)の削除	0	0	×
		オブジェクトタイプの設定	0	0	×
		ファイルフォーマット変換 サービスの設定	0	0	×
		キャビネット名の設定	0	\bigcirc	×
		注釈の設定	0	0	×
		操作制約の設定	0	0	×
	アカウント	設定	0	\bigcirc	×
		設定情報の表示	0	0	×
		設定の反映	0	0	×
	操作ログ	設定	0	0	×
		設定情報の表示	0	0	×
		エクスポート	0	(*1)	○ (*1)
		削除	0	(*1)	○ (*1)
	スケジュー ラー	スケジューラー状態の表示	×	0	0
		スケジューラー状態の変更	×	0	0
		スケジュールの設定	×	0	0
		スケジュールの表示	×	0	0
		スケジュールの中止	×	0	\bigcirc
	全文検索	インデックス初期化	0	0	0
		インデックス更新	\bigcirc	○ ^(*2)	○ (*2)
		インデックス最適化	0	○ ^(*2)	(*2)
		インデックス情報表示	0	\bigcirc	\bigcirc
		インデックス削除	0	0	×
	関連文書検	インデックス初期化	0	0	×
	杀	インデックス更新	0	○ (* 2)	○ (*2)
		インデックス最適化	0	○ ^(*2)	○ ^(*2)
		インデックス情報表示	0	\bigcirc	×
		インデックス削除	0	0	×
	検索イン	異常状況の回復	0	0	×
		対象メディアタイプの更新 の反映	0	×	×

表:各管理ツールの機能一覧

対象	分類	操作	管理コマンド	管理アプリケー ション デスクトップ版	管理アプリ ケーション Web版
キャビネット	ごみ箱	作成	\bigcirc	0	\bigcirc
		名前の設定	\bigcirc	0	×
		注釈の設定	\bigcirc	0	×
		ストレージパスの設定	\bigcirc	0	×
		情報の表示	\bigcirc	0	\bigcirc
		削除	\bigcirc	0	×
	スタンプ	スタンプ用変換定義の設定	\bigcirc	×	×
		スタンプ用変換定義の表示	0	×	×
		クラスがないオブジェクト に関するスタンプルール定 義の設定	0	х	×
		クラスがないオブジェクト に関するスタンプルール定 義の表示	0	х	×
	クラス	設定	×	\bigcirc	×
		クラスが設定されたオブ ジェクトに関するユーザー 属性の設定	×	0	×
		クラスが設定されたオブ ジェクトに関する属性制約 の設定	×	0	×
		クラスが設定されたオブ ジェクトに関する状態定義 (状態定義および状態遷移 定義)の設定	×	0	×
		クラスが設定されたオブ ジェクトに関するスタンプ ルール定義の設定	×	0	×
		クラスが設定されたオブ ジェクトに関する保存期間 定義の設定	×	0	×
		設定の表示	×	\bigcirc	×
		保存期間の一括更新	\bigcirc	Х	×
	タイマー	追加	×	\bigcirc	×
		編集	×	0	×
		削除	×	0	×
		実行情報の表示	×	\bigcirc	×
		設定情報の表示	×	\bigcirc	×
		状態の変更	×	0	×

表:各管理ツールの機能一覧

対象	分類	操作	管理コマンド	管理アプリケー ション デスクトップ版	管理アプリ ケーション Web版
キャビネット	タイマー イベントト	スキップリストのクリア	×	0	×
		表示	×	0	×
	リカール我	追加	×	0	×
		変更	×	0	×
		定義の順序の変更	×	0	×
		削除	×	0	×
		追加または変更の反映	×	0	×
	アーカイブ	対象の選定	0	×	×
	1木1子	開始	0	×	×
		アーカイブ保存情報の表示	0	×	×
		取り消し	0	×	×
		対象のオフライン化	0	×	×
		対象のオンライン化	0	×	×
		所在管理情報の設定	0	×	×
		所在管理情報の表示	0	×	×
		所在管理情報の削除	0	×	×
		保管場所情報の設定	0	×	×
		保管場所情報の表示	0	×	×
		保管場所情報の削除	0	×	×
	プリザーブ	定義の設定	0	×	×
	コンテント	定義の表示	0	×	×
	運用	不要なコンテント関連デー タの削除	0	(*2)	(*2)
		不要なトランザクション データの削除	0	○ (*2)	(*2)
		動的外部ドキュメントが持 つ不要なプライマリーコン テントの選定	0	(*2)	(*2)
		移動の後処理	\bigcirc	(*2)	○ ^(*2)
		分類ビューの該当件数の更 新	0	⊖ (*2)	(*2)
		整合性のチェック	\bigcirc	Х	×
		プリザーブコンテントの更 新	0	×	×
		キャビネットのバックアッ プ	0	×	×

対象	分類	操作	管理コマンド	管理アプリケー ション デスクトップ版	管理アプリ ケーション Web版
キャビネット	運用	登録オブジェクト数の出力	\bigcirc	×	×
		格納ファイルサイズの出力	0	×	×
		変換情報の出力	0	×	×
		管理操作のキャンセル	0	0	×
ドロワー	基本	ドロワー一覧	0	0	0
		ドロワー作成	\bigcirc	0	0
		ドロワー情報の表示	\bigcirc	0	0
		ドロワー削除	\bigcirc	0	×
		ドロワー名の設定	0	0	×
		注釈の設定	0	0	×
		アクセス権の設定	0	0	0
		ストレージパスの設定	0	0	×

表:各管理ツールの機能一覧

*1:サービスに対する操作ログ管理メニューとして提供します。

*2:スケジューラーを使用します。

1.3 ドロワー作成までの流れ

管理アプリケーション デスクトップ版での基本的な操作である、データベース表領域のサイズ算出から、ドロ ワー作成までの流れを説明します。



参照
 ・サービス管理者の設定については、「4.2 サービス管理者の設定」(P.55)を参照してください。
 ・キャビネット管理者の設定については、「6.6.1 キャビネット管理者を設定する」(P.106)を参照してください。

1.4 注意事項

同時実行可能数の制限について

管理アプリケーション デスクトップ版で同時に実行可能な操作の数は、操作対象に必要な管理セッションの 数によって異なります。

参照 管理セッションについては、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

管理セッションの残存について

管理操作をキャンセルするなどして、管理サーバーのプロセスを強制的に中断した場合、管理セッションが 残ってしまい管理操作が続行できなくなることがあります。

この現象が発生したときには、次の方法で対処できます。

- ・ドキュメント管理サービスのリポジトリーサーバーと、ドキュメント管理サービスのすべての管理サーバーを再起動する
- ・10 分程度経過し、再起動が完了したあとで管理操作を実行する

2 基本の操作

管理アプリケーション デスクトップ版の起動と終了手順を説明します。

2.1 管理アプリケーション デスクトップ版の起動と終了

管理アプリケーション デスクトップ版を起動する手順を説明します。

2.1.1 管理アプリケーション デスクトップ版を起動する

 デスクトップ表示されている管理アプリケーション デスクトップ版のショートカットアイコンをダブル クリックします。

[ログイン] 画面が表示されます。

ログイン				×
	ユーザー名: パスワード:			
	サービス:	gool		~
			OK	キャンセル
	(C) 2002 FU	JIFILM Business Inno	vation Corp.	

図:[ログイン] 画面

- ドキュメント管理サービスのサービス管理者、またはキャビネット管理者の[ユーザー名]、および[パ スワード]を入力します。
- 3. [サービス] で、サービスを選択します。
- **4.** [OK] をクリックします。

管理アプリケーション デスクトップ版が起動し、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション] の [サービス] タブのページが表示されます。

- 注記 Windows の機能であるユーザーアカウント制御(UAC)によって、管理アプリケーションの実行ファイル にアクセスできなかったり、起動に失敗したりすることがあります。 この場合、運用上のセキュリティーポリシーに沿って、管理者特権で管理コマンドの実行ファイルにアクセ スして実行するための措置を行う必要があります。 UAC に関する設定については『セットアップガイド』を参照してください。
- 補足 次のファイルをダブルクリックしても、「管理アプリケーション デスクトップ版」を起動できます。 {ArcSuite をインストールしたドライブ}: ¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite¥Service¥ Component¥Repository¥bin¥dradmingui.bat

2.1.2 管理アプリケーション デスクトップ版を終了する

管理アプリケーション デスクトップ版を終了する手順を説明します。

- 1.[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]で、次に示す操作を行います。
- ◆ [サービス] タブのページ、または [サーバー] タブのページを表示しているとき
- (1) [操作] メニューの [閉じる] を選択します。
- ◆ [サービス] タブのページで [サービス] アイコンを選択しているとき
- (1) [サービス操作] メニューの [閉じる] を選択します。

◆ [サービス] タブのページで [キャビネット] アイコンを選択しているとき

(1) [キャビネット操作] メニューの [閉じる] を選択します。

◆ [サービス] タブのページで [ドロワー] オブジェクトを選択しているとき

- (1) [ドロワー操作] メニューの [閉じる] を選択します。
- ◆ [サーバー] タブのページで [管理サーバー] オブジェクトを選択しているとき
- (1) [管理サーバー操作] メニューの [閉じる] を選択します。
- ◆ [サーバー] タブのページで [リポジトリーサーバー] オブジェクトを選択しているとき
- (1) [リポジトリーサーバー操作] メニューの [閉じる] を選択します。

管理アプリケーション デスクトップ版の終了を確認する画面が表示されます。 補足 画面の右上にある [x] をクリックすることでも、終了できます。

2. [はい] をクリックします。 管理アプリケーション デスクトップ版が終了します。

2.2 画面の基本操作

管理アプリケーション デスクトップ版の画面で、画面に表示されている表示項目の値が、表示スペースよりも長い場合、項目は部分的にしか表示されません。

画面の構成、および表示項目の内容を確認する手順について説明します。

2.2.1 画面の構成

[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション] 画面では、サーバー、サービス、キャビネット、および ドロワーを管理できます。

[階層ツリー表示] エリア [オブジェクトー覧表示] エリア

図:[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション] 画面

[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション] 画面の各項目について説明します。

項目	説明
メニュー	サーバー、サービス、キャビネット、およびドロワーの操作を行う場合、[オブ ジェクトー覧表示] エリアで、オブジェクトを選択し、メニューバーから該当 する操作を選択します。選択したオブジェクトによって表示される操作が異な ります。サーバーやキャビネットのモード、サーバーの状態によって実行でき ない操作は、選択できません。
[サービス] タブ	クリックすると、[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション]の[サービス]タブのページが表示されます。サービス、キャビネットやドロワーの操作を行うときにクリックします。
[サーバー] タブ	クリックすると、[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション] 画面- [サーバー] タブのページが表示されます。管理サーバー、リポジトリーサー バーの操作を行うときに選択します。
[階層ツリー表示] エリ ア	[オブジェクトー覧表示] エリアで、一覧として表示されている階層のオブジェ クトまでの、ツリー構造を表示します。ツリーのルートであるサービスは 「サービス(サービスID)」の形式で表示します。 [階層ツリー表示] エリア内のあるオブジェクトを選択すると、[オブジェクト 一覧表示] エリアに選択したオブジェクトに属するオブジェクトが表示されま す。
[オブジェクトー覧表示] エリア	 [階層ツリー表示] エリアで選択されたオブジェクトに属するオブジェクトが表示されます。 各オブジェクトについて、そのオブジェクトが持つ属性情報を表示します。 注記表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表示されます。

2.2.2 画面の表示項目

1. 部分的にしか表示されていない表示項目を選択します。

キャビネットの作成			×
全般 ユーザー属性 エディシ	ョンキー アクセス権 デフォル	トアクセス権 アクセス権マスク	状態定義 … ⟨ ∢ ▶
状態定義:			
状態	ロール	権限	追加
固定	全てのユーザーロール	属性取得権 コンテント取	編集
廃棄	全てのユーザーロール		
編集可能	全てのユーザーロール	属性取得格 一些設定権…	削除
			インポート
			エクスポート
初期状態: 編集可能	\checkmark		
		01	K キャンセル

図:部分的にしか表示項目が表示されていない画面(例)

2. 表示項目をダブルクリックします。

表示項目を確認できる画面が表示されます。この画面で表示項目を確認できます。

3 管理アプリケーション デスクトップ版で 使用するCSVファイル

管理アプリケーション デスクトップ版で使用するCSVファイルを説明します。

3.1 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイルについて

管理アプリケーション デスクトップ版の操作内容によっては、設定内容を記述したCSVファイルを使用することで、簡単に設定できる項目があります。 CSVファイルには、次のものがあります。

- ・<u>ユーザーアトム定義ファイル</u>
- ・<u>ユーザー属性定義ファイル</u>
- ・<u>アクセス権リストファイル</u>
- ・<u>デフォルトアクセス権リストファイル</u>
- ・<u>アクセス権マスクリストファイル</u>
- <u>状態定義ファイル</u>
- ・<u>状態遷移定義ファイル</u>
- ・<u>ユーザー属性リストファイル</u>
- ・<u>コンテントラベルリストファイル</u>
- ・<u>エディションキーリストファイル</u>
- ・原本性保証情報の格納パラメーターファイル
- ・
 <u>
 属性制約リストファイル
 </u>
- ・ 版ラベルリストファイル

参照 注意事項については、「<u>3.1.17 注意事項」(P.52)</u>を参照してください。

- ・<u>ユーザーインデックス定義ファイル</u>
- ・<u>オブジェクトタイプリストファイル</u>
- ・スタンプルール定義リストファイル

3.1.1 ユーザーアトム定義ファイル

「ユーザーアトム定義ファイル」は、ユーザーアトムをRMSに登録するためのCSV形式のファイルです。ユー ザー定義の状態、コンテントラベル、オブジェクトタイプについて、ユーザーアトムをRMSに登録する必要 があります。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。ユーザーアトム定義ファイルの例を 示します。

"atomName","displayName_ja","displayName_en" tokyo:issued, 承認,Issued tokyo:cadData,CAD データ,CAD Data

ユーザーアトム定義ファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:ユーザーアトム定義ファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
atomName	文字列	不可	必須	ユーザーアトム名を [{nameSpaceprefix}:{name}]の形式で指定しま す。 {name}は、英字で始まる1~64バイトの文字列で す。英字の大文字小文字は区別されません。 {nameSpaceprefix}と{name}を区切る「:」を除 き、使用できるのは、英数字と「_(アンダースコ ア)」だけです。 {nameSpaceprefix}にはRMSに登録済みのネーム スペースを指定します(1種類だけ)。
displayName_j a	文字列	可	必須	アトムの表示名(日本語)を指定します。 1~128バイトの文字列です。
displayName_ en	文字列	不可	任意	アトムの表示名(英語)を指定します。 1〜128バイトの文字列です。 日本語などのマルチバイト文字は指定できません。

エラー

ユーザーアトム定義ファイルのデータ行に、次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになりま す。

- atomName、displayName_ja、displayName_en パラメーターのどれかに、長さの制限を超える文字 列を指定した
- ・atomName パラメーターの値に重複があった
- ・atomName パラメーターに、システム定義のアトム(system:{name})を指定した
- ・RMS に登録済みの atomName パラメーターの値を指定した(管理コマンドの cannotUnique パラメー ターに「error」を指定した場合だけエラーになる)
- ・atomName パラメーターに、複数の種類の {nameSpaceprefix} を指定した

3.1.2 ユーザー属性定義ファイル

「ユーザー属性定義ファイル」は、ユーザー属性をRMSに登録するためのCSV形式のファイルです。1行めが ヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。ユーザー属性定義ファイルの例を示します。

"attrId", "dbColumnName", "displayName_ja", "displayName_en", "attrType", "length", "m ultivalued", "maxItem"

tokyo:drawingNumber,DRAWINGNUMBER,図面番号,Drawing

Number, string, 256, multivalued, 10

tokyo:cost,COST,原価,Cost,integer,,singlevalued,

ユーザー属性定義ファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
attrld	文字列	不可	必須	属性名を「{nameSpaceprefix}:{name}」の形式 で指定します。 {name}は、英字で始まる1~64バイトの文字列で す。英字の大文字小文字は区別されません。 {nameSpaceprefix}と{name}を区切る「:」を除 き、使用できるのは、英数字と「_(アンダースコ ア)」だけです。 {nameSpaceprefix}にはRMSに登録済みのネーム スペースを指定します(1種類だけ)。
dbColumnNa me	文字列	不可	必須	データベースのカラム名を指定します。 英字で始まる1~25バイトの文字列です。使用でき るのは英数字と「_(アンダースコア)」だけです。 自動的にキャピタライズされて登録されます。 データベースの予約語、または「S_」で始まる文字 列は指定できません。
displayName_ ja	文字列	可	必須	属性の表示名(日本語)を指定します。 1~128バイトの文字列です。
displayName_ en	文字列	不可	任意	属性の表示名(英語)を指定します。 1~128バイトの文字列です。 日本語などのマルチバイト文字は指定できません。
attrType	文字列		必須	 属性の型を指定します。次の中から指定します。 数値型:integer、long、double 日時型:date 文字列型:string ブール型:boolean プリンシパル型:principal URI型:uri ユーザーロール型:userRole
length	整数	_	必須 (*1)	文字列型属性の長さをバイト数で指定します。 1~3,000の整数です。
multivalued	文字列	_	必須	多値属性か単値属性かについて、どちらかを指定し ます。 ・単値型属性:singlevalued ・多値型属性:multivalued

表:ユーザー属性定義ファイルに指定するパラメーター

表:ユーザー属性定義ファイルに指定するパラメーター(続き)

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
maxItem	整数	_	必須 (*2)	多値属性が管理できる値の最大数を指定します。 2~100の整数です。

*1:属性の型が string の場合は必須です。それ以外の場合は指定しても無視されます。

*2:多値型属性の場合は必須です。それ以外の場合は指定しても無視されます。

エラー

ユーザー属性定義ファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになります。

- ・attrld、dbColumnName、displayName_ja、displayName_en パラメーターのどれかに、長さの制限 を超える文字列を指定した
- ・length パラメーターまたは maxItem パラメーターのどちらかに、範囲外の値を指定した
- ・dbColumnName パラメーターの値が重複する
- ・attrld パラメーターに、システム属性(system:{name})を指定した
- ・dbColumnName パラメーターに、データベースの予約語を指定した
- ・dbColumnName パラメーターに、「S_」で始まる文字列を指定した
- ・multivalued パラメーターに、「singlevalued」または「multivalued」以外を指定した
- ・attrType パラメーターに単値属性とすべき属性を指定したのに、multivalued パラメーターに 「multivalued」を指定した
- ・attrld パラメーターに、複数の種類の {nameSpaceprefix} を指定した

参照 データベースの予約語については、次の URL で確認してください。
 https://docs.oracle.com/cd/F19136_01/sqlrf/Oracle-SQL-Reserved-Words.html#GUID-55C49D1E-BE08-4C50-A9DD-8593EB925612
 URL は、2021 年 4 月現在のものです。

3.1.3 アクセス権リストファイル

「アクセス権リストファイル」は、キャビネットまたはドロワーに対してACLを設定するためのCSV形式の ファイルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。アクセス権リストファイル(ドロ ワー用)の例を示します。

```
"userRole","privilege"
Everyone,"getAttribute"
Others,"getAttribute"
{ユーザーロール A},"getAttribute|addChild"
{ユーザーロール B},"getAttribute|addChild|removeChild"
```

アクセス権リストファイルに指定するパラメーターは、	次のとおりです。
表:アクセス権リストファイルに指定するパラメーター	

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
userRole	文字列	不可 (*1)	必須	アクセスの主体を指定します。 ユーザーロールに対してACEを設定する場合は、ユー ザーロールをDN形式で指定します(ユーザーロール中 に「,」を含む場合は、全体を「"」で囲みます)。 Everyone ACEを設定する場合は「Everyone」、 Others ACEを設定する場合は「Others」を指定しま す。「Everyone」と「Others」は同時に指定できませ ん。また、複数指定できません。
privilege	文字列	不可	任意	アクセスの主体に設定するアクセス権を指定します。 キャビネット用のアクセス権リストファイルの場合、 getAttributeだけを指定できます。 ドロワー用のアクセス権リストファイルの場合、次の アクセス権を指定できます。複数指定する場合は、「 」 で区切ります。 getAttribute、addChild、removeChild

* 1: DN の各属性値については、半角カナおよび次に挙げる記号も使用できません。 */:;?[]|<>"#+=¥

エラー

アクセス権リストファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになります。

- ・userRole パラメーターに、RMS に登録されていないユーザーロールを指定した
- ・アクセス権として指定できない値を privilege パラメーターに指定した

・アクセス権リストファイル中に ACE がまったく指定されていない

3.1.4 デフォルトアクセス権リストファイル

「デフォルトアクセス権リストファイル」は、キャビネットまたはドロワーに対してデフォルトアクセス権を 設定するためのCSV形式のファイルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。デフォ ルトアクセス権リストファイルの例を示します。

```
"userRole", "privilege"
Everyone, "getAttribute"
Others, "getAttribute"
\{ 2 - \vec{\mathcal{P}} - \mathbf{D} - \mathcal{N} A \}, "getAttribute|addChild|removeChild"
\{ 2 - \vec{\mathcal{P}} - \mathbf{D} - \mathcal{N} B \}, "getAttribute"
```

補足 データ行に userRole パラメーターだけを指定して、privilege パラメーターを指定しないと、そのアクセス 主体にはアクセス権が一切設定されません。

参照 アクセス権の概要については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』の「アクセス権」を参照してくだ さい。

デフォルトアクセス権リストファイルに指定するパラメーターは、	次のとおりです。
表 : デフォルトアクセス権リストファイルに指定するパラメーター	-

パラメーター名	型	マルチバイ ト 文字	指定	説明
userRole	文字列	不可(*1)	必須	アクセスの主体を指定します。 ユーザーロールに対してデフォルトアクセス権を設定 する場合は、ユーザーロールをDN形式で指定(ユー ザーロール中に「,」を含む場合は、全体を「"」で囲 む)します。 Everyoneに対してデフォルトアクセス権を設定する場 合は「Everyone」です。 Othersに対してデフォルトアクセス権を設定する場合 は「Others」です。 [Everyone] と「Others」は同時に指定できません。 また、複数指定できません。
privilege	文字列	不可	任意	アクセスの主体に設定する、デフォルトアクセス権を 指定します。 次のアクセス権を指定できます。複数指定する場合は、 [] で区切ります。 getAttribute、setAttribute、addChild、 removeChild、deleteObject、changeAcl、 changeStatus、changeLock、getContent、 setContent、viewContent、printContent、 addRevision、removeRevision

*1:DNの各属性値については、半角カナおよび次に挙げる記号も使用できません。 *,/:;?[]|<>"#+=¥

補足 データ行に userRole パラメーターだけを指定して、privilege パラメーターを指定しないと、そのアクセス 主体にはデフォルトアクセス権が一切設定されません。

参照 デフォルトアクセス権の概要については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

エラー

デフォルトアクセス権リストファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーにな ります。

- ・userRole パラメーターに、RMS に登録されていないユーザーロールを指定した
- ・アクセス権として指定できない値を privilege パラメーターに指定した
- ・デフォルトアクセス権の指定を1行も含んでいない

3.1.5 アクセス権マスクリストファイル

「アクセス権マスクリストファイル」は、キャビネットに対してアクセス権マスクを設定するためのCSV形式 のファイルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。アクセス権マスクリストファイ ルの例を示します。

```
"userRole", "privilege"
Everyone, "getAttribute"
Others, "getAttribute"
{ユーザーロール A}, "getAttribute | viewContent"
 {ユーザーロール B}, "getAttribute"
```
パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
userRole	文字列	不可 ^(*1)	必須	アクセスの主体を指定します。 ユーザーロールに対してアクセス権マスクを設定する場 合は、ユーザーロールをDN形式で指定(ユーザーロー ル中に「,」を含む場合は、全体を「"」で囲む)します。 Everyoneに対してアクセス権マスクを設定する場合は [Everyone] です。 Othersに対してアクセス権マスクを設定する場合は [Others] です。 [Everyone] と [Others] は同時に指定できません。ま た、複数指定できません。
privilege	文字列	不可	任意	アクセスの主体に設定する、アクセス権マスクを指定します。 次のアクセス権を指定できます。複数指定する場合は、 [] で区切りま す。 getAttribute、setAttribute、addChild、 removeChild、deleteObject、changeAcl、 changeStatus、changeLock、getContent、 setContent、viewContent、printContent、 addRevision、removeRevision

アクセス権マスクリストファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:アクセス権マスクリストファイルに指定するパラメーター

* 1:DN の各属性値については、半角カナおよび次に挙げる記号も使用できません。 */:;?[]|<>"#+=¥

補足 データ行に userRole パラメーターだけを指定して、privilege パラメーターを指定しないと、そのアクセス 主体にはアクセス権がマスクされず、アクセス権が一切ないことになります。

参照アクセス権マスクの概要については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

エラー

アクセス権マスクリストファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになりま す。

- ・userRole パラメーターに、RMS に登録されていないユーザーロールを指定した
- ・アクセス権として指定できない値を privilege パラメーターに指定した
- ・アクセス権マスクの指定を1行も含んでいない

3.1.6 状態定義ファイル

「状態定義ファイル」は、キャビネットの状態定義を設定するためのCSV形式のファイルです。状態に対応したアクセス権マスクも設定できます。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。

状態定義ファイルの例を示します。この例では、「tokyo:issued」という1つの状態に複数のアクセス権マスクを設定しています。このような場合は、例に示すように複数行を使ってアクセス権マスクを設定します。 」: 改行

"status","userRole","privilege","initialStatus",								
system:editable,Everyone,								
"getAttribute setAttribute getContent setContent deleteObject addChild removeChi								
ld printContent viewContent changeAcl changeStatus changeLock addRevision remove								
Revision", true,								
<pre>system:fixed,Everyone, "getAttribute getContent deleteObject printContent </pre>								
viewContent changeAcl changeStatus changeLock", 🗸								
system:obsolete,,, 🚽								
tokyo:issued, {ユーザーロール A} ,"getAttribute viewContent", 」								
tokyo:issued, {ユーザーロール B}								
,"getAttribute getContent deleteObject printContent viewContent changeAcl change								
Status", J								

状態定義ファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:状態定義ファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
status	文字列	不可	必須	定義する「状態」を、「{nameSpaceprefix}:{name}」 の形式で指定します。 ユーザー定義の状態は、RMSにユーザーアトムを定義 済みのものに限ります。 ユーザー定義の状態を17個まで指定できます(キャビ ネットに設定できるのは、システム定義の状態とユー ザー定義の状態をあわせて合計20個までです)。 ユーザー定義の状態を指定する場合は、 「system:editable」、「system:fixed」、 「system:obsolete」の3つのシステム定義の状態も、 状態定義ファイルに含める必要があります。
userRole	文字列	不可 (*1)	任意	statusパラメーターで指定した状態に対応する、アク セスの主体を指定します。 ユーザーロール(DN形式。ユーザーロール中に「,」 を含む場合は、全体を「"」で囲む)、「Everyone」の どちらかを指定します。
privilege	文字列	不可	任意	statusパラメーターで指定した状態で、userRoleパラ メーターで指定したアクセスの主体に対して設定する アクセス権を指定します。 次のアクセス権を指定できます。複数指定する場合は、 [] で区切ります。 getAttribute、setAttribute、addChild、 removeChild、deleteObject、changeAcl、 changeStatus、changeLock、getContent、 setContent、viewContent、printContent、 addRevision、removeRevision

表:状態定義ファイルに指定するパラメーター(続き)

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
initialStatus (*2)	ブーリ アン	不可	任意	初期状態を指定します。 true(大文字小文字の区別なし)を指定したものが初 期状態になります。

*1:DNの各属性値については、半角カナおよび次に挙げる記号も使用できません。

*,/:;?[]|<>"#+=¥

* 2: initialStatus 列のないファイルも読み込めます。その場合は "system:editable" を初期状態として認識します。

 ・データ行に status パラメーターと userRole パラメーターを指定して、privilege パラメーターを指定しな いと、その「状態」で、そのアクセス主体にはアクセス権が一切設定されていないことになります。
 ・データ行に status パラメーターを指定して、userRole パラメーターと privilege パラメーターを指定しな いと、その「状態」で、アクセス権が一切設定されていないことになります。そのような状態のオブジェ クトは、サービスまたはキャビネットの管理者が、管理者モードで、操作を行う必要があります。

参照 状態の概要については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

エラー

状態定義ファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになります。

- ・status パラメーターに、18 個以上のユーザー定義の状態を指定した(システム定義の 3 つの状態とあわせて、状態は 20 個までしか定義できない)
- ・キャビネットを作成するときの状態定義ファイルで、status パラメーターにユーザー定義の状態を指定し、 「system:editable」、「system:fixed」、「system:obsolete」の指定を省略した(ユーザー定義の状態を 定義する場合は、「system:editable」、「system:fixed」、「system:obsolete」の3つも指定する必要が ある)
- ・作成済みのキャビネットについて状態定義を変更するときの状態定義ファイルで、すでに登録済みの状態の指定を省略した
- ・status パラメーターに、RMS に登録されていない状態(ユーザーアトム)を指定した
- ・userRole パラメーターに、RMS に登録されていないユーザーロールを指定した
- ・userRole パラメーターに、Others が指定された
- ・status、privilege パラメーターを指定したのに、userRole パラメーターを指定していない

3.1.7 状態遷移定義ファイル

「状態遷移定義ファイル」は、キャビネットに状態遷移定義を設定するためのCSV形式のファイルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。状態遷移定義ファイルの例を次に示します。

"beforeStatus","afterStatus","userRole"
system:editable,system:fixed,Everyone
system:editable,tokyo:issued,
<pre>system:editable,system:obsolete,Everyone</pre>
system:fixed,system:editable,Everyone
system:fixed,tokyo:issued, {ユーザーロールB}
system:fixed,system:obsolete,Everyone
tokyo:issued,system:editable, $\{ \neg - \neg \neg \neg B \}$
tokyo:issued,system:fixed, {ユーザーロールB}
tokyo:issued,system:obsolete, $\{ \neg - \neg \neg \neg P B \}$
tokyo:issued,system:obsolete, $\{ \neg - \psi - \upsilon - \nu c \}$
<pre>system:obsolete,system:editable,</pre>
system:obsolete,system:fixed,
system:obsolete,tokyo:issued,

状態遷移定義ファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:状態遷移定義ファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
beforeStatus	文字列	不可	必須	遷移前の状態を、「{nameSpaceprefix} : {name}」 の形式で指定します。
afterStatus	文字列	不可	必須	遷移後の状態を、「{nameSpaceprefix} : {name}」 の形式で指定します。
userRole	文字列	不可 (*1)	任意	「beforeStatusパラメーターの状態」から 「afterStatusパラメーターの状態」へ変更できるアク セスの主体を指定します。 ユーザーロール (DN形式。ユーザーロール中に「,」を 含む場合は、全体を「"」で囲む)、「Everyone」のど ちらかを指定します。

* 1:DN の各属性値については、半角カナおよび次に挙げる記号も使用できません。 */:;?[]|<>"#+=¥

たとえば、データ行に「system:editable, system:fixed, usrrole-1」と指定した場合は、「usrrole-1」の ユーザーロールが割り当てられているユーザーが、オブジェクトの状態を「editable」から「fixed」に変更 できることを意味します。

- 福足・遷移前と遷移後の状態の組み合わせを、すべて指定する必要はありません。指定を省略した組み合わせについては、状態を変更できるのは管理者モードでアクセスしたサービス管理者または操作対象キャビネット管理者だけです。
 - ・beforeStatus パラメーターと afterStatus パラメーターを指定し、userRole パラメーターを指定しない と、そのように状態を変更できるのは、管理者モードでアクセスしたサービス管理者または操作対象キャ ビネット管理者だけです。
- 参照 状態遷移の概要については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

エラー

状態遷移定義ファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになります。

- ・beforeStatus または afterStatus パラメーターに、RMS に登録されていない状態(ユーザーアトム)を 指定した
- ・userRole パラメーターに、RMS に登録されていないユーザーロールを指定した
- ・userRole パラメーターに、Others が指定された
- ・内容がすべて同じデータ行(beforeStatus、afterStatus、userRole パラメーターの指定内容の組み合わせが同じ)が複数存在する
- beforeStatus、afterStatus パラメーターの組み合わせが同じで、userRole パラメーターを指定していないデータ行が複数存在する
- ・beforeStatus、afterStatus パラメーターの組み合わせが同じで、userRole パラメーターを指定したデー タ行と指定していないデータ行が混在する
- ・状態遷移定義ファイルに指定した beforeStatus、afterStatus のうち、状態定義ファイルに指定されてお らず、かつシステムでデフォルトの「system:editable」、「system:fixed」、「system:obsolete」に も含まれないものを指定した
- ・遷移前と遷移後の状態が等しい遷移を指定した
- ・状態遷移の beforeStatus と afterStatus には、状態定義ファイルの指定を省略せず明示的に指定した場合、状態定義ファイルに指定されていないものを指定した。状態定義ファイルの指定を省略した場合、システムのデフォルトとして定義されていない状態を指定した
- ・異なる複数の状態に対して initialStatus パラメーターに true を指定した

3.1.8 ユーザー属性リストファイル

「ユーザー属性リストファイル」は、キャビネットにユーザー属性を追加するためのCSV形式のファイルで す。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。ユーザー属性リストファイルの例を示します。

"attrId" tokyo:drawingNumber tokyo:cost

多値

ユーザー属性リストファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:ユーザー属性リストファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
attrld	文字列	不可	必須	キャビネットに追加するユーザー属性名を [{nameSpaceprefix}:{name}]の形式で指定します。 英字の大文字小文字は区別されません。 ユーザー属性は、RMSに定義済みのものに限ります。 キャビネットに追加済みのユーザー属性とあわせて、 必要とするデータベースカラムの数が最大900まで指 定できます。

エラー

ユーザー属性リストファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになります。 ・attrld パラメーターに、RMS に登録されていないユーザー属性を指定した

・attrld パラメーターに、システム属性(system:{name})を指定した

すべての型

・ユーザー属性をキャビネットで追加することで、必要になるデータベースカラムの数が 900 を超える

必要なリーラハーへガラムの奴は、ユーリー周囲の種類してに実なり、人のようになりより。									
単/多	値の型	必要なカラム数							
単値	URI型	4							
単値	URI型以外	1							

2

補足 必要なデータベースカラムの数は、ユーザー属性の種類ごとに異なり、次のようになります。

3.1.9 コンテントラベルリストファイル

「コンテントラベルリストファイル」は、キャビネットにコンテントラベルを設定するためのCSV形式のファ イルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。コンテントラベルリストファイルの例 を示します。

"contentLabel", "keyword", "extension"
system:view,view,tif
system:scrap,scrap,tif
system:nail,nail,tif
system:topNail,topNail,jpg
system:print,print,tif
system:text,,
system:preserve,,
tokyo:cadData,,

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
contentLabel	文字列	不可	必須	キャビネットに設定する、セカンダリーコンテントのコ ンテントラベルを「{nameSpaceprefix} : {name}] の形式で指定します。 ユーザー定義のコンテントラベルは、RMSにユーザーア トムを登録済みのものに限ります。「primary」を指定 するとエラーになります。 デフォルトで設定される「system:primary」、 [system:view]、[system:scrap]、[system:nail]、 [system:topNail]、[system:print]、[system:text]、 [system:preserve] の8つ以外に、ユーザー定義のコ ンテントラベルを13まで指定できます(コンテントラベ ルは合計で21まで)。 キャビネットを作成するときにユーザー定義のコンテン トラベルを指定する場合は、[system:view]、 [system:scrap]、[system:nail]、[system:print]、 [system:text]、[system:preserve] の指定もコンテ ントラベルリストファイルに含める必要があります。 作成済みのキャビネットのユーザー定義のコンテントラ ベルを変更する場合は、設定済みのすべてのコンテント ラベルを改めて指定する必要があります。

コンテントラベルリストファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。

表:コンテントラベルリストファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
keyword	文字列	不可	任意	内容依存情報を更新するときに、プライマリーコンテン トからセカンダリーコンテントを生成するためのキー ワードを指定します。64バイト以内の文字列です。 指定するのは、ファイルフォーマット変換サービスの画 像変換定義のキーワードです。 キーワードが画像変換定義済みのものかどうかはチェッ クされません。 system:text、system:preserveに、keywordを指定す るとエラーになります。 補足 ・ system:viewのコンテントラベルに指定されて いる「view」キーワードは、次のキーワードに 変更できます。 - bwView 作成するインデックス画像を強制的に白黒の画 像にするときに 指定します。 - fcView サーバーにMicrosoft Officeをインストールせ ずに文書を変換 して、インデックス画像を生成するときに指定 します。 fcViewを指定する場合、「extension」には xdwまたはpdfを指定する 必要があります。 ・ system:topNailのコンテントラベルに指定さ れている「topnail」キーワードは、次のキー ワードに変更できます。 - fcTopNail サーバーにMicrosoft Officeをインストールせ ずに文書を変換し て、先頭ページサムネイル画像を生成するとき に指定します。
extension	文字列	不可	任意	内容依存情報を更新するときに生成する、セカンダリー コンテントのfileName属性値に付加するファイル拡張 子を指定します。6バイト以内の文字列です。 省略すると、プライマリーコンテントのfileName属性 値がセカンダリーコンテントのfileName属性値になり ます。 system:text、system:preserveに、extensionを指定 するとエラーになります。

表:コンテントラベルリストファイルに指定するパラメーター



参照 ・コンテントラベルの概要については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。 ・ファイルフォーマット変換サービスについては、『キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ』を参 照してください。

エラー

- コンテントラベルリストファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになります。
- ・contentLabel パラメーターに、RMS に登録されていないコンテントラベル(ユーザーアトム)を指定した
- ・contentLabel パラメーターに、21 を超えるコンテントラベルを指定した
- ・キャビネットを作成するときのコンテントラベルリストファイルで、contentLabel パラメーターにユー ザー定義のコンテントラベルを指定し、「system:view」、「system:scrap」、「system:nail」、 「system:print」、「system:text」、「system:preserve」の指定を省略した(「system:view」、 「system:scrap」、「system:nail」、「system:print」、「system:text」、「system:preserve」も指定する 必要がある)
- ・作成済みのキャビネットについてコンテントラベルを設定するときのコンテントラベルリストファイルで、
 設定済みのコンテントラベルの指定を省略した(設定済みのコンテントラベルも、改めて指定する必要がある)
- ・keyword に指定できる文字列の長さが 64 バイトを超える

3.1.10 エディションキーリストファイル

「エディションキーリストファイル」は、キャビネットにエディションキーを設定するためのCSV形式のファ イルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。エディションキーリストファイルの例 を示します。

"attrId"

tokyo:drawingNumber

エディションキーリストファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。

表:エディションキーリストファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
attrld	文字列	不可	必須	キャビネットに追加指定済みのユーザー属性名を [{nameSpaceprefix}:{name}]の形式で指定しま す。 英字の大文字小文字は区別されません。

エラー

エディションキーリストファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになりま す。

・attrld パラメーターに、RMS に登録されていないユーザー属性を指定した

・attrld パラメーターに、システム属性(system:{name})を指定した

・boolean、principal、uri、userRole 型の属性、または多値属性を指定した

・6 個を超える属性を指定した

また、ユーザー属性のバイト数によっては、データベースの制限でエラーになることがあります。

3.1.11 原本性保証情報の格納パラメーターファイル

「原本性保証情報の格納パラメーターファイル」は、証明付与情報を記載するためのCSVファイルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。データ行には、複数のエントリーを記述できます。

原本性保証情報の格納パラメーターファイルの例を次に示します。

"evidenceType","targetDocumentCount","addTimes","CRLSizeKByte","extendTimes"
SignatureAndTimeStamp,2000,1,300,2
SignatureOnly,1000,1,,
DocumentTimeStampOnly,100,1,,

原本性保証情報の格納パラメーターファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:原本性保証情報の格納パラメーターファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
evidenceType	文字列	不可	必須	 証明の付与タイプとして、次のどれかを指定します。 SignatureAndTimeStamp [署名付与]、[署名タイムスタンプ付与]、または [署名&署名タイムスタンプ付与] の場合に指定します。 SignatureOnly [署名付与] だけの場合に指定します。 DocumentTimeStampOnly [文書タイムスタンプ付与] だけの場合に指定します。 大文字小文字は区別されません。
targetDocume ntCount	数値	_	必須	付与対象の文書数を指定します。 1~2147483647までの整数を指定できます。
addTimes	数値	_	必須	証明の付与回数を指定します。 1~20までの整数を指定できます。
CRLSizeKByte	数値	_	任意	想定するCRLサイズ (KB) を指定します。 1~10000までの整数を指定できます。 evidenceTypeが「SignatureOnly」または 「DocumentTimeStampOnly」の場合、この値は無 視されます。
extendTimes	数値	_	任意	 署名の延長回数を指定します。 1~9までの整数を指定できます。 evidenceTypeが「SignatureOnly」または [DocumentTimeStampOnly」の場合、この値は無 視されます。

3.1.12 属性制約リストファイル

「属性制約リストファイル」は、属性制約(属性値の範囲の制約)を設定するためのCSV形式のファイルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。

属性制約リストファイルの例を示します。この例では、「tokyo:drawingNumber」というユーザー属性に、 最小値1、最大値1,000という2つの制約を設定しています。このような場合は、例に示すように複数行を 使って属性制約を設定します。複数の制約を設定した場合は、ORではなく、ANDの条件として評価されま す。

"attrId","facettype","facetValue"
system:name,length,256
tokyo:drawingNumber,minInclusive,1
tokyo:drawingNumber,maxInclusive,1000

属性制約リストファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:属性制約リストファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
attrld	文字列	不可	任意	属性制約を設定する対象の属性を 「{nameSpaceprefix} : {name}」の形式で指定し ます。 システム属性としては、「system:name」だけ指定 できます。
facetType	文字列	可	必須 (*1)	設定する属性制約の要素を指定します。
facetValue	文字列	不可	必須 (*2)	設定する属性制約の値を指定します。

*1: facetValue パラメーターとともに null を指定した場合は、制約が設定されません。

* 2: facetType パラメーターとともに null を指定した場合は、制約が設定されません。

facetTypeパラメーターには属性制約の要素を指定します。

表:	{facet_	_type}	の指定
----	---------	--------	-----

{facet_type}	属性制約の要素
required	必須入力制約
length	バイト数制約
maxLength	
minLength	最小バイト数制約
pattern	正規表現制約
maxInclusive	最大値制約(含む)
maxExclusive	最大値制約(含まない)
minInclusive	最小値制約(含む)
minExclusive	最小値制約(含まない)
totalDigits	最大桁数制約(含まない)
fractionDigits	小数桁数制約
enumeration	列挙値制約(「¥ 」で区切って列挙して指定する。「¥」または「 」そのものを 表す場合は「¥¥」または「 」として指定する)

表:{facet_type}の指定

{facet_type}	属性制約の要素
uriStringLength	バイト数制約(uri型属性のURI文字列が対象)
uriStringMaxLength	最大バイト数制約(uri型属性のURI文字列が対象)
uriStringMinLength	最小バイト数制約(uri型属性のURI文字列が対象)
uriStringPattern)	正規表現制約(uri型属性のラベル文字列が対象
uriLabelLength	バイト数制約(uri型属性のラベル文字列が対象)
uriLabelMaxLength	最大バイト数制約(uri型属性のラベル文字列が対象)
uriLabelMinLength	最小バイト数制約(uri型属性のラベル文字列が対象)
uriLabelPattern	正規表現制約(uri型属性のラベル文字列が対象)

 補足
 ・「最大値が 10 以下で、最小値が 1,000 以上」というような論理的に誤りのある制約であっても、エラーに はなりません。

- ・length のような長さに関する制約は、バイト数単位で設定されます。このバイト数は、UTF-8 にエンコードしたバイト数になります。
- ・1 つの属性に対して複数の制約を記述する場合は、各制約で行が作成されます。1 つの属性に関する制約 は、制約指定ファイルの中で連続していなくても指定できます。1 つの属性に対して複数の制約がある場 合、すべての制約を満たす値だけが、値として設定されます(複数の制約を設定すると、OR ではなく、 AND で評価されます)。
- ・必須入力制約は、制約の値として必須入力制約とする場合は「true」を、そうでない場合は「false」を指定します。各属性の初期状態は「false」です。name 属性に関しては、システムの必須入力属性のため、 どちらの値を指定しても無視されます。
- ・列挙値性約について複数の {value} を指定する場合には、「{value 1}|{value 2}|{value 3}」のようにデリ ミタ「|」を使って記述します。列挙値性約に指定する値の中で、「|」と「¥」を指定したい場合は、「¥|」、 「¥¥」というように、「¥」をエスケープ文字として使用します。

なお、列挙値型でない制約では、基本的には「¥」によるエスケープは不要です。ただし、正規表現型の制約では、ワイルドカードなどの特殊文字を扱う都合から、エスケープ文字を使用する必要があります。

を照
 正規表現の構文については、次の URL を参照してください。
 https://docs.oracle.com/javase/jp/7/api/java/util/regex/Pattern.html
 URL は、2021 年 4 月現在のものです。

エラー

属性制約リストファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになります。

- ・attrld パラメーターに、RMS に登録されていないユーザー属性(アトム)を指定した
- ・attrld パラメーターに、キャビネットに設定されていないユーザー属性を指定した
- ・attrld パラメーターに、「system:name」以外のシステム属性を指定した
- ・facetType パラメーターに、attrld パラメーターに指定した属性の型がサポートしない属性制約を指定した
- ・1 つの attrld パラメーターの指定に対して、同じ内容の facetType パラメーターを複数指定した
- facetType パラメーターを指定したのに、facetValue パラメーターを省略した。または、facetValue パ ラメーターを指定したのに、facetType パラメーターを指定しなかった(facetType パラメーターと facetValue パラメーターの両方を省略した場合は、その属性についての制約が設定されないことになる

3.1.13 版ラベルリストファイル

「版ラベルリストファイル」は、キャビネットに版ラベルを設定するためのCSV形式のファイルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。版ラベルリストファイルの例を示します。

"editionNumber","editionLabel" 1, イ 2, ロ 3, ハ 4, ニ 5, ホ

版ラベルリストファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:版ラベルリストファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
editionNumbe r	整数	不可	必須	版ラベルに対応する版番号を指定します。 1から始まり、最大値まで連続した指定にします(上記 の例では、1から始まり、5まで連続した版番号を指定 しています)。
editionLabel	文字列	可	必須	版ラベルを指定します。 1~64バイトの文字列です。 スペース(0x20)1文字を指定できます。nullは指定 できません。

参照版ラベルの概要については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

エラー

版ラベルリストファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーにります。

- ・editionNumber パラメーターの値が1から始まっていない。または、最大値まで連続した指定になって いない
- ・editionLabel パラメーターに、長さの制限を超える文字列を指定した
- ・editionLabel パラメーターまたは editionNumber パラメーターの値に重複がある
- ・版ラベルを設定済みのキャビネットに対して、版ラベルの設定を変更する場合、すでに使用されている版 番号よりも、editionNumberパラメーターに指定した最大の版番号が小さい

3.1.14 ユーザーインデックス定義ファイル

「ユーザーインデックス定義ファイル」は、キャビネットのインデックスキーまたはユニークキーを作成する ためのCSV形式のファイルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。ユーザーイン デックス定義ファイルの例を次に示します。

"keyId", "option", "keyList" index1,,system:name|system:mimeType index2, unique, tokyo:drawingNumber

ユーザーインデックス定義ファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。

表:ユーザーイン?	デックスに	主義ファイルに推	宦する	パラメーター
パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
keyld	文字列	不可	必須	作成するインデックスキーまたはユニークキーのIDを指定します。 英字で始まる、1~15バイトの文字列です。 使用できるのは、英数字と「_(アンダースコア)」だけ です。
option	文字列	不可	任意	ユニークキーを作成する場合は、「unique」を指定しま す。 インデックスキーを作成する場合は、次の2つのうちど ちらかを指定します。 ・文字列型属性に対して、大文字小文字を区別しないで 検索を実施したい場合には、「upper」を指定します。 ・文字列型属性に対して、大文字小文字の区別をする検 索を実施したい場合には省略します。
keyList	文字列	不可	必須	インデックスキーまたはユニークキーを構成する属性 (後述)を、「{nameSpaceprefix} : {name}」の形式 で指定します。 最大6個の属性を組み合わせて、1つのインデックス キーまたはユニークキーとして設定できます。 ユーザー属性については、キャビネットに追加されてい るものに限ります。 複数の属性を指定する場合は、「 」で区切ります。な お、指定できる属性には、制限があります。 参照 指定できる属性の制限については、「エラー」 (P.49) を参照してください。

エラー

ユーザーインデックス定義ファイルのデータ行に、次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーにな ります。

- ・keyld パラメーターに、長さが制限を超える文字列を指定したまたは、許可されない文字を指定した
- ・keyld パラメーターに、サービスに作成済みのインデックスキーまたはユニークキーと同じ値を指定した
- ・kevld パラメーターに、データベースの予約語を指定した
- ・keyList パラメーターに、7 つ以上の属性を指定した(データベースのバイト数の制限によって、指定した 属性が6つ以下でもエラーになることもある)
- ・keyList パラメーターに、キャビネットに追加されていないユーザー属性を指定した
- ・kevList パラメーターに、作成済みのインデックスキーまたはユニークキーと同じ属性を指定した ただし、エラーになるのは、インデックスキーまたはユニークキーがすべて同じ属性で構成される場合だ け keyList パラメーターに複数の属性を指定した場合は、すべての属性が同じときにだけエラーになる

- ・keyList パラメーターに、ユニークキーとして、キャビネットに登録済みのオブジェクトの属性値と矛盾する属性の組み合わせを指定した(重複した属性値がすでに登録されている)
 - 参照
 データベースの予約語については、次の URL で確認してください。
 https://docs.oracle.com/cd/F19136_01/sqlrf/Oracle-SQL-Reserved-Words.html#GUID-55C49D1E-BE08-4C50-A9DD-8593EB925612
 URL は、2021 年 4 月現在のものです。

keyList パラメーターに指定できるシステム属性

インデックスキーを作成する場合に、keyListパラメーターに指定できるシステム属性は、次のとおりです。

- ·名前 (system:name)
- ·登録者 (system:createdBy)
- ·登録日時 (system:createdOn)
- ・最終変更者 (system:modifiedBy)
- ・最終変更日時(system:modifiedOn)

ユニークキーを作成する場合にkeyListパラメーターに指定できるシステム属性は、「名前(system:name)」だけです。

keyList パラメーターに指定できるユーザー属性

インデックスキーまたはユニークキーを作成する場合にkeyListパラメーターに指定できるユーザー属性は、 次の型の属性です。

- ·integer 型
- ・ long 型
- ·double 型
- ・date 型
- ・string 型
- ・boolean 型
- ・principal 型
- ・userRole 型

多値のユーザー属性については、そのユーザー属性だけをkeyListパラメーターに指定すれば、インデックス キーを作成できます。多値のユーザー属性とそれ以外の属性を組み合わせたインデックスキーにはできません。

多値のユーザー属性はユニークキーにできません。

3.1.15 オブジェクトタイプリストファイル

「オブジェクトタイプリストファイル」は、キャビネットにユーザー定義のオブジェクトタイプを追加するためのCSV形式のファイルです。1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。オブジェクトタイ プリストファイルの例を次に示します。

"objectCategory","objectType"
system:document,tokyo:AutoMailDocument
system:folder,tokyo:AutoMailFolder

オブジェクトタイプリストファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:オブジェクトタイプリストファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
objectCategory	文字列	不可	必須	追加するオブジェクトタイプを対応づけるオブジェ クトカテゴリーを「{nameSpaceprefix}:{name}」 の形式で指定します。 なお、指定できるオブジェクトカテゴリーについて は後述します。
objectType	文字列	不可	必須	追加するオブジェクトタイプを [{nameSpaceprefix}:{name}]の形式で指定しま す。 ユーザー定義のオブジェクトタイプは、RMSにユー ザーアトムを登録済みのものに限ります。

エラー

オブジェクトタイプリストファイルのデータ行に次のような誤りがある場合、管理操作の実行はエラーになります。

- ・objectType パラメーターに、RMS に登録されていないオブジェクトタイプ(ユーザーアトム)を指定した
- ・objectType パラメーターに、システム属性(system:{name})を指定した
- ・異なるオブジェクトカテゴリーのものも含めて、objectType パラメーターに登録済みのオブジェクトタイ プを指定した

objectCategory パラメーターに指定できるオブジェクトカテゴリー

objectCategoryパラメーターに指定できるオブジェクトカテゴリーは、次のとおりです。

- \cdot system:folder
- · system:document
- system:reference
- system:hardreference

3.1.16 スタンプルール定義リストファイル

「スタンプルール定義リストファイル」は、スタンプルール定義のリストを指定するためのCSV形式のファイルです。

1行めがヘッダー行で、2行め以降がデータ行になります。データ行には、複数のエントリーを記述できます。 スタンプルール定義リストファイルの例を次に示します。

```
"stampRuleName"
applicationform_applicant
applicationform acknowledger
```

スタンプルール定義ファイルに指定するパラメーターは、次のとおりです。 表:スタンプルール定義ファイルに指定するパラメーター

パラメーター名	型	マルチバイト 文字	指定	説明
stampRuleNa me	文字列	不可	必須	削除するスタンプルール定義の名前を指定します。 64バイト以内の文字列が指定できます。 使用できるのは、英数字と「_(アンダースコア)」だ けです。

3.1.17 注意事項

管理アプリケーション デスクトップ版のためのCSVファイルを作成するときは、次の点に注意してください。

- ・改行コードだけの空白行は無視されます。
- ・スペースだけの行はスペースが値とされ、空行とされません。 ただし、キャビネットにユーザー属性を追加する(コマンド名は「addUserAttributeToCabinet」)とき に使用するファイルは、スペースだけで指定した場合は、空行として無視されます。
- ・1 行めは必ずヘッダー行にします。データは 2 行め以降に指定します。
- ・ヘッダーに対応した個数の値を、各行で必ず指定します。値がない場合も、「,,」のように、空値であることを必ず明示的に指定します。
- ・カンマ(,)を含む文字を値として指定する場合は、必ず、値全体を「"(ダブルクォーテーション)」で囲みます。

4 サービスの設定

サービスの設定を行う手順を説明します。

4.1 サービス情報の確認

- サービスの情報を確認する手順を説明します。
- サービスの情報を確認できるのはサービス管理者だけです。
 - **1.** [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 - **2.** メニューバーの [サービス操作] > [サービス情報の表示] を選択します。 [サービス情報の表示] 画面が表示されます。

サービス情報の表示	×
サービスID:	and .
サービスのバージョン:	881
表領域名:	DREPSYS
現在のモード:	メンテナンス
サービス管理者:	matricitate procerdenane, dinacoule
	ОК

図:[サービス情報の表示] 画面

- 3. 設定されているサービスの情報を確認します。
- **4.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

4.2 サービス管理者の設定

ドキュメント管理サービスのサービス管理者を設定する手順を説明します。

- サービス管理者を変更できるのは、サービス管理者だけです。
- サービスがメンテナンスモードの場合だけ、サービス管理者を設定できます。

注記
サービス管理者を変更すると、管理ツールの再起動が必要になります。

- **1.** [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- 2. サービスのモードをメンテナンスモードにします。

3. メニューバーの [サービス操作] > [サービス管理者の設定] を選択します。 [サービス管理者の設定] 画面が表示されます。

サービス管理者の設定	×
サービス管理者:	ロールの参照
ОК	キャンセル

図:[サービス管理者の設定] 画面

- **4.** [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- 5. 検索対象とする [種別] のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- 6. [キーワード] にサービス管理者に設定するユーザー名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- **7.** [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたユーザー名が表示されます。
- 8. サービス管理者に設定するユーザー名を選択します。
- 9. [OK] をクリックします。
 [サービス管理者の設定] 画面が表示されます。
 [サービス管理者] には、[ロールの選択] 画面で選択したユーザー名が DN 形式で表示されます。
- **10.**[OK] をクリックします。

ドキュメント管理サービス管理ツールの再起動をうながす画面が表示されます。

11.[はい] をクリックします。

サービス管理者が変更され、ドキュメント管理サービス管理ツールの終了を示す画面が表示されます。

12.[OK] をクリックします。

ドキュメント管理サービス管理ツールが終了します。

- 注記 [ロールの参照] で選択したユーザーロールを実行ユーザーが持たない場合、実行ユーザーはサービス管理者 としてアクセスできません。
- 補足
 「ロールの検索」で指定したユーザーや、指定したグループやユーザーロールに含まれるユーザーが管理者権
 限を持たない場合は、サービス管理者としてアクセスできません。

参照 サービスのモードをメンテナンスモードにする手順については、「4.4 サービスのモード変更」(P.58) を参照してください。

4.3 セッション情報の確認

セッション情報を確認する手順を説明します。

セッション情報を確認できるのは、サービス管理者またはキャビネット管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- 2.メニューバーの [サービス操作] > [セッション情報の表示] を選択します。

[セッション情報の表示] 画面- [管理セッション] タブのページが表示されます。

THE LOUIS AND ADDRESS				~
雪理セッション 週常	5ゼッション			
サービスに対するセッ	ッション情報:			
処理中のセッシ	ョンは存在しません			
サーバーに対するセ	ッション情報:			
サーバーID	操作種別	セッションオーナー	セッション開始時刻	IPアドレス
exat	getSessionInform	RMS管理者	2020年12月15日 …	172.27.194.222
キャビネットに対する	セッション情報:			

図:[セッション情報の表示] 画面- [管理セッション] タブのページ

- 3. 次に示す管理セッション情報を確認します。
 - ・サービスに対するセッション情報
 - ・サーバーに対するセッション情報
 - ・キャビネットに対するセッション情報

4. [通常セッション] タブを選択します。

[セッション情報の表示]画面- [通常セッション] タブのページが表示されます。

セッション情報の表示	×
管理セッション 通常セッション	
・ サービスに対するセッション情報:	
処理中のセッションは存在しません	
キャビネットに対するセッション情報	
処理中のセッションは存在しません	
0	<

図:[セッション情報の表示] 画面- [通常セッション] タブのページ

- 5. 次に示す通常セッション情報を確認します。
 - ・サービスに対するセッション情報
 - ・キャビネットに対するセッション情報
- **6.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

- 注記次の操作を実行している間は、実行中の操作が完了するまで、セッション情報は表示されません。
 - ・サービスに対する操作(情報表示、管理者の設定、モード変更、ユーザー属性・アトム・ネームスペース の追加)
 - ・キャビネットに対する操作(キャビネットの作成、データベース表領域の作成・削除)
- 補足・管理セッションで表示される操作種別は、ドキュメント管理サービス管理ツールで定義する操作種別と対応しない場合があります。これは、1つの操作を、内部的に複数の操作に分解して実行するためです。 たとえば、キャビネットのアクセス権を変更する操作であっても、タイミングによっては、キャビネットの一覧を取得する旨の操作種別が表示されることがあります。
 - ・複数のセッションを必要とする操作を行っている場合、そのセッション情報は、コピー・移動元キャビネットと、コピー・移動先のキャビネットの両方に表示されます。複数のセッションを必要とする操作には、次の操作があります。
 - -キャビネット間のコピー
 - サービス間のコピー
 - -キャビネット間の移動
 - サービス間の移動
 - ほかのキャビネットのオブジェクトを参照するリファレンスの実体化
 - ほかのサービスのオブジェクトを参照するリファレンスの実体化
 - 分類フォルダーから該当オブジェクトの一覧取得
 - 分類ビューの該当件数更新
 - 分類フォルダーの該当件数更新

4.4 サービスのモード変更

- サービスのモードを変更する手順を説明します。
- サービスのモードを設定できるのは、サービス管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [サービスのモード変更] を選択します。 [サービスのモード変更] 画面が表示されます。
- 3. サービスのモード変更に応じて、次の手順に進みます。

図:[サービスのモード変更] 画面(通常モードからメンテナンスモードに変更する場合)

- (1) [サービスのモード変更] 画面で、ラジオボタンを選択します。
- (2) [はい] をクリックします。 手順1で選択したラジオボタンの条件を満たした場合、サービスのモードがメンテナンスモードに変更 されます。
- ◆ メンテナンスモードから通常モードに変更する
- (1) [サービスのモード変更] 画面で、[はい] をクリックします。 サービスモードが通常モードに変更します。

制限事項

- ・メンテナンスモードへ移行するとき、[他のユーザーの操作を中断し、強制的にモードを設定する]を指定しても、ユーザーの操作が即時に中断されるとは限りません。内部処理の切れめで処理の中断が行われるため、場合によっては、待ち時間が数分生じる可能性があります。
- ・メンテナンスモードへ移行するとき、サービスのモードは、移行中を示す値になります(ラジオボタンで 選択した指定に応じて、通常移行中か即時移行中かを示す値が設定されます)。移行が完了する前に、管理 サーバーのプロセスを強制終了させた場合、サービスのモードが移行中を示す値のままになることがあり ます。その場合、再度、本操作で、モードを通常またはメンテナンスに設定する必要があります。
- ・メンテナンスモードへ移行するとき、完了が待たれるユーザーの操作は、サービス自体に対するものです。
 通常、頻繁に行われるキャビネット内のファイルに対する編集などの処理は、キャビネットのモード変更だけで対象とされ、この操作では対象とはなりません。
- ・[他のユーザーが操作中ならあきらめる]を指定したときにモード変更をあきらめる対象となる操作、および、[他のユーザーの操作を中断し、強制的にモードを設定する]を指定して強制的に中断させられる操作は、通常セッションを使った操作だけです。サービスに対して管理操作が実行されていた場合、モード変更操作は、キャンセル可能な操作が実行されていた場合を除き、実行中の管理操作の完了を待ってから処理されます。そのため、ほかの管理操作が実行中でも、[他のユーザーが操作中ならあきらめる]を指定したモード変更操作は即座にエラーにはならず、[他のユーザーの操作を中断し、強制的にモードを設定する]を指定したモード変更操作は、ほかの管理操作を中断しません。実行中の管理操作がキャンセル可能なものであった場合、モードの変更操作はエラーになります。

参照 キャビネットのモードを設定したときに操作できる機能については、「付録 A モード別機能一覧」(P.280) を参照してください。

5 データベース表領域の設定

データベース表領域の設定を行う手順を説明します。

5.1 データベース表領域の設定の流れ

データベース表領域の設定の流れについて説明します。



5.2 データベース表領域サイズの算出

キャビネットが必要とするデータベース表領域のサイズを算出する手順を説明します。 データベース表領域のサイズを算出できるのは、サービス管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [DB 表領域] > [DB 表領域のサイズ算出] を選択します。 [DB 表領域のサイズ算出] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。

D B 表領域のサイズ算出		×
全般 ユーザー属性 エディションキー	インデックスキー 原本性保証情報	
キャビネットラベル(用途):	標準キャビネッKpublic) ~	
登録予定件数:		
フォルダ階層限界値:	10	
	□ クラスの利用を想定する	
		5

図:[DB表領域のサイズ算出]画面- [全般] タブのページ

- 3. [キャビネットラベル(用途)] プルダウンメニューから、キャビネットの用途を選択します。
- 4. [登録予定件数] に、キャビネットの登録予定件数を 1,000 ~ 2,147,483,647 の範囲で入力します。
- 5. [フォルダ階層限界値] に、作成するキャビネットのフォルダー階層の限界値を 3 ~ 30 の範囲で入力 します。初期値は 10 です。

補足 [キャビネットラベル(用途)] プルダウンメニューで「分類キャビネット(classification)」を選択し ている場合は、[フォルダ階層限界値]が表示されません。この場合、フォルダー階層の限界値は8に 固定されます。

6. クラスを利用するための表領域を作成する場合は、[クラスの利用を想定する] にチェックマークを付けます。

チェックボックスは、作成するキャビネットが、標準キャビネット(public)の場合だけ表示されます。

参照 署名およびタイムスタンプを付与する運用の場合に、データベース表領域のサイズを算出する手順について は、『e-文書法対応 概要説明書』を参照してください。

7. [ユーザー属性] タブを選択します。

[DB 表領域のサイズ算出] 画面- [ユーザー属性] タブのページが表示されます。 作成するキャビネットが、分類キャビネットの場合は、[DB 表領域のサイズ算出] 画面- [ユーザー属 性] タブは表示されません。手順 <u>9</u> に進みます。

D B 表領域のサイズ算出				×
全般 ユーザー属性 エ	ディションキー インデックス	キー 原本性保証情報		
ユーザー属性:				
属性ID	属性名	属性型	型種別	追加
				肖山际余
				インポート
				エクスポート
				計算 閉じる

図:[DB表領域のサイズ算出]画面-[ユーザー属性] タブのページ

8. 作成するキャビネットに設定するユーザー属性を指定します。操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ ユーザー属性を追加する

- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面 [ユーザー属性] タブのページの [追加] をクリックします。 [属性 ID 選択] 画面が表示されます。
- (2) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されている属性一覧に、選択したネームスペースに登録されている属性情報が表示され ます。
- (3) 追加するユーザー属性を選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 [DB 表領域のサイズ算出] 画面 – [ユーザー属性] タブのページが表示されます。 ユーザー属性一覧に選択したユーザー属性が表示されます。
- (5) 手順 9 に進みます。

◆ ユーザー属性を削除する

- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面 [ユーザー属性] タブのページのユーザー属性一覧から、削除する ユーザー属性を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したユーザー属性が削除されます。
- (3) 手順 9 に進みます。
- ◆ ユーザー属性をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"attrId" tokyo:drawingNumber tokyo:cost

> 参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

(1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面- [ユーザー属性] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。 (2) 追加するユーザー属性の設定ファイル名を選択します。

- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているユーザー属性が、ユーザー属性一覧に追加されます。

- (5) 手順 9 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・指定したユーザー属性が必要とするデータベースの列が、900 個を超えるユーザー属性を追加する 場合に、警告メッセージが表示され、読み込みを終了します。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ ユーザー属性をファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面- [ユーザー属性] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するユーザー属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているユーザー属性が、設定ファイルとして保存されます。

- (5) 手順 9 に進みます。
- 9. [エディションキー] タブを選択します。

[DB 表領域のサイズ算出]画面- [エディションキー] タブのページが表示されます。 作成するキャビネットが、ワークスペースキャビネット、分類キャビネット、およびワークフローキャ ビネットの場合は、[DB 表領域のサイズ算出]画面- [エディションキー] タブは表示されません。手 順<u>11</u>に進みます。

1	D B 表領域のサイズ算出				×
	全般 ユーザー属性 工	ディションキー インデックス	キー 原本性保証情報		
	エディションキー:				
	属性ID	属性名	属性型	型種別	追加
					削除
					インポート
					エクスポート
					計算 閉じる

図:[DB 表領域のサイズ算出] 画面 – [エディションキー] タブのページ

10.作成するキャビネットに設定するエディションキーを指定します。操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ エディションキーを追加する

- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面 [エディションキー] タブのページの [追加] をクリックします。 [属性 ID 選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するエディションキーを選択します。

- (3) [OK] をクリックします。
 [DB 表領域のサイズ算出] 画面- [エディションキー] タブのページが表示されます。
 エディションキー一覧に選択したエディションキーが表示されます。
- (4) 手順 <u>11</u> に進みます。
- ◆ エディションキーを削除する
- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面- [エディションキー] タブのページのエディションキー一覧から、削 除するエディションキーを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したエディションキーが削除されます。
- (3) 手順 <u>11</u> に進みます。
- ◆ エディションキーをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル) の例を次に示します。

"attrId" tokyo:drawingNumber tokyo:cost

> 参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

(1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面− [エディションキー] タブのページの [インポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2) 追加するエディションキーの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングをプルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているエディションキーが、エディションキー一覧に追加されます。

- (5) 手順 <u>11</u> に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
- ◆ エディションキーをファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面− [エディションキー] タブのページの [エクスポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存するエディションキーの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングをプルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定されているエディションキーが、設定ファイルとして保存されます。
- (5) 手順 <u>11</u> に進みます。

11.[インデックスキー] タブを選択します。

[DB 表領域のサイズ算出] 画面 – [インデックスキー] タブのページが表示されます。 作成するキャビネットが、分類キャビネットの場合は、[DB 表領域のサイズ算出] 画面 – [インデック スキー] タブは表示されません。手順16に進みます。

D B 表領域のサイズ算出			×
全般 ユーザー属性 エディション	キー インデックスキー 原本性保	這正「書幸履	
インデックスキー:			
ID	ユニークキー	属性名	追加
			肖山移余
			インポート
			エクスポート
L			
		[計算 閉じる

図:[DB 表領域のサイズ算出] 画面 – 「インデックスキー」 タブのページ

12.操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ インデックスキーを追加する

- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面 【インデックスキー】 タブのページの [追加] をクリックします。 [インデックスキーの指定] 画面が表示されます。
- (2) [ID] に、設定するインデックスキーの ID を入力します。
- (3) ユニークキーの場合は、[ユニークキー] にチェックマークを付けます。
- (4) 必要に応じて、[追加]、[削除]を使って、インデックスキーを構成する属性を追加、削除します。
- (5) 必要に応じて、[上へ]、[下へ]を使用して選択した属性の順番を変更します。
- (6) [OK] をクリックします。 [DB 表領域のサイズ算出] 画面 – [インデックスキー] タブのページが表示されます。 インデックスキー一覧に選択したインデックスキーが表示されます。
- (7)手順13に進みます。
- ◆ インデックスキーを削除する
- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面 [インデックスキー] タブのページのインデックスキー一覧から、削 除するインデックスキーを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したインデックスキーが削除されます。
- (3) 手順13に進みます。
- ◆ インデックスキーをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル) の例を次に示します。

"keyId", "option", "keyList" index1,, system:name|system:mimeType index2, unique, tokyo:drawingNumber



参照 記述方法については、「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル | (P.30) を参照してください。

(1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面 – [インデックスキー] タブのページの [インポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2) 追加するインデックスキーの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているインデックスキーが、インデックスキー一覧に追加されます。

- (5) 手順 <u>13</u> に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
- ◆ インデックスキーをファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面- [インデックスキー] タブのページの [エクスポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存するインデックスキーの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているインデックスキーが、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 13 に進みます。

13.[原本性保証情報] タブを選択します。

[DB 表領域のサイズ算出]画面-[原本性保証情報] タブのページが表示されます。 作成するキャビネットが、標準キャビネット以外の場合は、[DB 表領域のサイズ算出]画面-[原本性 保証情報] タブは表示されません。手順 <u>16</u> に進みます。



図:[DB 表領域のサイズ算出]画面 – [原本性保証情報] タブのページ

14. [長期署名方式] プルダウンメニューから、長期署名方式を選択します。

- 15.手順 14 で [XAdES 方式] を選択した場合は、操作に応じて、次の手順に進みます。
 - ◆ 証明付与情報を追加する
- (1) [DB 表領域のサイズ算出]画面-[原本性保証情報]タブのページの[追加]をクリックします。 [証明付与情報の指定]画面が表示されます。

証明付与情報の指定		×
付与方法:	[署名付与]と[署名タイムスタンプ付与] >	
文書数:		件
付与回数:		
CRLサイズ:		КВ
延長回数:		
	OK	キャンセル

図:[証明付与情報の指定] 画面

- (2) [付与方法] プルダウンメニューから、証明の付与方法を選択します。
- (3) [文書数] に、証明を付与する予定の文書数を、1~2,147,483,647 までの範囲で入力します。
- (4) [付与回数] に、1 文書あたりの証明付与予定回数を、1~20 までの範囲で入力します。
- (5) 手順2 で証明の付与方法に[[署名付与] と[署名タイムスタンプ付与]] を選択した場合、[CRL サイズ] に、想定する失効リスト(CRL)のファイルサイズを、1~10,000までの範囲で入力します。
- (6) 手順2 で証明の付与方法に[[署名付与] と[署名タイムスタンプ付与]] を選択した場合、[延長回数] に、署名を延長する回数を、1~9までの範囲で入力します。
- (7) [OK] をクリックします。
- (8) 手順 <u>16</u> に進みます。
- ◆ 証明付与情報を削除する
- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面 [原本性保証情報] タブのページの証明付与情報一覧から、削除する 証明付与情報を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択した証明付与情報が削除されます。

(3) 手順 <u>16</u> に進みます。

◆ 証明付与情報をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイル(原本性保証情報の格納パラメーターファイル) を用意しておく必要があります。設定ファイル(CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"evidenceType", "targetDocumentCount", "addTimes", "CRLSizeKByte", "extendTimes"
SignatureAndTimeStamp, 2000, 1, 300, 2
SignatureOnly, 1000, 1,,
DocumentTimeStampOnly, 100, 1,,
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面 [原本性保証情報] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) [参照] をクリックして、追加する原本性保証情報の格納パラメーターファイルを選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている証明付与情報が、長期署名方式の一覧に追加されます。

(5) 手順 16 に進みます。

補足 証明付与対象の総文書数が、[全般] タブで指定する登録予定件数の値を超える場合は、警告メッセージが表示され、読み込みを終了します。

◆ 証明付与情報をファイルに保存する(エクスポート)

(1) [DB 表領域のサイズ算出] 画面 – [原本性保証情報] タブのページの [エクスポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存する原本性保証情報の格納パラメーターファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されている証明付与情報が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 16 に進みます。

16.[計算] をクリックします。

設定した内容のデータベース表領域のサイズの計算が開始されます。 計算が終了すると、[DB 表領域のサイズ算出]画面が表示されます。

17.計算されたデータベース表領域サイズを確認します。

18.[OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション]の[サービス]タブのページに戻ります。

- 注記 · データベースに作成可能なデータベース表領域の最大サイズは 32 GB です。32 GB を超えている場合に は、32 GB の表領域を作成したあとで、不足分を、別途、データベースの管理機能を用いて追加する必要 があります。
 - ・算出された値は、平均的な大きさの属性が設定された場合に対して約4分の1に相当する値です。予定登録件数までのオブジェクトが、必ず登録できることを保証する値ではないことに注意してください。

5.3 データベース表領域情報の確認

キャビネットで使用しているデータベース表領域の情報を確認する手順を説明します。 データベース表領域の情報を表示できるのは、サービス管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [DB 表領域] > [DB 表領域の情報表示] を選択します。 [DB 表領域の情報表示] 画面が表示されます。

DB表領域の情報	表示:					
表領域名	キャビネットID	サイズ(KB)	使用量(KB)	使用率(%)		データファイル
CMESSAGE_C	CMESSAGE_C	51200	27200		53	
COLLABO_CA	COLLABO_CA	1024000	433216		42	
SEKKEIBU	Cabinet1	143360	39808		27	
WORKFLOW_C.	WORKFLOW_C	1024000	434496		42	
						OK
						ОК

- 図:[DB 表領域の情報表示] 画面
- 3. データベース表領域の情報を確認します。
 - ・[表領域名] キャビネットが使用しているデータベース表領域名が表示されます。
 - ・[キャビネット ID] サービスに含まれるキャビネット ID が表示されます。
 - ・ [サイズ (KB)] 表領域のサイズが KB 単位で表示されます。
 - ・[使用量 (KB)]
 表領域の使用量が KB 単位で表示されます。
 - ・[使用率(%)] 表領域の使用率が%単位で表示されます。
 - 補足 列のタイトル(表領域名、キャビネット ID など)をクリックすると、クリックした項目の昇順で表示 順序を変更できます。

4. 表領域が使用しているデータファイルの情報を確認する場合は、確認する表領域を選択して[データファイル]をクリックします。

[データファイル情報表示] 画面が表示されます。

_							
Ť	-タファイル情報表示	7					×
	表領域名:CMESS	SAGE_CAB1					
	ゴ 、 カラー / J. の(まま)	e==.					
	テーダノアイルの消費料	श्वरणः:					
	データファイル名	サイズ(KB)	増分(KB)	最大サイズ(KB)	使用量(KB)	使用率(%)	ディレクトリ
	CMESSAGE_C	51200	8	102400	27200	53	C:¥DATABAS
							ОК

図:[データファイル情報表示] 画面

- 5. データベース表領域のデータファイルの情報を確認します。
 - ・[データファイル名] 選択したデータベース表領域が使用しているデータファイル名が表示されます。
 - ・[サイズ (KB)] データファイルのサイズが KB 単位で表示されます。
 - ・ [増分 (KB)] データファイルの拡張サイズが KB 単位で表示されます。
 - ・[最大サイズ (KB)] データファイルの最大サイズが KB 単位で表示されます。
 - ・[使用量 (KB)]
 データファイルの使用量が KB 単位で表示されます。
 - ・[使用率(%)] データファイルの使用率が%単位で表示されます。
 - ・[ディレクトリ] データファイルが格納されているディレクトリーが表示されます。
 - 補足 列のタイトル(データファイル名、サイズ(KB)など)をクリックすると、クリックした項目の昇順 または降順で表示順序を変更できます。

5.4 データベース表領域の作成

データベース表領域の作成手順を説明します。 データベース表領域を作成できるのは、サービス管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [DB 表領域] > [DB 表領域の作成] を選択します。

DB表領域の作成		×
表領域名:		
表領域ファイルサイズ:	50	мв
表領域データファイルパス:		
		OK キャンセル

- 図:[DB 表領域の作成] 画面
- **3.** [表領域名] に、表領域名を 30 バイト以内で入力します。英字で始まる文字列で、英数字および「_ (アンダースコア)」が使用できます。
 - 注記 「SYS_」で始まる文字列、またはデータベースの予約語になっている文字列は指定できません。
 - 参照
 データベースの予約語については、次の URL で確認してください。
 https://docs.oracle.com/cd/F19136_01/sqlrf/Oracle-SQL-Reserved-Words.html#GUID 55C49D1E-BE08-4C50-A9DD-8593EB925612
 URL は、2021 年 4 月現在のものです。
- 4. [表領域ファイルサイズ] に、表領域のサイズを 20 ~ 32,000 の範囲で入力します。初期値は 50 です。
 - 参照 データベースの表領域のサイズを算出する手順は、「<u>5.2 データベース表領域サイズの算出」(P.61)</u> を参照してください。
- 5. [表領域データファイルパス] に、作成するファイルのパスを入力します。

入力を省略すると「{表領域名}.dbf」を指定したものとみなされます。

相対パスはデフォルトのデータファイル配置先(サービス用表領域のデータファイルが格納されている ディレクトリー)を基準とします。

- 注記 データファイルを相対形式のパスで指定し、かつデータファイルの拡張子が「dbf」の場合(データ ファイルの指定を省略した場合も同じ)、指定したファイルが存在した場合、そのファイルをデータ ファイルとして利用します。このとき、データベースが指定されたファイルを再利用可能と判断した 場合、もともとデータファイルとして利用していたファイル以外の場合でも、既存のファイルを上書 きして表領域を作成するので、ご注意ください。
- オレクトリー名として使用できる文字は、英数字、「.(ピリオド)」、スペース、
 「_(アンダースコア)」だけです。
 表領域データファイルパスのデフォルト値は、次のとおりです。
 {データベースをインストールしたドライブ}:*Database*datafiles* {SID}
 なお、{SID}は、データベースをインストールしたときに、「データベースのサーバー情報]画面で
 「グローバルデータベース名」に入力した値から、最初の「.(ピリオド)」までの値です。「.(ピリ
 オド)」がない場合は、入力したグローバルデータベース名がそのまま表示されます。
 たとえば「server1.example.com」と入力すると、{SID}には「SERVER1」と表示されます。
- **6.** [OK] をクリックします。

データベース表領域が作成されます。

- 注記・作成した表領域は、作成時の2倍のサイズまで自動で拡張されるよう設定されています。
 - ・管理アプリケーション デスクトップ版では、データベース表領域の作成と削除だけできます。 データファイルの追加や表領域のサイズの変更は、データベース表領域管理ツールでできます。

参照 データベース表領域管理ツールについては、『セットアップガイド』を参照してください。

5.5 データベース表領域の削除

データベース表領域を削除する手順を説明します。 データベース表領域を削除できるのは、サービス管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [DB 表領域] > [DB 表領域の削除] を選択します。 [DB 表領域の削除] 画面が表示されます。

DB表領域の削除	×
表領域名:	
	OK キャンセル

- 図:[DB表領域の削除] 画面
- 3. [表領域名] に、削除する表領域名を入力します。
- **4.** [OK] をクリックします。

データベース表領域の削除を確認する画面が表示されます。

5. [はい] をクリックします。

データベース表領域が削除され、処理結果を確認する画面が表示されます。

補足 処理結果を確認する画面に表示される dbf ファイルを削除する必要があります。

6. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

注記 管理ツールで表領域を削除した直後に OS ファイルシステムのデータファイルを削除しようとすると、 データファイルが使用中のため削除できないことがあります。この場合は、しばらく待つと削除可能 になります。 ただちにデータファイルを削除する場合は、ドキュメント管理サービスを含め、データベースを使用 しているすべてのサービスを停止して、データベースを再起動してください。
6 キャビネットの設定

キャビネットの設定を行う手順を説明します。

6.1 キャビネットとは

キャビネットとは、サービスの下の階層に位置するオブジェクトです。

文書管理室に設置されている、引き出し付きの書類整理棚と考えることができます。部屋の中に複数の棚を置くように、1つのサービス内に複数のキャビネットを設置できます。



図:サービスとキャビネットの関係

また、キャビネットは、ドキュメント管理サービスの最も基本的な管理単位です。

キャビネットごとに、「誰のアクセスを許可するか」、「どのような形でドキュメントのバージョンを管理するか」、 「どの種類の検索エンジンのインデックスを使用するか」などを設定できます。

ドキュメント管理サービスでは、1つのキャビネットに対して、1つのデータベース表領域を使用します。

キャビネットを作成するのは、サービス管理者です。サービス管理者は、キャビネットに関する操作を行う権限を 持ちます。

サービス管理者は、キャビネット作成後に「キャビネット管理者」のユーザーロールを設定することで、キャビ ネットの管理操作を、キャビネット管理者に任せることができます。

補足・キャビネットを管理するのは、サービス管理者によって設定された「キャビネット管理者」です。なお、 サービス管理者自身がキャビネットも管理できます。

・キャビネットは、サービスの直下に位置します。キャビネットの直下には、ドロワーが存在します。

6.2 キャビネットの設定の流れ

キャビネットの設定の流れについて説明します。



6.3 [キャビネットの作成] 画面について

[キャビネットの作成] 画面を表示する操作、および [キャビネットの作成] 画面の構成について説明します。

参照 署名およびタイムスタンプを付与する運用の場合に、データベース表領域のサイズを算出する手順について は、『e- 文書法対応 概要説明書』を参照してください。

6.3.1 [キャビネットの作成] 画面を表示する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [キャビネットの作成] を選択します。 作成するキャビネットの用途を選択する画面が表示されます。



図:作成するキャビネットの用途を選択する画面

- 3. [キャビネットラベル] のラジオボタンを選択します。
 - ・標準キャビネット ドキュメントスペースを使用するときに選択します。
 - ワークスペースキャビネット
 ドキュメントスペースでワークスペースを使用するときに選択します。
 - ・統合検索キャビネット 統合検索サービスを使用するときに選択します。
 - ・分類キャビネット ドキュメントスペースで分類ビューを使用するときに選択します。
 - ワークフローキャビネット
 通常は選択しません。

4. [OK] をクリックします。

[キャビネットの作成] 画面- [全般] タブのページが表示されます。

キャビネットの作成	×
全般 ユーザー属性 エディションキー	アクセス権 デフォルトアクセス権 アクセス権マスク 状態定義 … ()
5. C	
ትየርብሃሶች:	
キャビネットID:	
キャビネットラベル(用途):	標準キャビネット(public)
登録予定件数:	件
表領域名:	
ファイルフォーマット変換サービス:	~
フォルダ階層限界値:	10
キャビネット管理者:	ロールの参照
注釈:	
操作制約パターンラベル:	制約なし ~
長期署名方式:	XAdES方式 ~
	OK キャンセル

図:[キャビネットの作成] 画面- [全般] タブのページ

6.3.2 [キャビネットの作成] 画面の構成

[キャビネットの作成] 画面では、キャビネットを作成できます。

キャビネットの作成				×
全般 ユーザー属性 エディションキー	アクセス権	デフォルトアクセス権	アクセス権マスク	状態定義 … ⟨▼ ▶
キャビネット名:				
キャビネットID:				
キャビネットラベル(用途):	標準キ	ャビネット(public)		
登録予定件数:			件	
表領域名:				
ファイルフォーマット変換サービス:			\sim	
フォルダ階層限界値:	10			
キャビネット管理者:	onnad	ninishator, sunusan	<u>۵</u>	ールの参照
注釈:				
操作制約パターンラベル:	制約加	≩U	\sim	
長期署名方式:	XAdE	S方式	\sim	
			0	IK キャンセル

図:[キャビネットの作成] 画面

[キャビネットの作成] 画面には、選択したタブに応じて次のページが表示されます。

- ・[キャビネットの作成] 画面- [全般] タブのページ
- ・[キャビネットの作成] 画面- [ユーザー属性] タブのページ
- ・[キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページ
- ・[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページ
- ・[キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページ
- ・[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページ
- ・[キャビネットの作成] 画面- [状態定義] タブのページ
- ・[キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページ
- ・[キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページ

 補足
 ・ワークスペースキャビネット、分類キャビネット、ワークフローキャビネットを作成する場合、[キャビ ネットの作成] 画面 - [エディションキー] タブは、表示されません。
 ・分類キャビネットを作成する場合、[キャビネットの作成] 画面 - [ユーザー属性] タブは、表示されません。

[キャビネットの作成] 画面の共通項目について説明します。

項目	説明
[OK]	クリックすると、入力した設定でキャビネットが作成され、[キャビネットの作成]画 面- [全般] タブのページが表示されます。 分類キャビネット、およびワークスペースキャビネット以外でエディションキーが入 力されていない場合は、[キャビネットの作成(エディション管理の確認)]画面を表 示します。

6.3.3 [キャビネットの作成] 画面 – [全般] タブのページの構成

[キャビネットの作成] 画面- [全般] タブのページでは、作成するキャビネットの概要を設定できます。

キャビネットの作成		×
全般 ユーザー属性 エディションキー	アクセス権 デフォルトアクセス権 アクセス権マスク 状態定義	}∢⊧⊧
キャビネット名:		
キャビネットID:		
キャビネットラベル(用途):	標準キャビネット(public)	
登録予定件数:	件	
表領域名:		
ファイルフォーマット変換サービス:	~	
フォルダ階層限界値:	10	
キャビネット管理者:	ロールの参照	
注釈:		
操作制約パターンラベル:	制約なし ~	
長期署名方式:	XAdES方式 ~	
	OK	216

図:[キャビネットの作成] 画面- [全般] タブのページ

項目	説明
キャビネット名	作成するキャビネットの名前を、384バイト以内で入力します。
キャビネットID	作成するキャビネットIDを、64バイト以内で入力します。指定したキャビネット IDがサービス中に存在しているキャビネットと同じキャビネットIDかどうか チェックするときには、大文字小文字の区別はされません。たとえば [cabinetA] というIDのキャビネットが存在している状態では、「CabinetA」と いうIDのキャビネットを作成できません。
キャビネットラベル (用途)	作成するキャビネットの用途が表示されています。
登録予定件数	登録予定件数を、1,000~2,147,483,647の範囲で入力します。
表領域名	作成するキャビネットが使用する表領域名を選択します。すでに存在している表 領域を選択します。
	補足 ・データベースのデフォルトの表領域名(SYSTEM、TOOLS、RBS、 TEMP、USERS、INDX)は指定できません。
	 ドキュメント管理サービスをインストールしたときに、サービスのシステム情報を保存するために作成された表領域は指定できません。
	参照 新規に表領域を作成する方法については、「5.4 データベース表領域の作成」 (P.71)を参照してください。
ファイルフォーマット	フォーマット変換サービスを使用する場合は、サービス名を選択します。
変換リーヒス	 補足 ・作成するキャビネットが、分類キャビネット、およびメッセージ通知キャビネットの場合は、ファイルフォーマット変換サービスを使用できません。 ・ドキュメント管理サービスがデフォルトとして使用しているネームスペースに登録されているファイルフォーマット変換サービスだけ指定できます。 デフォルト以外のネームスペースに存在するファイルフォーマット変換サービスは指定できません。

項目	説明
フォルダー階層限界値	フォルダー階層の限界値(フォルダーを階層構造で管理できる階層の深さ)を、 3~30の範囲で入力します。初期値は10です。
	注記 作成時に設定されたフォルダー階層の限界値は、あとから変更できません。
	補足 作成するキャビネットが、分類キャビネットの場合は、フォルダー階層の限 界値を入力できません。この場合、フォルダー階層の限界値は8に固定されま す。
キャビネット管理者	[ロールの参照]をクリックして表示される画面から、キャビネット管理者を選択します。初期値はサービスの管理者名が表示されています。キャビネット管理者は、512バイト以内のDN形式の文字列です。
注釈	キャビネットの注釈を入力します。 最大 512 バイト以内の値を入力できます。
操作制約パターンラベ ル	作成するキャビネットが、標準キャビネット(public)の場合だけ表示されます。 「制約なし」または「e文書法対応」から選択します。初期値は「制約なし」で す。
長期署名方式	原本性保証オプションがインストールされていて、作成するキャビネットが標準 キャビネット(public)の場合だけ表示されます。 「XAdES方式」または「PAdES方式」を選択できます。初期値は「XAdES方式」 です。

6.3.4 [キャビネットの作成] 画面- [ユーザー属性] タブのページ の構成

[キャビネットの作成] 画面- [ユーザー属性] タブのページでは、作成するキャビネットのユーザー属性を 設定できます。

作成するキャビネットが、分類キャビネットの場合は、[キャビネットの作成] 画面 - [ユーザー属性] タブ は表示されません。

-	キャビネットの作成						×
ĺ	全般 ユーザー属性	エディションキー	アクセス権	デフォルトアクセス	、権 アクセス権マスク	状態定義	
	ユーザー属性:						
	属性ID	属性名	属性	型	型種別	追	bo
l						削	除
l						インボ	<u>۱</u> -۲
l						エクスパ	ポート
L							

図:[キャビネットの作成] 画面- [ユーザー属性] タブのページ

[キャビネットの作成] 画面- [ユーザー属性] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[ユーザー属性] 表示エ リア	キャビネットに設定するユーザー属性のメニューが表示されます。 注記表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表示されます。
[追加]	クリックすると、[属性IDの選択] 画面が表示されます。ユーザー属性にする属 性を選択します。 一覧として表示される属性IDが必要とするカラムの数の合計が基準値(900) を超えていた場合、[追加] は無効になります。
[削除]	[ユーザー属性]表示エリアに表示されているユーザー属性を選択して、[削除] をクリックすると、選択したユーザー属性が削除されます。 ユーザー属性が1つも設定されていない場合、[削除] は無効になります。
[インポート]	ユーザー属性をファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれたユー ザー属性は、[ユーザー属性]表示エリアに表示されます。 ユーザー属性が900以上設定されている場合、[インポート] は無効になります 。
[エクスポート]	ユーザー属性がファイルに保存されます。 ユーザー属性が1つも設定されていない場合、[エクスポート] は無効になりま す。

6.3.5 [キャビネットの作成] 画面 – [エディションキー] タブの ページの構成

[キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページでは、作成するキャビネットのエディションキーを設定できます。

作成するキャビネットが、ワークスペースキャビネット、分類キャビネット、およびワークフローキャビネットの場合は、[キャビネットの作成]画面- [エディションキー] タブは表示されません。

1	キャビネ	ットの作成						×
ĺ	全般	ユーザー属性	エディションキー	アクセス権	デフォルトアクセス権	を アクセス権マスク	状態定義	
	エディ	ションキー:						
	属性I	D	属性名	属性	코 코	型種別	追加	00
							削凈	涂
							インボ	:k
							エクスァ	*

図:[キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページ

[キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[エディションキー] 表 示エリア	キャビネットに設定するエディションキーのメニューが表示されます。 注記 表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その 場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表 示されます。
[追加]	クリックすると、[属性IDの選択] 画面が表示されます。エディションキーにす る属性を選択します。 エディションキーを6個以上設定している場合、[追加] は無効になります。
[削除]	[エディションキー]表示エリアに表示されているエディションキーを選択して、 [削除]をクリックすると、選択したエディションキーが削除されます。 エディションキーが1つも設定されていない場合、[削除]は無効になります。
[インポート]	エディションキーをファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれたエ ディションキーは、[エディションキー]表示エリアに表示されます。 エディションキーを6個以上設定している場合、[インポート]は無効になりま す。
[エクスポート]	エディションキーがファイルに保存されます。 「エディションキー」が1つも設定されていない場合、[エクスポート] は無効に なります。

6.3.6 [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページの 構成

[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページでは、作成するキャビネットのアクセス権を設定できます。

3	キャビネットの作成 ×					
[全般 ユーザー属性 エディ	フョンキー アクセス権 デフォル	トアクセス権	アクセス権マスク	状態定義	
	アクセス権:					
0-1J		DN	権限		追加	
	全てのユーザーロール	everyone 属性取得権		編集		
					肖耶	涂
					インボ	¦−⊦
					エクスァ	*

図:[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページ

[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[アクセス権] 表示エリア	キャビネットに設定する「アクセス権」のメニューが表示されます。
	 補足・「アクセス権」の初期値は、すべてのユーザー(Everyone)にすべての権限を設定した状態です。 ・表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表示されます。確認したら、[OK]をクリックしてください。
[追加]	クリックすると、[アクセス権の指定] 画面が表示されます。追加するロー ルと権限を指定してアクセス権を追加します。
[編集]	[アクセス権]表示エリアに表示されている属性を選択して、[編集]をク リックすると、[アクセス権の編集] 画面が表示されます。 アクセス権が1つも設定されていない場合、[編集] は無効になります。
[削除]	[アクセス権]表示エリアに表示されているアクセス権を選択して、[削除] をクリックすると、選択したアクセス権が削除されます。 アクセス権が1つも設定されていない場合、[削除] は無効になります。
[インポート]	アクセス権をファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれたアク セス権は、[アクセス権]表示エリアに表示されます。
[エクスポート]	アクセス権がファイルに保存されます。 アクセス権が1つも設定されていない場合、[エクスポート] は無効になり ます。

6.3.7 [キャビネットの作成] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブ のページの構成

[キャビネットの作成] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページでは、作成するキャビネットのデフォルトアクセス権を設定できます。



図:[キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページ

[キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[デフォルトアクセス権] 表示エリア	キャビネットに設定する「デフォルトアクセス権」のメニューが表示されます。 「デフォルトアクセス権」の初期値は、すべてのユーザー(Everyone)にすべ ての権限を設定した状態です。
	注記 表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表示されます。
[追加]	クリックすると、[アクセス権の指定] 画面が表示されます。追加するロールと 権限を指定してデフォルトアクセス権を追加します。
[編集]	[デフォルトアクセス権]表示エリアに表示されている属性を選択して、[編集] をクリックすると、[アクセス権の編集] 画面が表示されます。 デフォルトアクセス権が1つも設定されていない場合、[編集] は無効になりま す。
[削除]	[デフォルトアクセス権]表示エリアに表示されているデフォルトアクセス権を 選択して、[削除]をクリックすると、選択したデフォルトアクセス権が削除さ れます。デフォルトアクセス権が1つも設定されていない場合、[削除] は無効 になります。
[インポート]	デフォルトアクセス権をファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれ たデフォルトアクセス権は、[デフォルトアクセス権]表示エリアに表示されま す。
[エクスポート]	デフォルトアクセス権がファイルに保存されます。デフォルトアクセス権が1 つも設定されていない場合、[エクスポート]は無効になります。

6.3.8 [キャビネットの作成] 画面 – [アクセス権マスク] タブの ページの構成

[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページでは、作成するキャビネットのアクセス権 マスクを設定できます。

种心	ネットの作成				Х
全般	ミューザー属性 エラ	ディションキー アク	セス権 デフォルトアクセス権	アクセス権マスク	状態定義 … ⟨ ▼ ▶
アク	セス権マスク:				
0-	·ll	DN	権限		追加
全7	このユーザーロール	everyone	属性取得	権 属性設定権…	編集
					肖川除余
					インポート
					エクスポート

図:[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページ

[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[アクセス権マスク] 表 示エリア	キャビネットに設定する「アクセス権マスク」のメニューが表示されます。 「アクセス権マスク」の初期値は、すべてのユーザー(Everyone)にすべての 権限を設定した状態です。
	注記 表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表示されます。
[追加]	クリックすると、[アクセス権の指定] 画面が表示されます。追加するロールと 権限を指定してアクセス権マスクを追加します。
[編集]	[アクセス権マスク]表示エリアに表示されている属性を選択して、[編集]を クリックすると、[アクセス権の編集] 画面が表示されます。 アクセス権マスクが1つも設定されていない場合、[編集] は無効になります。
[削除]	[アクセス権マスク]表示エリアに表示されているアクセス権マスクを選択して、[削除]をクリックすると、選択したアクセス権マスクが削除されます。アクセス権マスクが1つも設定されていない場合、[削除]は無効になります。
[インポート]	アクセス権マスクをファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれたア クセス権マスクは、[アクセス権マスク]表示エリアに表示されます。
[エクスポート]	アクセス権マスクがファイルに保存されます。アクセス権マスクが1つも設定 されていない場合、[エクスポート] は無効になります。

6.3.9 [キャビネットの作成] 画面 – [状態定義] タブのページの構成

[キャビネットの作成] 画面 – [状態定義] タブのページでは、作成するキャビネットの状態定義を設定できます。

キャビネットの作成				×
全般 ユーザー属性 エディジ	リョンキー アクセス権	デフォルトアクセス権	アクセス権マスク	状態定義 🕢 🕨
状態定義:				
状態	ロール	権限		追加
固定	全てのユーザーロール	レ 属性取得権	産 コンテント取	編集
廃棄	全てのユーザーローノ	۱ <u> </u>		10.024
編集可能	全てのユーザーロー/	レート 属性取得権	윹 属性設定権…	自功策
				インポート
				エクスポート
				122200
]
初期状態: 編集可能	~			
			01	(キャンセル

図:[キャビネットの作成] 画面- [状態定義] タブのページ

[キャビネットの作成] 画面- [状態定義] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[初期状態]プルダウン メニュー	状態の一覧から初期状態を選択します。一覧には [状態定義] 表示エリアに追 加された状態を表示名で表示します。
[状態定義] 表示エリア	キャビネットに設定する「状態定義」のメニューが表示されます。 「状態定義」の初期値は、すべてのユーザー(Everyone)に対して決まった値 の権限が付 加されます。 注記 表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。そ の場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウ に表示されます。
[追加]	クリックすると、[状態定義の指定] 画面が表示されます。追加する設定内容を 指定して状態定義を追加します。 システムでの定義分も含めて最大20個設定できます。
[編集]	[状態定義]表示エリアに表示されている状態定義を選択して、[編集]をクリックすると、選択した状態定義の[状態定義の編集] 画面が表示されます。 状態定義が1つも設定されていない場合、[編集] は無効になります。
[削除]	[状態定義] 表示エリアに表示されている状態定義を選択して、[削除] をク リックすると、選択した状態定義が削除されます。 状態定義が1つも設定されていない場合、[削除] は無効になります。 注記 [初期状態] に設定されている状態を削除しようとした場合、警告メッセー ジが表示されます。
[インポート]	状態定義をファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれた状態定義は、 [状態定義] 表示エリアに表示されます。
[エクスポート]	状態定義がファイルに保存されます。 状態定義が1つも設定されていない場合、[エクスポート] は無効になります。

6.3.10 [キャビネットの作成] 画面 – [状態遷移定義] タブのページ の構成

[キャビネットの作成] 画面 – [状態遷移定義] タブのページでは、作成するキャビネットの状態遷移定義を 設定できます。

キャビネットの作成			×
アクセス権 デフォルトアクセス権	アクセス権マスク	状態定義 状態連移定義 コンテントラ	 Image: A (1) Image
状態遷移定義:			
遷移前の状態	遷移後の状態	対象のロール	追加
固定	編集可能	全てのユーザーロール	編集
固定	廃棄	全てのユーザーロール	21124
廃棄	編集可能	全てのユーザーロール	則际
<u> </u>	固定	<u>全(のユーサーロール</u>	インポート
· 編朱 1 記 (行生) 1 化	回走	エレのユーザーロール	
御未り記	/光林	1 ± (0) ± - 0 = 0 = 1	エクスボート

図:[キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページ

[キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[状態遷移定義] 表示工	キャビネットに設定する「状態遷移定義」のメニューが表示されます。
עע	注記 表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表示されます。
[追加]	クリックすると、[状態遷移定義の指定]画面が表示されます。追加する設定内 容を指定して状態遷移定義を追加します。[状態定義]タブでの状態の組み合わ せが、すべて設定されている場合、[追加]は無効になります。
[編集]	[状態遷移定義]表示エリアに表示されている状態遷移定義を選択して、[編集] をクリックすると、[状態遷移定義の編集] 画面が表示されます。 状態遷移定義が1つも設定されていない場合、[編集] は無効になります。
[削除]	[状態遷移定義]表示エリアに表示されている状態遷移定義を選択して、[削除] をクリックすると、選択した状態遷移定義が削除されます。状態遷移定義が1つ も設定されていない場合、[削除] は無効になります。
[インポート]	状態遷移定義をファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれた状態遷 移定義は、[状態遷移定義]表示エリアに表示されます。 [状態定義] タブでの状態の組み合わせが、すべて設定されている場合、[イン ポート] は無効になります。
[エクスポート]	状態遷移定義がファイルに保存されます。状態遷移定義が1つも設定されてい ない場合、[エクスポート] は無効になります。

6.3.11 [キャビネットの作成] 画面 – [コンテントラベル] タブの ページの構成

[キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページでは、作成するキャビネットのコンテント ラベルを設定できます。

キャビネットの作成 ×						
アクセス権 デフォルトアクセ	2ス権 アクセス権マスク 状	態定義 状態速移定義 コン				
コンテントラベル:	コンテントラベル:					
ラベル名	キーワード	ファイル拡張子	追加			
プライマリー			編集			
インデックス	view	tif				
部分	scrap	tif	肖儿除			
全ページサムネイル	nail	tif	A the second			
プリント	print	tif	12/0 1			
テキスト			エクスポート			
先頭ページサムネイル	topNail	ipe				

図:[キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページ

[キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[コンテントラベル] 表 示エリア	キャビネットに設定する「コンテントラベル」のメニューが表示されます。 注記表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表示されます。
[追加]	クリックすると、[コンテントラベルの指定] 画面が表示されます。追加する設定内容を指定してコンテントラベルを追加します。 注記 ・コンテントラベルが設定できるのは21までです。 ・作成するキャビネットが、分類キャビネットの場合は、[追加] は無効になります。
[編集]	 [コンテントラベル]表示エリアに表示されているコンテントラベルを選択して、[編集]をクリックすると、[コンテントラベルの編集]画面が表示されます。 次の場合、[編集]は無効になります。 ・コンテントラベルが1つも設定されていない場合 ・作成するキャビネットが、分類キャビネットの場合 ・プライマリーとコンテントを選択した場合
[削除]	 [コンテントラベル]表示エリアに表示されているコンテントラベルを選択して、[削除]をクリックすると、選択したコンテントラベルが削除されます。 次の場合、[削除]は無効になります。 ・コンテントラベルが1つも設定されていない場合 ・作成するキャビネットが、分類キャビネットの場合 ・システムで定義されたコンテントラベルの場合
[インポート]	コンテントラベルをファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれたコ ンテントラベルは、[コンテントラベル]表示エリアに表示されます。 作成するキャビネットが、分類キャビネットの場合は、[インポート]は無効に なります。
[エクスポート]	コンテントラベルがファイルに保存されます。 コンテントラベルが1つも設定されていない場合、[エクスポート] は無効にな ります。

6.4 キャビネットの作成

キャビネットの作成手順を説明します。

キャビネットを作成する前に、データベース表領域を作成しておく必要があります。

- キャビネットを作成できるのは、サービス管理者だけです。
 - 補足 1つのサービス中に、最大 999 個のキャビネットを作成できます。
 ただし、99 個以上のキャビネットが作成されている環境でワークフローキャビネットを作成しようとする
 と、エラーが発生し、作成できません。
 - 参照 ・データベース表領域の作成方法については、「5.4 データベース表領域の作成」(P.71) を参照してください。
 - ・署名およびタイムスタンプを付与する運用の場合、キャビネットを作成する手順については、『e- 文書法対応 概要説明書』を参照してください。

キャビネットの概要を設定する

1. [キャビネットの作成] 画面- [全般] タブのページで、作成するキャビネットの概要を設定します。

- (1) キャビネット名を入力します。
- (2) キャビネット ID を入力します。
- (3) 登録予定件数を入力します。
- (4) 表領域名を、プルダウンメニューから選択します。
- (5) ファイルフォーマット変換サービスを使用する場合は、サービス名を、プルダウンメニューから選択します。
- (6) [ロールの参照] をクリックします。表示された画面から、キャビネット管理者を選択します。
- (7) キャビネットの注釈を入力します。
- (8) 操作制約パターンラベルを、プルダウンメニューから選択します。

補足 作成するキャビネットが、標準キャビネット(public)の場合だけ表示されます。

(9) 長期署名方式を、プルダウンメニューから選択します。

補足
 作成するキャビネットが、標準キャビネット(public)の場合で、原本性保証オプションがインストールされているときだけ表示されます。
 運用中のキャビネットの場合、長期署名方式を変更するのではなく、新規にキャビネットを作成することを推奨します。

(10) [OK] をクリックします。

キャビネットの属性が設定されます。

続いて、ユーザー属性を設定します。

ユーザー属性を設定する

- [ユーザー属性] タブをクリックします。
 [キャビネットの作成] 画面 [ユーザー属性] タブのページが表示されます。
 作成するキャビネットが、分類キャビネットの場合は、[キャビネットの作成] 画面 [ユーザー属性]
 タブは表示されません。
 [エディションキーを設定する] (P.91) に進みます。
- 2. 作成するキャビネットにユーザー属性を設定します。操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ ユーザー属性を追加する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [ユーザー属性] タブのページの [追加] をクリックします。 [属性 ID 選択] 画面が表示されます。
- (2) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されている属性一覧に、選択したネームスペースに登録されている属性情報が表示され ます。
- (3) ユーザー属性にする属性を選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 [キャビネットの作成] 画面- [ユーザー属性] タブのページが表示されます。 ユーザー属性一覧には、選択したユーザー属性が表示されます。

◆ ユーザー属性を削除する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [ユーザー属性] タブのページのユーザー属性一覧から、削除するユー ザー属性を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したユーザー属性が削除されます。
- ◆ ユーザー属性をファイルから読み込む(インポート) ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"attrId" tokyo:drawingNumber tokyo:cost

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u>を参照してください。

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [ユーザー属性] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するユーザー属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングをプルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている属性が、ユーザー属性一覧に追加されます。

- 補足・ここで指定するユーザー属性は、クラスなしのオブジェクトに対する設定になります。
 - ・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・指定したユーザー属性が必要とするデータベースの列が 900 個を超えるユーザー属性を追加しよう とした場合、警告メッセージが表示され、読み込みを終了します。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ ユーザー属性をファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [ユーザー属性] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するユーザー属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定されているユーザー属性が、設定ファイルとして保存されます。

続いて、エディションキーを設定します。

エディションキーを設定する

1. [エディションキー] タブをクリックします。

[キャビネットの作成]画面-[エディションキー]タブのページが表示されます。

キャビネットの作成						×
全般 ユーザー属性	エディションキー	アクセス権	デフォルトアクセス	権 アクセス権マスク	状態定義	
エディションキー:						
属性ID	属性名	属性	型	型種別	追加	סנ
					肖耶	<u>ج</u>
					インボ	
					エクスァ	Ř− ×

図:[キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページ

補足 作成するキャビネットがワークスペースキャビネット、分類キャビネット、およびワークフローキャビネットの場合は、[キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブは表示されません。 [アクセス権を設定する] (P.92) に進みます。

 作成するキャビネットにエディションキーを設定します。エディションキーは最大6個設定できます。 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ エディションキーを追加する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページの [追加] をクリックします。 [属性 ID 選択] 画面が表示されます。
- (2) エディションキーにする属性を選択します。
- **(3)** [OK] をクリックします。

[キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページが表示されます。 エディションキー一覧に選択したエディションキーが表示されます。

補足 [ユーザー属性] ページで設定したユーザー属性をエディションキーとして指定できます。また、移行 キャビネットの場合は、ユーザー属性のほかに、system:dmsName も追加できます。

◆ エディションキーを削除する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページのエディションキー一覧から、削除す るエディションキーを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したエディションキーが削除されます。

◆ エディションキーをファイルから読み込む(インポート) ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル

ノアイルを読み込む場合は、のらかしの設定ノアイルを用意しておく必要がのります。設定ノアイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"attrId" tokyo:drawingNumber tokyo:cost



参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するエディションキーの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングをプルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているエディションキーが、エディションキー一覧に追加されます。

- 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
- ◆ エディションキーをファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [キャビネットの作成] 画面- [エディションキー] タブのページの [エクスポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存するエディションキーの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングをプルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているエディションキーが、設定ファイルとして保存されます。

続いて、アクセス権を設定します。

アクセス権を設定する

1. [アクセス権] タブをクリックします。

[キャビネットの作成]画面- [アクセス権] タブのページが表示されます。

3	ドヤビネットの作成			×			
	全般 ユーザー属性 エディシ	ョンキー アクセス権 デフォル	トアクセス権アクセス権マスク	状態定義 … ⟨▼ ▶			
	アクセス権:						
	ロール	DN	権限	追加			
	全てのユーザーロール	everyone	属性取得権	編集			
				肖邶余			
				インポート			
				エクスポート			

図:[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページ

どのロールに、どの権限を付与するのかを選択します。操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ アクセス権を追加する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照] をクリックします。[ロールの選択] 画面が表示されます。
- (3)検索対象とする [種別]のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (4) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (5) [検索] をクリックします。

画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。

- (6) アクセス権を設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。
 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が、表示されます。
- (8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (9) [OK] をクリックします。

[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページが表示されます。 アクセス権一覧に選択したアクセス権が表示されます。

◆ アクセス権を編集する

ロールに付与されているアクセス権の設定を変更します。

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページのアクセス権一覧から、編集するアクセス権 を選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [アクセス権の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。 [キャビネットの作成] 画面 – [アクセス権] タブのページが表示されます。 アクセス権一覧に選択したアクセス権が表示されます。
- ◆ アクセス権を削除する
- (1) [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権] タブのページのアクセス権一覧から、削除するアクセス権 を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したアクセス権が削除されます。
- ◆ アクセス権をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル) の例を次に示します。

```
"userRole","privilege"
Everyone,"getAttribute"
Others,"getAttribute"
{ユーザーロールA},"getAttribute|addChild"
{ユーザーロールB},"getAttribute|addChild|removeChild"
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [アクセス権] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているアクセス権が読み込まれます。

- 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1 行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

- ◆ アクセス権をファイルに保存する (エクスポート)
- (1) [キャビネットの作成] 画面 [アクセス権] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているアクセス権が、設定ファイルとして保存されます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

続いて、デフォルトアクセス権を設定します。

デフォルトアクセス権を設定する

1. [デフォルトアクセス権] タブをクリックします。

[キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。

キャビネットの作成			×		
全般 ユーザー属性 エディシ	ョンキー アクセス権 デフォル	アクセス権 アクセス権マスク	状態定義 …⟨∢▶		
デフォルトアクセス権:					
ロール	DN	権限	追加		
全てのユーザーロール	everyone	属性取得権 属性設定権…	編集		
			削除		
			インポート		
			エクスポート		

図:[キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページ

2. 作成するキャビネットにデフォルトアクセス権の設定を行います。操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ デフォルトアクセス権を追加する

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [デフォルトアクセス権] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (3)検索対象とする [種別]のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (4) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (5) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (6) デフォルトアクセス権を設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。
 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が、表示されます。
- (8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (9) [OK] をクリックします。

[キャビネットの作成] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。 デフォルトアクセス権一覧に選択したデフォルトアクセス権が表示されます。

◆ デフォルトアクセス権を編集する

ロールに付与されているデフォルトアクセス権の設定を変更します。

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページのデフォルトアクセス権一覧か ら、編集するデフォルトアクセス権を選択します。
- (2)[編集]をクリックします。 [アクセス権の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。 [キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。 デフォルトアクセス権一覧に選択したデフォルトアクセス権が表示されます。
- ◆ デフォルトアクセス権を削除する
- (1) [キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページのデフォルトアクセス権一覧か ら、削除するデフォルトアクセス権を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したデフォルトアクセス権が削除されます。
- ◆ デフォルトアクセス権をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"userRole", "privilege"
Everyone, "getAttribute"
Others, "getAttribute"
{ユーザーロールA}, "getAttribute|addChild|removeChild"
 {ユーザーロールB}, "getAttribute"
```

参照 記述方法については、[3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル|(P.30) を参照してください。

(1) [キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページの [インポート] をクリックしま す。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2) 追加するデフォルトアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているデフォルトアクセス権が読み込まれます。

- 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップさ れます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
- ◆ デフォルトアクセス権をファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [キャビネットの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページの [エクスポート] をクリックし ます。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存するデフォルトアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているデフォルトアクセス権が、設定ファイルとして保存されます。

補足
ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持さ れる情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

続いて、アクセス権マスクを設定します。

アクセス権マスクを設定する

1. [アクセス権マスク] タブをクリックします。

[キャビネットの作成]画面- [アクセス権マスク] タブのページが表示されます。

1	キャビネットの作成			×
	全般 ユーザー属性 エディシ	ョンキー アクセス権 デフォル	トアクセス権マスク	状態定義 … ⟨ ◀ ▶
	アクセス権マスク:			
	ロール	DN	権限	追加
	全てのユーザーロール	everyone	属性取得権 属性設定権…	編集
				削除
				インポート
				エクスポート

図:[キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページ

2. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ アクセス権マスクを追加する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照]をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (3)検索対象とする [種別] のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (4) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (5) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (6) アクセス権マスクを設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。
 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が、表示されます。
- (8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (9) [OK] をクリックします。 [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページが表示されます。 アクセス権マスク一覧に選択したアクセス権マスクが表示されます。

◆ アクセス権マスクを編集する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページのアクセス権マスク一覧から、編集するアクセス権マスクを選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [アクセス権の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。 [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページが表示されます。 アクセス権マスク一覧に選択したアクセス権マスクが表示されます。

◆ アクセス権マスクを削除する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページのアクセス権マスク一覧から、削除す るアクセス権マスクを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したアクセス権マスクが削除されます。

◆ アクセス権マスクをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"userRole","privilege" Everyone,"getAttribute" Others,"getAttribute" {ユーザーロール A},"getAttribute|viewContent" {ユーザーロール B},"getAttribute"

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [アクセス権マスク] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するアクセス権マスクの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているアクセス権マスクが読み込まれます。

- 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ アクセス権マスクをファイルに保存する(エクスポート)

(1) [キャビネットの作成] 画面 – [アクセス権マスク] タブのページの [エクスポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存するアクセス権マスクの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているアクセス権マスクが、設定ファイルとして保存されます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

続いて、状態定義を設定します。

状態定義を設定する

1. [状態定義] タブをクリックします。

[キャビネットの作成] 画面- [状態定義] タブのページが表示されます。

キャビネットの作成 ×				
全般 ユーザー属性 エディ	ションキー アクセス権 デフォル	トアクセス権 アクセス権マスク	状態定義 🛄 📊	
状態定義:				
状態	ロール	権限	追加	
固定	全てのユーザーロール	属性取得権 コンテント取	編集	
廃棄	<u>全てのユーザーロール</u>			
編集可能	全てのユーザーロール	属性取得権 属性設定権…	削除	
			インポート	
			エクスポート	

図:[キャビネットの作成] 画面- [状態定義] タブのページ

2. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ 状態定義を追加する

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [状態定義] タブのページの [追加] をクリックします。 [状態定義の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されているアトム一覧に、選択したネームスペースに登録されているアトム一覧が表示 されます。
- (3) [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (4)検索対象とする [種別] のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (5) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (6) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (7)状態定義を設定するロール名を選択します。
- (8) [OK] をクリックします。 [状態定義の指定] 画面が表示されます。 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が、表示されます。
- (9) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (10) [OK] をクリックします。

[キャビネットの作成] 画面- [状態定義] タブのページが表示されます。 状態定義一覧に選択した状態定義が表示されます。

(11)手順3に進みます。

◆ 状態定義を編集する

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [状態定義] タブのページの状態定義一覧から、編集する状態定義を選択 します。
- (2) [編集] をクリックします。 [状態定義の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。 [キャビネットの作成] 画面 – [状態定義] タブのページが表示されます。 状態定義一覧に選択した状態定義が表示されます。
- (5) 手順3 に進みます。
- ◆ 状態定義を削除する
- (1) [キャビネットの作成] 画面- [状態定義] タブのページの状態定義一覧から、削除する状態定義を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択した状態定義が削除されます。
- (3) 手順3に進みます。

◆ 状態定義をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

↓:改行

```
"status","userRole","privilege","initialStatus",J
system:editable,Everyone,
"getAttribute|setAttribute|getContent|setContent|deleteObject|addChild|remov
eChild|printContent|viewContent|changeAcl|changeStatus|changeLock|addRevisio
n|removeRevision",true,J
system:fixed,Everyone,
"getAttribute|getContent|deleteObject|printContent|viewContent
|changeAcl|changeStatus|changeLock|addRevision|removeRevision",,J
system:obsolete,,,J
tokyo:issued, { ユーザーロール A }, "getAttribute|viewContent",,J
tokyo:issued, { ユーザーロール B },
"getAttribute|getContent|deleteObject|printContent
|viewContent|changeAcl|changeStatus",,J
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u>を参照してください。

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [状態定義] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加する状態定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている状態定義が読み込まれます。

注記 キャビネットを作成したときに設定した状態定義は、あとで削除できません。 状態に対応するアクセス権マスクだけ変更できます。

- 補足・システムでデフォルトの「system:editable」、「system:fixed」、「system:obsolete」を含めて、20 までの状態を定義できます。
 - ・ここで指定する状態定義は、クラスなしのオブジェクトに対する定義になります。手順<u>3</u>に進みます。
 - ・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。 ただし、インポートした状態定義ファイルの initialStatus パラメーターに true を指定していない場合、エラーにはならず、初期状態の設定は変更されません。
 - · [初期状態] に設定されている状態と異なる状態が初期状態として読み込まれた場合、確認画面が表示されます。

◆ 状態定義をファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [状態定義] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存する状態定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されている状態定義が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 <u>3</u> に進みます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

3. 必要に応じて、[初期状態] プルダウンメニューから、キャビネット作成時の初期状態を設定します。

続いて、状態遷移定義を設定します。

状態遷移定義を設定する

1. [状態遷移定義] タブをクリックします。

[キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページが表示されます。

アクセス権 アクセス権マスク 状態遷移定義 コンテントラベル ▲ 大態遷移定義: </th <th>キャビネットの作成</th> <th>×</th>	キャビネットの作成	×				
状態遷移定義: 遷移後の状態 対象のロール 這加 還を 編集可能 全てのユーザーロール 這加 圆定 廃棄 金でのユーザーロール 編集 『廃棄 金でのユーザーロール 編集 編集可能 金でのユーザーロール 編集 編集可能 金でのユーザーロール 御像 編集可能 金でのユーザーロール 御像 編集可能 ⑤定 金でのユーザーロール 編集可能 ⑤定 金でのユーザーロール 「力スポート 「カンボート	アクセス権 デフォ	ルトアクセス権マスク	状態定義 状態遷移定義 コンテン	1547JL III		
速移前の状態 速移後の状態 対象のロール 追加 固定 編集可能 全てのユーザーロール 編集 固定 廃棄 全てのユーザーロール 編集 廃棄 編集可能 全てのユーザーロール 削除 廃棄 固定 全てのユーザーロール 削除 編集可能 台てのユーザーロール 削除 編集可能 国定 全てのユーザーロール 編集可能 原棄 全てのユーザーロール	状態遷移定義:					
固定 編集可能 全てのユーザーロール 編集 固定 廃棄 全てのユーザーロール 崩除 廃棄 編集可能 全てのユーザーロール 削除 廃棄 固定 全てのユーザーロール 10 編集可能 固定 全てのユーザーロール 10 編集可能 固定 全てのユーザーロール 10 編集可能 原棄 全てのユーザーロール 10	遷移前の状態	遷移後の状態	対象のロール	追加		
固定 廃棄 全てのユーザーロール 廃棄 編集可能 全てのユーザーロール 削除 廃棄 固定 全てのユーザーロール 削除 編集可能 固定 全てのユーザーロール 1/// パート 編集可能 固定 全てのユーザーロール インボート 編集可能 廃棄 全てのユーザーロール エクスポート	固定	編集可能	全てのユーザーロール	編集		
廃棄 編集可能 全てのユーザーロール 削除 廃棄 固定 全てのユーザーロール インボート 編集可能 固定 全てのユーザーロール インボート 編集可能 廃棄 全てのユーザーロール エクスポート	固定	廃棄	全てのユーザーロール			
廃棄 固定 全てのユーザーロール 編集可能 固定 全てのユーザーロール 編集可能 廃棄 全てのユーザーロール	廃棄	編集可能	全てのユーザーロール	肖明余		
編集可能 固定 全てのユーザーロール コノハード 編集可能 廃棄 全てのユーザーロール エクスポート	廃棄	固定	全てのユーザーロール	/\40, L		
編集可能 廃来 全てのユーザーロール エクスポート	編集可能	固定	全てのユーザーロール			
	編集可能	廃桒	全てのユーザーロール	エクスポート		

図:[キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページ

2. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ 状態遷移定義を追加する

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [状態遷移定義] タブのページの [追加] をクリックします。 [状態遷移定義の指定] 画面が表示されます。
- (2) [遷移前の状態]から、遷移前の状態を選択します。
- (3) [遷移後の状態]から、遷移後の状態を選択します。
- (4) 状態遷移の対象となるユーザーロールを指定します。 必要に応じて、[追加]をクリックして表示される[ロールの選択]画面から、ユーザーロールを指定し ます。
- (5) [OK] をクリックします。

[キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページが表示されます。 権限一覧に設定した状態遷移定義が表示されます。

- ◆ 状態遷移定義を編集する
- (1) [キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページの状態遷移定義一覧から、編集する状態遷 移定義を選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [状態遷移定義の編集] 画面が表示されます。
- (3) 状態遷移の対象となるユーザーロールを変更します。 [追加]をクリックして表示される[ロールの選択]画面から、ユーザーロールを指定します。
- (4) [OK] をクリックします。 [キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページが表示されます。

◆ 状態遷移定義を削除する

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [状態遷移定義] タブのページの状態遷移定義一覧から、削除する状態遷 移定義を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択した状態遷移定義が削除されます。

◆ 状態遷移定義をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"beforeStatus", "afterStatus", "userRole"
system:editable, system:fixed, Everyone
system:editable, tokyo:issued,
system:editable, system:obsolete, Everyone
system:fixed, system:editable, Everyone
system:fixed, tokyo:issued, \{ \cancel{2} - \cancel{\forall} - \square - \cancel{\nu} B \}
system:fixed, system:editable, \{ \cancel{2} - \cancel{\forall} - \square - \cancel{\nu} B \}
tokyo:issued, system:fixed, \{ \cancel{2} - \cancel{\forall} - \square - \cancel{\nu} B \}
tokyo:issued, system:obsolete, \{ \cancel{2} - \cancel{\forall} - \square - \cancel{\nu} B \}
tokyo:issued, system:obsolete, \{ \cancel{2} - \cancel{\forall} - \square - \cancel{\nu} B \}
tokyo:issued, system:obsolete, \{ \cancel{2} - \cancel{\forall} - \square - \cancel{\nu} B \}
tokyo:issued, system:obsolete, \{ \cancel{2} - \cancel{\forall} - \square - \cancel{\nu} C \}
system:obsolete, system:fixed,
system:obsolete, tokyo:issued,
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [キャビネットの作成] 画面 [状態遷移定義] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加する状態遷移定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている状態遷移定義が読み込まれます。

- 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
 - ・ここで指定する状態遷移定義は、クラスなしのオブジェクトに対する定義になります。

◆ 状態遷移定義をファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存する状態遷移定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されている状態遷移定義が、設定ファイルとして保存されます。

補足・ここで指定する状態遷移定義は、クラスなしのオブジェクトに対する定義になります。
 ・ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

続いて、コンテントラベルを設定します。

コンテントラベルを設定する

1. [コンテントラベル] タブをクリックします。

[キャビネットの作成]画面- [コンテントラベル] タブのページが表示されます。

キャビネットの作成			×		
アクセス権 デフォルトアクセス	、権 アクセス権マスク 状	態定義 状態遷移定義 コンテン	570 II		
コンテントラベル:					
ラベル名	キーワード	ファイル拡張子	追加		
プライマリー			編集		
インデックス	view	tif			
部分	scrap	tif	削除		
全ページサムネイル	nail	tif	A at the last		
プリント	print	tif			
テキスト			エクスポート		
先頭ページサムネイル	topNail	jpe			

図:[キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページ

2. 操作に応じて、次の手順に進みます。

補足 作成するキャビネットが分類キャビネットの場合は、コンテントラベルのファイル保存だけができます。

◆ コンテントラベルを追加する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページの [追加] をクリックします。 [コンテントラベルの指定] 画面が表示されます。
- (2) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されているアトム一覧に、選択したネームスペースに登録されているアトム一覧が表示 されます。
- (3) コンテントラベルに指定するアトム属性を、アトム一覧から選択します。
- (4) [キーワード] に、画像変換のキーワードを 64 バイト以内で入力します。
- (5) [ファイル拡張子] に、ファイルの拡張子を6バイト以内で入力します。
- (6) [OK] をクリックします。

[キャビネットの作成]画面- [コンテントラベル] タブのページが表示されます。

(7) 手順3に進みます。

◆ コンテントラベルを編集する

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページのコンテントラベル一覧から、編集するコンテントラベルを選択します。
- (2)[編集]をクリックします。 [コンテントラベルの編集] 画面が表示されます。
- (3) [キーワード] に、画像変換のキーワードを 64 バイト以内で入力します。

注記 運用の途中で、「view」または「topnail」を変更しないでください。たとえば、「view」から 「bwView」に変更すると、カラーと白黒の画像が混在してしまいます。

- 補足 · 「view」を、次のキーワードに変更できます。
 - -bwView
 - 作成するインデックス画像を強制的に白黒の画像にするときに指定します。
 - fcView
 - サーバーに Microsoft Office をインストールせずに文書を変換して、インデックス画像を生成するときに指定します。
 - fcView を指定する場合、[ファイル拡張子] には xdw または pdf を指定する必要があります。 ・「topnail」を、次のキーワードに変更できます。
 - fcTopNail

サーバーに Microsoft Office をインストールせずに文書を変換して、先頭ページサムネイル 画像を生成するときに指定します。

- (4) [ファイル拡張子] に、ファイルの拡張子を6バイト以内で入力します。
- (5) [OK] をクリックします。[コンテントラベルの設定] 画面が表示されます。
- (6) 手順 <u>3</u>に進みます。
- ◆ コンテントラベルを削除する
- (1) [キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページのコンテントラベル一覧から、削除す るコンテントラベルを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したコンテントラベルが削除されます。

補足デフォルトのコンテントラベルは削除できません。

- (3) 手順3に進みます。
- ◆ コンテントラベルをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"contentLabel","keyword","extension"
system:view,view,tif
system:scrap,scrap,tif
system:nail,nail,tif
system:topNail,topNail,jpg
system:print,print,tif
system:text,,
tokyo:cadData,,
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するコンテントラベルの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているコンテントラベルが読み込まれます。

- (5) 手順3に進みます。
 - 注記 キャビネットを作成したときに設定したコンテントラベルは、あとで削除できません。 コンテントラベルに対応する、画像変換定義のキーワードとセカンダリーコンテントの拡張子の設定 だけ変更できます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1 行ずつ読み込まれます。
 - ・コンテントラベルは最大21個設定できます。上限を超えて追加しようとすると、警告メッセージが 表示され、読み込みを終了します。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ コンテントラベルをファイルに保存する(エクスポート)

(1) [キャビネットの作成] 画面- [コンテントラベル] タブのページの [エクスポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存するコンテントラベルの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。

- (4) [OK] をクリックします。 設定されているコンテントラベルが、設定ファイルとして保存されます。
- (5) 手順3に進みます。
- **3.** [OK] をクリックします。

指定した条件で、キャビネットが作成され、キャビネット作成が成功したことを示す画面が表示されま す。

4. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、およびインポートで設定した内容は、[OK] をクリックしたときに反映されます。

5. 作業を終了する場合は、サービスのモードを通常モードに変更します。

参照 サービスのモード変更の方法については、<u>「4.4 サービスのモード変更」(P.58)</u>を参照してください。 続いて作業をする場合は、サービスのモードは変更しません。メンテナンスモードのまま作業を行いま す。

6.5 キャビネットの削除

キャビネットを削除する手順を説明します。

キャビネットを削除できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者だけです。 キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、キャビネットを削除できます。

- 注記 ·操作ログの設定は削除されるが、データベース中に保存されているログの情報は、明示的に削除の操作を 実行しなければ、削除されません。
 - ・操作ログに残っている名前や ID を持つキャビネットは作成する場合は、削除操作を行う前に、操作ログの エクスポートと削除をしてください。
 - ・削除されるドロワーの中に、次のオブジェクトがある場合でも、エラーにはならず必ず削除されます。 - ロック中のオブジェクトやチェックアウト中のオブジェクト
 - 状態やアクセス権の設定によって削除権が落とされているオブジェクト
 - ハードリファレンス
 - ・使用していたデータベースのテーブル削除などは、ロールバックできないため、何らかの原因で管理サーバー側での処理が中断されると、そのキャビネット内のオブジェクトにアクセスできません。削除を完了させるには、削除操作を再実行するか、エラーを引き起こしたテーブルなどを、データベースのツールを用いて削除してください。また、再実行したあとにキャビネット情報が更新できない場合は、ドキュメント管理サービスの再起動を行ってください。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [キャビネットの削除] を選択します。 [キャビネットの削除] 画面が表示されます。

キャビネッ	トの削除	Х
the state of the sta		
	はいいえ	

図:[キャビネットの削除] 画面

- **4.** キャビネットを強制的に削除する場合は、[キャビネットを強制的に削除する。] にチェックマークを付けます。
- **5.** [OK] をクリックします。

キャビネットが削除され、処理結果を確認する画面が表示されます。

- 補足・削除したキャビネットで使用していた表領域が、ほかのキャビネットで使用されていない場合は、画面に表示されている表領域を削除する必要があります。
 - ・削除したキャビネット中にドロワーがあった場合には、ドロワーが使用していたストレージパスが表示されます。OSのコマンドを使用して削除してください。
- **6.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

6.6 キャビネットの設定変更

キャビネットの設定を変更する手順を説明します。

6.6.1 キャビネット管理者を設定する

キャビネット管理者の設定手順を説明します。キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、キャビネット 管理者を設定できます。 キャビネット管理者を変更できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネット管理者だけです。また、

キャヒネット管理者を変更できるのは、サーヒス管理者および操作対象キャヒネット管理者だけです。また、 作成直後のキャビネットにキャビネット管理者を設定できるのは、サービス管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [キャビネット管理者の設定] を選択します。 [キャビネット管理者の設定] 画面が表示されます。

キャビネット管理者の設定	×
キャビネット管理者:	ロールの参照
ОК	キャンセル

図:[キャビネット管理者の設定] 画面

- **4.** [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- 5. 検索対象とする [種別] のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- **6.** [キーワード] にキャビネット管理者に設定するユーザー名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力 します。
- **7.** [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたユーザー名が表示されます。
- 8. キャビネット管理者に設定するユーザー名を選択します。

9. [OK] をクリックします。
 [キャビネット管理者の設定] 画面が表示されます。
 [キャビネット管理者] には、[ロールの選択] 画面で選択したユーザー名が表示されます。

10.[OK] をクリックします。

キャビネット管理者が設定され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス]タ ブのページに戻ります。



6.6.2 キャビネット情報を確認する

キャビネットの情報を確認する手順を説明します。 キャビネットの情報を確認できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者だ けです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [キャビネット情報の表示] を選択します。 [キャビネット情報の表示] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- 4. 次に示すページのキャビネット情報を確認します。
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面 [全般] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面- [ユーザー属性] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面- [エディションキー] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面- [エディションラベル] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面 [インデックスキー] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示]画面- [アクセス権] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面 [アクセス権マスク] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面 [状態定義] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面 [状態遷移定義] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面- [コンテントラベル] タブのページ
 - ・[キャビネット情報の表示] 画面- [オブジェクトタイプ] タブのページ
 - 補足・選択したキャビネットが、ワークスペースキャビネットの場合は、次のページは表示されません。
 - [キャビネット情報の表示] 画面- [エディションキー] タブのページ
 - [キャビネット情報の表示] 画面- [エディションラベル] タブのページ
 - ・選択したキャビネットが、分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネットの場合 は、次のページは表示されません。
 - [キャビネット情報の表示] 画面- [ユーザー属性] タブのページ
 - [キャビネット情報の表示] 画面- [エディションキー] タブのページ
 - [キャビネット情報の表示] 画面- [エディションラベル] タブのページ
 - [キャビネット情報の表示] 画面- [インデックスキー] タブのページ
 - [キャビネット情報の表示] 画面- [オブジェクトタイプ] タブのページ
 - ・選択したキャビネットが、ワークフローキャビネットの場合は、次のページは表示されません。
 - [キャビネット情報の表示] 画面- [エディションキー] タブのページ - [キャビネット情報の表示] 画面- [エディションラベル] タブのページ

5. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

6.6.3 ファイルフォーマット変換サービスを設定する

キャビネットにファイルフォーマット変換サービスを設定する手順を説明します。 キャビネットにファイルフォーマット変換サービスを設定できるのは、サービス管理者および操作対象キャビ ネットのキャビネット管理者だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、ファイルフォーマット変換サービスを設定できます。

補足・キャビネットが分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネットの場合は、ファイル フォーマット変換サービスを設定できません。

・それまで使用していたファイルフォーマット変換サービスを別ホストに移すなど、アクセスパスが変化す るような作業を行ったときに RMS の CN 名が以前と同じであっても、ファイルフォーマット変換サービス にアクセスできなくなり、内容依存情報の更新ができなくなることがあります。 そうした場合には、本機能を使用しファイルフォーマット変換サービスを再設定してください。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [ファイルフォーマット変換サービスの設定] を選択します。 [ファイルフォーマット変換サービスの設定] 画面が表示されます。

ファイルフォ	ーマット変換サービスの設定	\times
í	ファイルフォーマット変換サービスを選択してください。 transformer@ 〜	
	OK キャンセル	

図:[ファイルフォーマット変換サービスの設定] 画面

- **4.** [ファイルフォーマット変換サービスの設定] プルダウンメニューから、ファイルフォーマット変換サービスを選択します。
- **5.** [OK] をクリックします。 [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

6.6.4 エディションラベルを設定する

キャビネットのエディションラベルの設定について説明します。

エディションラベルを設定する

キャビネットのエディションラベルを設定する手順について説明します。

キャビネットのエディションラベルを設定できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビ ネット管理者だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、エディションラベルを設定できます。

補足キャビネットがワークフローキャビネット、分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネットの場合は、エディションラベルを設定できません。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
3. メニューバーの [キャビネット操作] > [エディションラベル] を選択します。

[エディションラベルの設定] 画面が表示されます。

エディションラベルの設定			×
エディションラベル:			
エディション番号	エディションラベル		追加
			編集
			削除
			インポート
			エクスポート
		OK	キャンセル

図:[エディションラベルの設定] 画面

- 4. 操作に応じて、次の手順に進みます。
- ◆ エディションラベルを追加する
- (1) [エディションラベルの設定] 画面の [追加] をクリックします。 [エディションラベルの追加] 画面が表示されます。
- (2) [エディションラベル] に、エディションラベルを 64 バイト以内で入力します。
- (3) [OK] をクリックします。

[エディションラベルの設定] 画面が表示されます。

- (4) 手順5に進みます。
- ◆ エディションラベルを編集する
- (1) [エディションラベルの設定] 画面のエディションラベル一覧から、編集するエディションラベルを選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [エディションラベルの編集] 画面が表示されます。
- (3) [エディションラベル] に、エディションラベルを 64 バイト以内で入力します。
- (4) [OK] をクリックします。

[エディションラベルの設定] 画面が表示されます。

(5) 手順 5 に進みます。

◆ エディションラベルを削除する

注記 最終行のエディションラベルだけ削除できます。

キャビネットで使用されている最大エディション番号よりも小さい番号のエディションラベルは削除 できません。

- (1) [エディションラベルの設定] 画面のエディションラベル一覧から、削除するエディションラベルを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したエディションラベルが削除されます。
- (3) 手順 5 に進みます。

◆ エディションラベルをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"editionNumber","editionLabel" 1, イ 2, ロ 3, ハ 4, ニ

5, ホ

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u>を参照してください。

- (1) [エディションラベルの設定] 画面の [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するエディションラベルの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているエディションラベルが読み込まれます。

- (5) 手順に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1 行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・現在設定されているよりも小さいエディション番号を設定しようとした場合は、メッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
- ◆ エディションラベルをファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [エディションラベルの設定] 画面の [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するエディションラベルの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。
 設定されているエディションラベルが、設定ファイルとして保存されます。
- (5) 手順 <u>5</u> に進みます。
- **5.** [OK] をクリックします。
 - [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。 補足 追加、編集、削除、およびインポートで設定した内容は、[OK] をクリックしたときに反映されます。

6.6.5 コンテントラベルを設定する

キャビネットのコンテントラベルを設定する手順を説明します。

キャビネットのコンテントラベルを設定できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビ ネット管理者だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、コンテントラベルを設定できます。

- 補足・キャビネットが分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネットの場合は、コンテントラベルを設定できません。
 - ・設定済みのコンテントラベルは削除できません。
 - ・キャビネットにファイルフォーマット変換サービスが設定されていないと、キーワードやファイル拡張子 が設定されていても、そのコンテントの情報を「内容依存情報の更新」で更新できません。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [コンテントラベルの設定] を選択します。 [コンテントラベルの設定] 画面が表示されます。

コンテントラベルの設定	Ē		×
コンテントラベル:			
ラベル名	キーワード	ファイル拡張子	追加
プライマリー			編集
インデックス 一部公	view	tif tif	首北昭金
ロック 全ページサムネイ	nail	tif	13 JPA
プリント	print	tif	インボート
プリザーブ			エクスポート
テキスト 先頭ページサム	topNail	jpg	
		OK	キャンセル

図:[コンテントラベルの設定] 画面

4. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ コンテントラベルを追加する

- (1) [コンテントラベルの設定] 画面の [追加] をクリックします。 [コンテントラベルの追加] 画面が表示されます。
- (2) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されているアトム一覧に、選択したネームスペースに登録されているアトム一覧が表示 されます。
- (3) コンテントラベルに指定するアトム属性を、アトム一覧から選択します。
- (4) [キーワード] に、画像変換のキーワードを 64 バイト以内で入力します。
- (5) [ファイル拡張子] に、ファイルの拡張子を6バイト以内で入力します。
- (6) [OK] をクリックします。
 - [コンテントラベルの設定] 画面が表示されます。

補足 選択したコンテントラベルのキーワードと拡張子だけ編集できます。プライマリーとテキストについては編集できません。

(7) 手順5に進みます。

- ◆ コンテントラベルを編集する
- (1) [コンテントラベルの設定] 画面のコンテントラベル一覧から、編集するコンテントラベルを選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [コンテントラベルの編集] 画面が表示されます。
- (3) [キーワード] に、画像変換のキーワードを 64 バイト以内で入力します。

注記 運用の途中で、「view」または「topnail」を変更しないでください。たとえば、「view」から 「bwView」に変更すると、カラーと白黒の画像が混在してしまいます。

- iview」を、次のキーワードに変更できます。

 bwView
 作成するインデックス画像を強制的に白黒の画像にするときに指定します。
 fcView
 サーバーに Microsoft Office をインストールせずに文書を変換して、インデックス画像を 生成するときに指定します。
 fcView を指定する場合、[ファイル拡張子] には xdw または pdf を指定する必要があります。
 ftopnail」を、次のキーワードに変更できます。
 fcTopNail
 サーバーに Microsoft Office をインストール 2 せずに文書を変換して、先頭ページサムネイ
- (4) [ファイル拡張子] に、ファイルの拡張子を6バイト以内で入力します。
- (5) [OK] をクリックします。

[コンテントラベルの設定] 画面が表示されます。

- (6) 手順 5 に進みます。
- ◆ コンテントラベルを削除する
- (1) [コンテントラベルの設定] 画面のコンテントラベル一覧から、削除するコンテントラベルを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したコンテントラベルが削除されます。
- (3) 手順5 に進みます。

◆ コンテントラベルをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"contentLabel", "keyword", "extension"
system:view,view,tif
system:scrap,scrap,tif
system:nail,nail,tif
system:topNail,topNail,jpg
system:print,print,tif
system:text,,
system:preserve,,
tokyo:cadData,,
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [コンテントラベルの設定] 画面の [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するコンテントラベルの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。

(4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているコンテントラベルが読み込まれます。

- (5) 手順5 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・コンテントラベルは、最大21個設定できます。設定できる最大個数を超えて追加しようとすると、
 警告メッセージが表示され、読み込みを終了します。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・すでに存在する値が読み込まれた場合は、警告メッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
- ◆ コンテントラベルをファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [コンテントラベルの設定] 画面の [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するコンテントラベルの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているコンテントラベルが、設定ファイルとして保存されます。

- (5) 手順 5 に進みます。
- **5.** [OK] をクリックします。
 - [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、およびインポートで設定した内容は、[OK]をクリックしたときに反映されます。

6.6.6 アクセス権を設定する

キャビネットのアクセス権、およびアクセス権マスクについて説明します。

アクセス権を設定する

キャビネットのアクセス権を設定する手順を説明します。 キャビネットのアクセス権を設定できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管 理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [アクセス権の設定] を選択します。 [アクセス権の設定] 画面 – [アクセス権] タブのページが表示されます。

	アクセス権の設定 アクセス権 デフォルトアクセス株	産 アクセス権マスク		×
	アクセス権:			
l	0-1J	DN	権限	追加
	全てのユーザーロール	everyone	属性取得権	編集
				削除
				インポート
				エクスポート

図:[アクセス権の設定]画面-[アクセス権] タブのページ

4. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ アクセス権を追加する

- (1) [アクセス権の設定] 画面 [アクセス権] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (3)検索対象とする [種別]のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (4) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (5) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (6) アクセス権を設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が、表示されます。
- (8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (9) [OK] をクリックします。

[アクセス権の設定]画面-[アクセス権]タブのページが表示されます。 アクセス権一覧に選択したアクセス権が表示されます。

(10)手順5に進みます。

◆ アクセス権を編集する

ロールに付与されているアクセス権の設定を変更します。

- (1) [アクセス権の設定] 画面- [アクセス権] タブのページのアクセス権一覧から、編集するアクセス権を 選択します。
- (2)[編集]をクリックします。 [アクセス権の編集]画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。

[アクセス権の設定]画面- [アクセス権] タブのページが表示されます。

アクセス権一覧に選択したアクセス権が表示されます。

(5) 手順 5 に進みます。

◆ アクセス権を削除する

- (1) [アクセス権の設定] 画面- [アクセス権] タブのページのアクセス権一覧から、削除するアクセス権を 選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したアクセス権が削除されます。
- (3) 手順 5 に進みます。
- ◆ アクセス権をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"userRole","privilege" Everyone,"getAttribute" Others,"getAttribute" {ユーザーロール A},"getAttribute|addChild" {ユーザーロール B},"getAttribute|addChild|removeChild"

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [アクセス権の設定] 画面 [アクセス権] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているアクセス権が読み込まれます。

- (5) 手順5 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1 行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ アクセス権をファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [アクセス権の設定] 画面 [アクセス権] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。

(4) [OK] をクリックします。

設定されているアクセス権が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 5 に進みます。

5. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

デフォルトアクセス権を設定する

キャビネットのデフォルトアクセス権を設定する手順を説明します。 キャビネットのデフォルトアクセス権を設定できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャ ビネット管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [アクセス権の設定] を選択します。 [アクセス権の設定] 画面 – [アクセス権] タブのページが表示されます。
- 4. [デフォルトアクセス権] タブを選択します。

アク	セス権の設定]	画面-	[デフォル	トアクセス権]	タブのペ	ージが表示されます。
----	---------	-----	-------	---------	------	------------

アクセス権の設定				Х
アクセス権 デフォルトアクセス林	種 アクセス権マスク			
デフォルトアクセス権:				
ロール	DN	権限	追加	
全てのユーザーロール	everyone	属性取得権 属性設定権…	編集	
			削除	
			インポート	
			エクスポート	

図:[アクセス権の設定] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページ

- 5. 操作に応じて、次の手順に進みます。
- ◆ デフォルトアクセス権を追加する
- (1) [アクセス権の設定] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (3)検索対象とする [種別]のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (4) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (5) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (6) デフォルトアクセス権を設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。

[アクセス権の指定]画面が表示されます。 権限一覧には、[ロールの選択]画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が、表示されます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

(8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。

(9) [OK] をクリックします。

[アクセス権の設定] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。 デフォルトアクセス権一覧に選択したデフォルトアクセス権が表示されます。

(10)手順6に進みます。

◆ デフォルトアクセス権を編集する

ロールに付与されているデフォルトアクセス権の設定を変更します。

- (1) [アクセス権の設定] 画面 [デフォルトアクセス権] タブのページのデフォルトアクセス権一覧から、 編集するデフォルトアクセス権を選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [アクセス権の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。 [アクセス権の設定] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。 デフォルトアクセス権一覧に、選択したデフォルトアクセス権が表示されます。
- (5) 手順 <u>6</u>に進みます。

◆ デフォルトアクセス権を削除する

- (1) [アクセス権の設定] 画面 [デフォルトアクセス権] タブのページのデフォルトアクセス権一覧から、 削除するデフォルトアクセス権を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したデフォルトアクセス権が削除されます。
- (3) 手順 6 に進みます。
- ◆ デフォルトアクセス権をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"userRole","privilege"
Everyone,"getAttribute"
Others,"getAttribute"
{ユーザーロール A},"getAttribute|addChild|removeChild"
{ユーザーロール B},"getAttribute"
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

(1) [アクセス権の設定] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページの [インポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2) 追加するデフォルトアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているデフォルトアクセス権が読み込まれます。

- (5) 手順 6 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ デフォルトアクセス権をファイルに保存する(エクスポート)

(1) [アクセス権の設定] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページの [エクスポート] をクリックしま す。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。

(2)保存するデフォルトアクセス権の設定ファイル名を選択します。

- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているデフォルトアクセス権が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 6 に進みます。

6. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、およびインポートで設定した内容は、[OK]をクリックしたときに反映されます。

アクセス権マスクを設定する

キャビネットのアクセス権マスクを設定する手順を説明します。 キャビネットのアクセス権マスクを設定できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビ ネット管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [アクセス権の設定] を選択します。 [アクセス権の設定] 画面 – [アクセス権] タブのページが表示されます。
- 4. [アクセス権マスク] タブを選択します。

[アクセス権の設定]画面-[アクセス権マスク]タブのページが表示されます。

1	アクセス権の設定			×
ĺ	アクセス権 デフォルトアクセス林	権 アクセス権マスク		
	アクセス権マスク:			
	ロール	DN	権限	追加
	全てのユーザーロール	everyone	属性取得権 属性設定権…	編集
				削除
				インポート
				エクスポート

図:[アクセス権の設定]画面-[アクセス権マスク]タブのページ

5. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ アクセス権マスクを追加する

- (1) [アクセス権の設定] 画面 [アクセス権マスク] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照] をクリックします。[ロールの選択] 画面が表示されます。
- (3)検索対象とする [種別] のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

- (4) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (5) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (6) アクセス権マスクを設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が、表示されます。
- (8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (9) [OK] をクリックします。 [アクセス権の設定] 画面 – [アクセス権マスク] タブのページが表示されます。 アクセス権マスク一覧に選択したアクセス権マスクが表示されます。
- (10)手順 6 に進みます。

◆ アクセス権マスクを編集する

- (1) [アクセス権の設定] 画面- [アクセス権マスク] タブのページのアクセス権マスク一覧から、編集する アクセス権マスクを選択します。
- (2)[編集] をクリックします。 [アクセス権の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。 [アクセス権の設定] 画面 – [アクセス権マスク] タブのページが表示されます。 アクセス権マスク一覧に選択したアクセス権マスクが表示されます。
- (5) 手順 <u>6</u> に進みます。

◆ アクセス権マスクを削除する

- (1) [アクセス権の設定] 画面-[アクセス権マスク] タブのページのアクセス権マスク一覧から、削除する アクセス権マスクを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したアクセス権マスクが削除されます。
- (3) 手順 <u>6</u> に進みます。
- ◆ アクセス権マスクをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"userRole","privilege"
Everyone,"getAttribute"
Others,"getAttribute"
{ユーザーロール A},"getAttribute|viewContent"
{ユーザーロール B},"getAttribute"
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u>を参照してください。

- (1) [アクセス権の設定] 画面 [アクセス権マスク] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するアクセス権マスクの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定ファイルに記述されているアクセス権マスクが読み込まれます。

(5) 手順 <u>6</u> に進みます。

- 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ アクセス権マスクをファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [アクセス権の設定] 画面 [アクセス権マスク] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するアクセス権マスクの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているアクセス権マスクが、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 <u>6</u>に進みます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

6. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、およびインポートで設定した内容は、[OK]をクリックしたときに反映されます。

6.6.7 ユーザー属性を設定する

キャビネットにユーザー属性を設定する手順を説明します。

キャビネットにユーザー属性を追加できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット 管理者だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、ユーザー属性を設定できます。

- 補足・キャビネットが分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネットの場合は、ユーザー属性を設定できません。
 - ・キャビネットに設定するユーザー属性は、あらかじめ設定されているユーザー属性の一覧から選択します。
- 参照 ユーザー属性を設定する手順は、「<u>15.1 ユーザー属性の追加」(P.273)</u>を参照してください。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。

3. メニューバーの [キャビネット操作] > [ユーザー属性の設定] を選択します。

[ユーザー属性の設定] 画面が表示されます。

-ザ-属性の設定				×
登録されているユーザー	-属性の一覧			
属性ID	属性名	属性型	型種別	エクスポート
user:sampleno	試作番号	文字列型 (string)	単値	
user:uri multivalue	URI型(多値)	URI型 (uri)	多值:5	
user:uri_single	URI型(単値)	URI型 (uri)	単値	
user:userrole_sing	ユーザーロール型(…	ユーザーロール型(…	単値	
user:userroles	ユーザーロール型(…	ユーザーロール型(…	多値:10	
属性ID	属性名	属性型	型種別	追加
新規に登録するユーザ	ー属性の一覧			
				削除
				へました
				12/0-1
				OK キャンセル

図:[ユーザー属性の設定] 画面

補足
既存のキャビネットに設定されたユーザー属性を削除できません。この削除は、「新規に登録する属性 一覧から削除」という操作になります。

4. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ ユーザー属性を追加する

- (1) [ユーザー属性の設定] 画面の [追加] をクリックします。 「属性 ID 選択〕 画面が表示されます。
- (2) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されている属性一覧に、選択したネームスペースに登録されている属性情報が表示され ます。
- (3) ユーザー属性にする属性を選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 [ユーザー属性の設定] 画面が表示されます。 新規に登録するユーザー属性の一覧に選択したユーザー属性が表示されます。
- (5) 手順 5 に進みます。

◆ ユーザー属性を削除する

既存のキャビネットに設定されたユーザー属性を削除できません。ここで説明する「ユーザー属性を削 除する」は、「新規に登録する属性一覧から削除する」という操作です。

- (1) [ユーザー属性の設定] 画面の新規に登録するユーザー属性の一覧から、削除するユーザー属性を選択し ます。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したユーザー属性が削除されます。
- (3) 手順 5 に進みます。
- ◆ ユーザー属性をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"attrId" tokyo:drawingNumber tokyo:cost



参照 記述方法については、[3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル (P.30) を参照してください。

- (1) [ユーザー属性の設定] 画面の [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加する属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている属性が、新規に登録するユーザー属性の一覧として読み込まれます。

- (5) 手順5 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1 行ずつ読み込まれます。
 - ・指定したユーザー属性が必要とするデータベースの列が 900 個を超えるユーザー属性の追加をしよ うとすると、警告メッセージが表示され、読み込みを終了します。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップさ れます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ ユーザー属性をファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [ユーザー属性の設定] 画面の [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するユーザー属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

登録されているユーザー属性の一覧が、設定ファイルとして保存されます。

- (5) 手順 5 に進みます。
- **5.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、およびインポートで設定した内容は、[OK]をクリックしたときに反映されます。

注記
ユーザー属性の追加中にエラーが発生した場合や、管理サーバーの処理の実行が中断された場合、処理に よって追加された属性は残ってしまうため、操作を再実行するとエラーになります。 この場合、キャビネットの情報表示を行うことで追加された属性を特定し、その属性をユーザー属性リスト ファイルから削除したあとで、操作を再実行してください。

インデックスキーを設定する 6.6.8

キャビネットのインデックスキーの設定について説明します。

インデックスキーを設定する

キャビネットのインデックスキーを設定する手順を説明します。 キャビネットのインデックスキーまたはユニークキーを作成できるのは、サービス管理者および操作対象キャ ビネットのキャビネット管理者だけです。 キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、インデックスキーを設定できます。

補足 キャビネットが分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネットの場合は、インデックス キーを設定できません。

- 1.[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス]タブのページで、左側の[階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネット から、操作対象のキャビネットを選択します。

3. メニューバーの [キャビネット操作] > [インデックスキー] > [インデックスキーの追加] を選択し ます。

[インデックスキーの追加] 画面が表示されます。

インデックスキーの追加				×
「登録されているイン	デックスキーの一覧			
ID	ユニークキー	属性名		エクスポート
「新規に登録するイン	ッデックスキーの一覧	د ع		
ID	ユニークキー	属性名		スロノル
			OK	キャンセル

図:[インデックスキーの追加] 画面

- 4. 操作に応じて、次の手順に進みます。
- ◆ インデックスキーを追加する
- (1) [インデックスキーの追加] 画面の [追加] をクリックします。 [インデックスキーの指定] 画面が表示されます。
- (2) [ID] に、設定するインデックスキーの ID を入力します。
- (3) ユニークキーである場合は、「ユニークキー」にチェックマークを付けます。
- (4) 必要に応じて、[追加]、[削除]を使って、インデックスキーを構成する属性を追加、削除します。
- (5) 必要に応じて、[上へ]、[下へ]を使って、選択した属性の順番を変更します。
- (6) [OK] をクリックします。 [インデックスキーの追加] 画面が表示されます。 新規に登録するインデックスキー一覧には、設定したインデックスキーが表示されます。
- (7) 必要に応じて、手順1~手順6を繰り返します。
- (8) 手順5 に進みます。
- ◆ インデックスキーをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"keyId", "option", "keyList" index1,,system:name|system:mimeType index2, unique, tokyo:drawingNumber



参照 記述方法については、[3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル|(P.30) を参照してください。

- (1) [インデックスキーの追加] 画面の [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するインデックスキーの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。

(4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているインデックスキーが、新規に登録するインデックスキー一覧に表示が追加されます。

- (5) 手順5 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。

・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

- ◆ インデックスキーをファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [インデックスキーの追加] 画面の [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するインデックスキーの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。
 設定されているインデックスキーが、設定ファイルとして保存されます。
- (5) 手順 5 に進みます。
- **5.** [OK] をクリックします。
 - [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、およびインポートで設定した内容は、[OK]をクリックしたときに反映されます。

- 注記 ・処理中にエラーが発生した場合、処理の完了したインデックスは、そのまま残ってしまいます。この場合、 エラーの原因を除いたあとに、残りのインデックスを作成するときは、キャビネットの情報表示の操作に よって、すでに作成済みのインデックスを特定し、その指定を、keyListFile から削ったあと、本操作を再 実行してください。
 - ・インデックスの追加中に、何らかの原因で管理サーバーが異常終了した場合、インデックスの有無に不整 合が生じることがあります。
 - この場合、キャビネットの情報表示を行うことで不整合な状態のインデックスを特定し、不整合な状態の インデックスを削除してから、インデックスを再作成してください。
 - ・多くのインデックスキーや複雑なユニークキーを作成すると、オブジェクトの登録や更新に時間がかかります。

必要最小限のインデックスキーまたはユニークキーを作成してください。

インデックスキーを削除する

キャビネットのインデックスキーを削除する手順を説明します。

- 補足・キャビネットのインデックスキーまたはユニークキーを削除できるのは、サービス管理者および操作対象 キャビネットのキャビネット管理者だけです。
 - ・キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、インデックスキーを削除できます。
 - ・キャビネットが分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネットの場合は、インデックス キーを設定できません。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。

3. メニューバーの [キャビネット操作] > [インデックス] > [インデックスキーの削除] を選択します。 [インデックスキーの削除] 画面が表示されます。

「インデックスキー	
チェック ID ユニークキー 属性名	
ロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロ	

図:[インデックスキーの削除] 画面

- 4. 削除するインデックスキーの左側に表示されているチェックボックスにチェックマークを付けます。
- **5.** [OK] をクリックします。

選択したインデックスキーが削除され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

注記 ・処理中にエラーが発生した場合、処理の完了したインデックスは、そのまま残ってしまいます。 この場合、エラーの原因を除いたあとに、残りのインデックスを作成するときは、キャビネットの情報表 示の操作によって、すでに作成済みのインデックスを特定し、その指定を、keyListFile から削ったあと、 本操作を再実行してください。

・インデックスの追加中に、何らかの原因で管理サーバーが異常終了した場合、インデックスの有無に不整合が生じることがあります。

この場合、キャビネットの情報表示を行うことで不整合な状態のインデックスを特定し、不整合な状態の インデックスを削除してから、インデックスを再作成してください。

6.6.9 状態定義を設定する

キャビネットの状態定義を設定する手順を説明します。キャビネットに対して状態定義と状態遷移定義を設定 した場合、クラスなしのオブジェクトに対して設定したことになります。 キャビネットの状態定義を設定できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理 者だけです。 キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、状態定義を設定できます。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [状態定義の設定] を選択します。 [状態定義の設定] 画面 – [状態定義] タブのページが表示されます。

状態定義の設定			×
状態定義 状態遷移定義			
状態定義:			
状態	ロール	権限	追加
固定	全てのユーザーロール	属性取得権 コンテント取	編集
廃棄 須集可能	全てのユーザーロール 全てのユーザーロール	属性取得格士属性設定格	肖北帝
		세퍼 III 세지 IT II 또 세퍼 III 등 지난 II 또…	11 1644
			インボート
			エクスポート
初期状態: 編集可能	~		

図:[状態定義の設定] 画面 – [状態定義] タブのページ

4. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ 状態定義を追加する

- (1) [状態定義の設定] 画面- [状態定義] タブのページの [追加] をクリックします。 [状態定義の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されているアトム一覧に、選択したネームスペースに登録されているアトム一覧が表示 されます。
- (3) [ロールの参照]をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (4)検索対象とする [種別]のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (5) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (6) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (7)状態定義を設定するロール名を選択します。
- (8) [OK] をクリックします。 [状態定義の指定] 画面が表示されます。 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が、表示されます。
- (9) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (10)[OK] をクリックします。

[状態定義の設定] 画面 – [状態定義] タブのページが表示されます。 状態定義一覧に選択した状態定義が表示されます。

(11)手順5に進みます。

◆ 状態定義を編集する

- (1) [状態定義の設定] 画面 [状態定義] タブのページの状態定義一覧から、編集する状態定義を選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [状態定義の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。
 [状態定義の設定] 画面 [状態定義] タブのページが表示されます。
 状態定義一覧に選択した状態定義が表示されます。
- (5) 手順 5 に進みます。

◆ 状態定義を削除する

- (1) [状態定義の設定] 画面 [状態定義] タブのページの状態定義一覧から、削除する状態定義を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択した状態定義が削除されます。
- (3) 手順5に進みます。

◆ 状態定義をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"status","userRole","privilege","initialStatus",J
system:editable,Everyone,
"getAttribute|setAttribute|getContent|setContent|deleteObject|addChild|remov
eChild|printContent|viewContent|changeAcl|changeStatus|changeLock|addRevisio
n|removeRevision",true,J
system:fixed,Everyone, "getAttribute|getContent|deleteObject|printContent
|viewContent|changeAcl|changeStatus|changeLock|addRevision|removeRevision",
,
J
system:obsolete,,,,J
tokyo:issued, {ユーザーロール A}, "getAttribute|viewContent|deleteObject|
printContent|viewContent|changeAcl|changeStatus",,J

- 参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。
- (1) [状態定義の設定] 画面 [状態定義] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加する状態定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている状態定義が読み込まれます。

- (5) 手順5 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
 - ・ただし、状態定義ファイル中で initialStatus パラメーターに true を指定したエントリーがない場合、エラーにはならず、初期状態の設定は変更されません。
 - · [初期状態] に設定されている状態と異なる状態が初期状態として読み込まれた場合、確認画面が表示されます。
- ◆ 状態定義をファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [状態定義の設定] 画面 [状態定義] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存する状態定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されている状態定義が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 <u>5</u>に進みます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

- 5. 必要に応じて、[初期状態] プルダウンメニューからキャビネット作成時の初期状態を設定します。
- **6.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、インポート、およびエクスポートで設定した内容は、[OK] をクリックしたとき に反映されます。

6.6.10 状態遷移定義を設定する

キャビネットの状態遷移定義を設定する手順を説明します。キャビネットに対して状態定義と状態遷移定義を 設定した場合、クラスなしのオブジェクトに対して設定したことになります。

補足 キャビネットに対して、状態定義は 20 種類まで設定できます。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [状態定義の設定] を選択します。 [状態定義の設定] 画面 – [状態定義] タブのページが表示されます。

4. [状態遷移定義の設定] タブを選択します。

[状態定義の設定] 画面- [状態遷移定義] タブのページが表示されます。

状態定義の設定			×
状態定義 状態遷移定義			
状態遷移定義:			
遷移前の状態	遷移後の状態	対象のロール	追加
固定	編集可能	全てのユーザーロール	編集
固定 廃棄	廃棄 編集可能	<u>全てのユーザーロール</u> 全てのユーザーロール	肖北徐
廃棄	固定	全てのユーザーロール	イボート
編集可能 編集可能	固定 廃桒	全てのユーザーロール 全てのユーザーロール	エクスポート

図:[状態定義の設定] 画面- [状態遷移定義] タブのページ

5.操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ 状態遷移定義を追加する

- (1) [状態定義の設定] 画面 [状態遷移定義] タブのページの [追加] をクリックします。 [状態遷移定義の指定] 画面が表示されます。
- (2) [遷移前の状態]から、遷移前の状態を選択します。
- (3) [遷移後の状態]から、遷移後の状態を選択します。
- (4) 状態遷移の対象となるロールを指定します。 必要に応じて、[追加]をクリックして表示される[ロールの選択]画面から、ロールを指定します。
- (5) [OK] をクリックします。
 [状態定義の設定] 画面 [状態遷移定義] タブのページが表示されます。
 権限一覧には、設定した状態遷移定義が表示されます。
- (6) 手順 6 に進みます。
- ◆ 状態遷移定義を編集する
- (1) [状態定義の設定] 画面 [状態遷移定義] タブのページの状態遷移定義一覧から、編集する状態遷移定 義を選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [状態遷移定義の編集] 画面が表示されます。
- (3) 状態遷移の対象となるロールを変更します。 [追加]をクリックして表示される[ロールの選択]画面から、ロールを指定します。
- (4) [OK] をクリックします。 [状態定義の設定] 画面 – [状態遷移定義] タブのページが表示されます。

(5) 手順 6 に進みます。

◆ 状態遷移定義を削除する

- (1) [状態定義の設定] 画面- [状態遷移定義] タブのページの状態遷移定義一覧から、削除する状態遷移定 義を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。選択した状態遷移定義が削除されます。
- (3) 手順 6 に進みます。
- ◆ 状態遷移定義をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"beforeStatus", "afterStatus", "userRole"
system:editable,system:fixed,Everyone
system:editable,tokyo:issued,
system:editable,system:obsolete,Everyone
system:fixed,system:editable,Everyone
system:fixed,tokyo:issued, $\{ 2 - \# - \square - \mu B \}$
system:fixed,system:obsolete,Everyone
tokyo:issued,system:editable, $\{ 2 - \# - \square - \mu B \}$
tokyo:issued,system:fixed, {ユーザーロールB}
tokyo:issued,system:obsolete, $\{ 2 - \# - \square - \mu B \}$
tokyo:issued,system:obsolete, $\{ 2 - \# - \Pi - \mu C \}$
<pre>system:obsolete,system:editable,</pre>
<pre>system:obsolete,system:fixed,</pre>
system:obsolete,tokyo:issued,

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [状態定義の設定] 画面 [状態遷移定義] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加する状態遷移定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている状態遷移定義が読み込まれます。

- (5) 手順 <u>6</u> に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・指定したユーザー属性が必要とするデータベースの列が 900 個を超えるユーザー属性を追加しよう とすると、警告メッセージが表示され、読み込みを終了します。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ 状態遷移定義をファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [状態定義の設定] 画面- [状態遷移定義] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 書き出す状態遷移定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングをプルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定されている状態遷移定義が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 6 に進みます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

- **6.** [OK] をクリックします。
 - [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

6.6.11 オブジェクトタイプを設定する

キャビネットにオブジェクトタイプを設定する手順を説明します。

キャビネットにオブジェクトタイプを追加できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビ ネット管理者だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、オブジェクトタイプを設定できます。

補足 キャビネットが分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネットの場合は、オブジェクトタ イプを設定できません。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [オブジェクトタイプの設定] を選択します。o [オブジェクトタイプの設定] 画面が表示されます。

オブジェクトタイプの設定		×
「登録されているオブジェクト	タイプの一覧	
オブジェクトカテゴリー	オブジェクトタイプ	エクスポート
Kn0-	Kn0-	
フォルダ		-
	1×+1×2×1	
リファレンス	リファレンス	
ハードリファレンス	ハードリファレンス	
外部ドキュメント	外部ドキュメント	
動的外部ドキュメント	動的外部ドキュメント	
ורסם א	ごみ箱	
□新規に登録するオブジェク	しゅイブの一覧	
		104-
オブジェクトカテゴリー	オブジェクトタイプ	25加
		編集
		间防涂
		インボート
		OK キャンセル

図:[オブジェクトタイプの設定] 画面

- 4. 操作に応じて、次の手順に進みます。
- ◆ オブジェクトタイプを追加する
- (1) [オブジェクトタイプの設定] 画面の [追加] をクリックします。 [オブジェクトタイプの追加] 画面が表示されます。
- (2) [オブジェクトカテゴリー] プルダウンメニューから、オブジェクトタイプを選択します。

補足 追加、編集、削除、インポート、およびエクスポートで設定した内容は、[OK] をクリックしたとき に反映されます。

- (3) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されているアトム属性一覧に、選択したネームスペースに登録されているアトム属性情 報が表示されます。
- (4) [OK] をクリックします。 [オブジェクトタイプの設定] 画面が表示されます。 新規に登録するオブジェクトタイプ一覧には、設定したオブジェクトタイプが表示されます。
- (5) 必要に応じて、手順1~手順4 を繰り返します。
- (6) 手順 5 に進みます。
- ◆ オブジェクトタイプを編集する
- (1) [オブジェクトタイプの設定] 画面の新規に登録するオブジェクトタイプの一覧から、編集するオブジェクトタイプを選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [オブジェクトタイプの編集] 画面が表示されます。
- (3) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されているアトム属性一覧に、選択したネームスペースに登録されているアトム属性情 報が表示されます。
- (4) [OK] をクリックします。 [オブジェクトタイプの設定] 画面が表示されます。
- (5) 手順 5 に進みます。
- ◆ オブジェクトタイプを削除する

既存のキャビネットに設定されたオブジェクトタイプを削除できません。ここで説明する「オブジェクトタイプを削除する」は、「新規に登録するオブジェクトタイプ一覧から削除する」という操作です。

- (1) [オブジェクトタイプの設定] 画面の新規に登録するオブジェクトタイプの一覧から、削除するオブジェ クトタイプを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。
- (3) 手順 5 に進みます。
- ◆ オブジェクトタイプをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"objectCategory","objectType"
system:document,tokyo:AutoMailDocument
system:folder,tokyo:AutoMailFolder

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [オブジェクトタイプの設定] 画面の [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するオブジェクトタイプの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているオブジェクトタイプが、新規に登録するオブジェクトタイプ一覧に表示 が追加されます。 (5) 手順 5 に進みます。

- 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
 - ・すでに存在する値を追加しようとした場合は警告メッセージが表示されます。

◆ オブジェクトタイプをファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [オブジェクトタイプの設定] 画面 [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するオブジェクトタイプの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているオブジェクトタイプが、設定ファイルとして保存されます。

- (5) 手順 5 に進みます。
- **5.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、およびインポートで設定した内容は、[OK]をクリックしたときに反映されます。

6.6.12 キャビネット名を変更する

キャビネット名を変更する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネット から、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [キャビネット名の変更] を選択します。 [キャビネット名の変更] 画面が表示されます。

キャビネット	~名の変更	×
í	キャビネット名を入力してください。 商品開発部 OK キャンセル	

図:[キャビネット名の変更] 画面

- 4. キャビネット名を1~384 バイトの範囲で入力します。
- **5.** [OK] をクリックします。

キャビネット名が変更され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス] タブの ページに戻ります。

6.6.13 注釈を設定する

キャビネットに注釈を設定する手順を説明します。

補足新たな注釈を設定できるのは、キャビネットの管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [注釈の設定] を選択します。 [キャビネット注釈の設定] 画面が表示されます。

キャビネット注釈の)設定	×
注釈:	I	
		OK キャンセル

図:[キャビネット注釈の設定] 画面

- 4. [注釈] に注釈を0~512 バイトの範囲で入力します。
- **5.** [OK] をクリックします。

注釈が設定され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

6.6.14 モードを設定する

キャビネットのモードを設定する手順を説明します。

キャビネットのモードを設定できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [キャビネットのモード変更] を選択します。 [キャビネットのモード変更] 画面が表示されます。
- 4. 変更に応じて、次の手順に進みます。
- ◆ 通常モードからメンテナンスモードに変更する



図:[キャビネットのモード変更]画面(通常モードからメンテナンスモードに変更する場合)

参照 キャビネットのモードを設定したときに操作できる機能については、「付録 A モード別機能一覧」(P.280) を参照してください。

- (1) [キャビネットのモード変更] 画面で、ラジオボタンを選択します。
- (2) [はい] をクリックします。 手順<u>1</u>で選択したラジオボタンの条件を満たした場合、モードがメンテナンスモードに変更します。

◆ メンテナンスモードから通常モードに変更する

(1) [キャビネットのモード変更] 画面で、[はい] をクリックします。 モードが通常モードに変更します。

制限事項

・メンテナンスモードへの移行時に、[他のユーザーの操作を中断し、強制的にモードを設定する]を指定しても、ユーザーの操作が即時に中断されるとは限りません。
 内部処理の切れめで処理の中断が行われるため、場合によっては、待ち時間が数分生じる可能性があります。
 特に、イベントトレガーの同期待ち中は、モード変更の割り込みができないため、設定によっては長期化

特に、イベントトリガーの同期待ち中は、モード変更の割り込みができないため、設定によっては長期化 することがあります。

- ・メンテナンスモードへ移行するとき、キャビネットのモードは、移行中を示す値になります(ラジオボタンで選択した指定に応じて、通常移行中か即時移行中かを示す値が設定されます)。
 移行が完了する前に、管理サーバーのプロセスを強制終了させた場合、キャビネットのモードが移行中を示す値のままになることがあります。その場合、再度、本操作で、モードを通常またはメンテナンスに設定する必要があります。
- ・メンテナンスモードへの移行で、完了が待たれるユーザーの操作は、対象キャビネット、およびその中に 存在するオブジェクトに対するものだけです。サービスに対する操作や、ほかのキャビネットに対する操 作は対象外です。
- ・ドキュメント管理サービスのクライアントとなるアプリケーションによっては、ドキュメント管理サービスに対して複数の処理を行うことで1つの操作が成功したこととする場合があります。たとえば、コピー操作の場合は「コピー処理」+「再表示処理」などです。
 あるユーザーがこのような操作を行っているときに、本機能で[他のユーザーの操作が完了するまで待つ]
- あるユーリーかとのような保住を行うているとさに、本機能で「他のユーリーの保住が元」するよで行う」 を指定してメンテナンスモードへ移行した場合、「コピー処理」が完了したあとでメンテナンスモードにな ります。そのため、「再表示処理」を行うために、あるオブジェクトのリスト取得に失敗するケースが考え られます。
- このようなケースでは、本来行いたい「コピー処理」は成功しているが、コピー操作を行っているユー ザーには「キャビネットがメンテナンスモードのため、処理が受け付けられない」旨のエラーが表示され ます。

そのため、通常モードに復帰したあとに処理結果を確認することを推奨します。

・[他のユーザーが操作中ならあきらめる]を指定したときにモード変更をあきらめる対象となる操作、および[他のユーザーの操作を中断し、強制的にモードを設定する]を指定して強制的に中断させられる操作は、通常セッションを使った操作だけです。

キャビネットに対し管理操作が実行されていた場合、モード変更操作は、キャンセル可能な操作が実行されていた場合を除き、実行中の管理操作の完了を待ってから処理されます。

そのため、ほかの管理操作が実行中でも、[他のユーザーが操作中ならあきらめる]を指定したモード変更 操作は即座にエラーにはならず、[他のユーザーの操作を中断し、強制的にモードを設定する]を指定した モード変更操作は、ほかの管理操作を中断しません。

実行中の管理操作がキャンセル可能なものであった場合、モードの変更操作はエラーになります。

6.6.15 管理操作をキャンセルする

キャビネットの管理操作をキャンセルする手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [管理操作のキャンセル] を選択します。 [管理操作のキャンセル] 画面が表示されます。
- **4.** [OK] をクリックします。

操作がキャンセルされ、[管理操作のキャンセル] 画面が閉じます。

注記 操作は、即座にキャンセルされません。セッション情報の表示で確認すると、中断が完了するまで、キャン セル処理中であると表示されます。

6.6.16 ごみ箱を設定する

ごみ箱の設定について説明します。

ごみ箱を作成する

キャビネットにごみ箱を作成する手順を説明します。

- キャビネットにごみ箱を作成できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者 だけです。
- キャビネットにごみ箱を作成できるのは、メンテナンスモードの場合だけです。
 - 補足 キャビネットラベルが"標準キャビネット(public)"、"標準キャビネット(EDMICS2000移行済) (dmsPublic)"または"ワークスペースキャビネット(workSpace)"以外のキャビネットでは、操作できません。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [ごみ箱] > [作成] を選択します。 [ごみ箱の作成] 画面が表示されます。

ごみ箱の作成	×
ごみ箱名:	recycleBin
ストレージパス:	
注釈:	
	OK キャンセル

図:[ごみ箱の作成] 画面

- 4. [ごみ箱名] に、作成するごみ箱の名前を入力します。この項目は必ず入力してください。
 - 補足・入力できるごみ箱名は、最大 384 バイトです。・デフォルトのごみ箱名は「recycleBin」です。

- 5. [ストレージパス] に、作成するごみ箱が指定するストレージパスを絶対パスで入力します。
 - 補足・必須の入力項目です。
 - ・設定できる値は、英数字と記号だけです。
 - ・設定できる文字列の長さは1~165バイトの範囲です。
 - ・複数のサーバーからなるクラスター構成のサービスの場合は、次の条件を満たすストレージパスを指 定します。
 - すべてのサーバーで常に共有される領域であること
 - すべてのサーバーから同じパスでアクセスできること
 - すべてのサーバーから、サービスの起動アカウントでアクセスするとき、認証などの特別な処理が 必要でないこと
- 6. [注釈] に、ごみ箱に付ける注釈を入力します。
 補足 入力できる注釈は最大 512 バイトです。
- **7.** [OK] をクリックします。 ごみ箱が作成され、作成結果の確認画面が表示されます。
- **8.** [OK] をクリックします。

作成結果の確認画面が閉じます。

ごみ箱の情報を確認する

キャビネットのごみ箱情報を確認する手順を説明します。

- 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"、または"ワークスペースキャビネット (workSpace)"の場合だ けです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [ごみ箱] > [情報表示] を選択します。 [ごみ箱情報の表示] 画面が表示されます。
- 4. ごみ箱情報を確認します。
- **5.** [OK] をクリックします。 [ごみ箱情報の表示] 画面が閉じます。

ごみ箱の名前を変更する

- キャビネットのごみ箱の名前を変更する手順を説明します。
 - 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット(public)"、"標準キャビネット (EDMICS2000移行済)(dmsPublic)"、または"ワークスペースキャビネット(workSpace)"の場合だ けです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。

注記 何らかの原因で管理サーバー側の処理が中断されると、その時点までに作成されたストレージ用のディレク トリーは、削除されません。

- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [ごみ箱] > [設定] > [名前] を選択します。 [ごみ箱名の変更] 画面が表示されます。

ごみ箱名(D変更	×
í	ごみ箱名を入力してください。 recycleBin OK キャンセル	

図:[ごみ箱名の変更] 画面

4. 入力フィールドに、新しいごみ箱名を入力します。

補足 入力できるごみ箱名は、最大 384 バイトです。

5. [OK] をクリックします。

[ごみ箱名の変更] 画面が閉じて、ごみ箱名が変更されます。

ごみ箱のストレージパスを変更する

キャビネットのごみ箱のストレージパスを変更する手順を説明します。

- キャビネットのごみ箱のストレージパスを変更できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットの キャビネット管理者だけです。
- キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、ストレージパスを変更できます。
 - 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"、または"ワークスペースキャビネット (workSpace)"の場合だ けです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [ごみ箱] > [設定] > [ストレージパス] を選択します。 [ストレージパスの変更] 画面が表示されます。

ストレージノ	パスの変更	\times
í	ストレージパスを入力してください。 C:¥tmp¥recycleBin OK キャンセル	

図:[ストレージパスの変更] 画面

- 4. 入力フィールドに、ごみ箱の新しいストレージパスを入力します。
 - 補足・設定できる値は、英数字と記号だけです。
 - ・設定できる文字列の長さは、1~165バイトの範囲です。
 - ・複数のサーバーからなるクラスター構成のサービスの場合は、次の条件を満たすストレージパスを指定します。
 - すべてのサーバーで常に共有される領域であること
 - すべてのサーバーから同じパスでアクセスできること
 - すべてのサーバーから、サービスの起動アカウントでアクセスするとき、認証などの特別な処理が 必要でないこと
- **5.** [OK] をクリックします。

ストレージパスが変更され、処理結果の確認画面が表示されます。

- [OK] をクリックします。
 処理結果の確認画面が閉じます。
- 7. 変更後のストレージパスの下に、変更前のストレージパスの下のフォルダーを移動、またはコピーします。

ごみ箱の注釈を変更する

キャビネットのごみ箱の注釈を変更する手順を説明します。

補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"、または"ワークスペースキャビネット (workSpace)"の場合だ けです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、[キャビネット操作] から [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [ごみ箱] > [設定] > [注釈] を選択します。 [ごみ箱注釈の設定] 画面が表示されます。

ごみ箱注釈の設定	×
 注釈を入力してください。 I 	
OK キャンセル	

図:[ごみ箱注釈の設定] 画面

4. 入力フィールドに、ごみ箱に付与する新しい注釈を入力します。

補足 入力できる注釈は最大 512 バイトです。

5. [OK] をクリックします。

[ごみ箱注釈の変更] 画面が閉じて、新しい注釈が付与されます。

ごみ箱を削除する

キャビネットのごみ箱を削除する手順を説明します。

キャビネットのごみ箱を削除できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者 だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、ごみ箱を削除できます。

- 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"、または"ワークスペースキャビネット (workSpace)"の場合だ けです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [ごみ箱] > [削除] を選択します。 [ごみ箱の削除] 画面が表示されます。

- **4.** [OK] をクリックします。 ごみ箱が削除され、処理結果の確認画面が表示されます。
- **5.** [OK] をクリックします。 処理結果の確認画面が閉じます。
- 6. 確認画面で指示された項目を削除します。

注記
ストレージ領域に格納されているコンテントのファイルは、別途削除する必要があります。

6.6.17 キャビネットの操作制約パターンラベルを設定する

キャビネットの操作制約パターンラベルを設定する手順を説明します。 キャビネットに操作制約パターンラベルを設定できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットの キャビネット管理者だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、操作制約パターンラベルを設定できます。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [操作制約の設定] を選択します。 [操作制約の設定] 画面が表示されます。
- 4. [操作制約パターンラベル] プルダウンメニューで、操作制約パターンレベルを選択します。
- **5.** [OK] をクリックします。
- ◆ [操作制約パターンラベル] が [制約なし] の場合 [e 文書法対応] にするかどうかの確認画面が表示されます。
- (1) [はい] をクリックすると、[e 文書法対応] に設定されます。 [いいえ] をクリックすると、[e 文書法対応] に設定されません。 確認画面が閉じます。
- ◆ [操作制約パターンラベル] が [e 文書法対応] の場合 確認画面が表示されます。
- (1) [OK] をクリックします。 確認画面が閉じます。

6.6.18 アカウントログを設定する

アカウントログの設定について説明します。

参照 アカウントログの詳細については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

アカウントログの設定を確認する

アカウントログの設定を確認する手順を説明します。 アカウントログの設定を変更できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者 だけです。

補足 操作制約パターンラベルが設定できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット(public)"、"標準 キャビネット(EDMICS2000移行済)(dmsPublic)"の場合だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- 3. メニューバーの [キャビネット操作] > [アカウントログ] > [アカウントログの表示] を選択します。 [アカウントログの表示] 画面- [全般] タブのページが表示されます。 [ログ保存先ディレクトリ名] のパスに表示される \${logHome}は、次のパスを指しています。 {ArcSuite のユーザーホームフォルダー} ¥Service¥logs¥Repository

- 4. アカウントログの設定内容を確認します。 必要に応じて、[アカウントログの表示] 画面 – [ログ採取対象] タブのページ、[アカウントログの表示] 画面 – [オブジェクト特定属性] タブのページの設定内容を確認します。
- **5.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

アカウントログを設定する

アカウントログを設定する手順を説明します。

アカウントログの設定を変更できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者 だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [アカウントログ] > [アカウントログの設定] を選択します。 [アカウントログの設定] 画面- [全般] タブのページが表示されます。

アカウントログの設定				×
全般。口グ採取対象	オブジェクト特定属性			
۲)アカウントログを記録しない。			
С)アカウントログを採取する。			
٦٦	ールオーバー			
(● 日単位			
(○月単位			
(◯ ファイルサイズ単位			
	基準ファイルサイズ:	10	мв	
	最大バックアップ数:	4		
		L		

図:[アカウントログの設定]画面- [全般] タブのページ

- **4.** アカウントログを記録するかどうかを、ラジオボタンで選択します。 記録しない場合は、[アカウントログを記録しない]を選択します。
- 5. ロールオーバーする基準を、ラジオボタンを選択します。 [日単位] または [月単位] を選択した場合は、手順 8 に進みます。 [ファイルサイズ単位] を選択した場合は、手順 6 に進みます。

補足 {ArcSuite のユーザーホームフォルダー} は、ArcSuite の設定、ログ、データを配置する基準となる ディレクトリーです。インストール時に指定します。

- **6.** [基準ファイルサイズ] に、ログファイルをロールオーバーするときに基準となるファイルサイズを1 ~ 4,000 の範囲で入力します。初期値は 10 です。
- 7. [最大バックアップ数] に、ログファイルをロールオーバーするときの最大バックアップファイル数を1 ~ 1,000 の範囲で入力します。初期値は4です。
- 8. [ログ採取対象] タブをクリックします。

[アカウントログの設定]画面- [ログ採取対象] タブのページが表示されます。

カウントログの設定		×
設 ログ採取対象 オブジェク	小特定属性	
」グ採取対象:		
チェック	ログ採取対象	
\checkmark	新規登録	~
\checkmark	取得	
\checkmark	表示処理用の取得	
\checkmark	印刷処理用の取得	
\checkmark	変更	
\checkmark	削除	
\checkmark	検索	
\checkmark	一覧	
\checkmark	コピー(コピー元)	
\checkmark	コピー(コピー先)	
\checkmark	移動(キャビネット内)	
\checkmark	版管理開始	
\checkmark	版管理取り消し	
\checkmark	チェックアウト	
\checkmark	チェックイン	
\checkmark	チェックアウト取り消し	~

図:[アカウントログの設定]画面-[ログ採取対象]タブのページ

9. アカウントログを採取する操作対象を指定します。

アカウントログを採取するログ採取対象の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマーク を付けます。初期の段階では、すべてのログ採取対象にチェックマークが付いています。

10.[オブジェクト特定属性] タブを選択します。

[アカウントログの設定]画面- [オブジェクト特定属性] タブのページが表示されます。

アカウントロク	の設定				×
全般ログ	採取対象	オブジェクト特定属性			
オブジェクト	特定属性:				
属性ID		属性名	属性型	型種別	追加
systemina	me	名前	文字列型 (string)	単値	削除
					インポート
					エクスポート

図:[アカウントログの設定]画面- [オブジェクト特定属性] タブのページ

11.操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ オブジェクト特定属性を追加する

- (1) [アカウントログの設定] 画面- [オブジェクト特定属性] タブのページで、[追加] をクリックします。 [属性 ID 選択] 画面が表示されます。
- (2) オブジェクト特定属性にする属性を選択します。
- (3) [OK] をクリックします。

[アカウントログの設定] 画面- [オブジェクト特定属性] タブのページが表示されます。 オブジェクト特定属性一覧には、選択した特定属性が表示されます。

(4) 手順 <u>12</u> に進みます。

- ◆ オブジェクト特定属性を削除する
- (1) [アカウントログの設定] 画面- [オブジェクト特定属性] タブのページの特定属性一覧から、削除する 特定属性を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択した特定属性が削除されます。
- (3) 手順 12 に進みます。
- ◆ オブジェクト特定属性をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。

◎ 照 設定ファイルの詳細については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

(1) [アカウントログの設定] 画面- [オブジェクト特定属性] タブのページの [インポート] をクリックし ます。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2) 追加する属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定ファイルに記述されている属性が、特定属性一覧に表示が追加されます。
- (5) 手順 <u>12</u> に進みます。

◆ オブジェクト特定属性をファイルに保存する(エクスポート)

(1) [アカウントログの設定] 画面- [オブジェクト特定属性] タブのページの [エクスポート] をクリック します。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存するオブジェクト特定属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定されている特定属性が、設定ファイルとして保存されます。
- (5) 手順 12 に進みます。
- 12.[OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

アカウントログの設定をリロードする

アカウントログの設定をリロードする手順を説明します。 アカウントログの設定をリロードできるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管 理者だけです。

なお、対象キャビネットはメンテナンスモードである必要があります。

- 1. [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示]エリアから [サービス]を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネット から、操作対象のキャビネットを選択します。
- 3. メニューバーの [キャビネット操作] > [アカウントログ] > [アカウントログ設定のリロード] を選 択します。

[アカウントログ設定のリロード] 画面が表示されます。

4. [はい] をクリックします。

アカウントログの設定がリロードされ、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

6.6.19 操作ログを設定する

キャビネットに設定または適用されている操作ログの設定について説明します。

補足 操作ログについては、「<u>8 操作ログの設定|(P.183)</u>を参照してください。

設定済みの操作ログを確認する

キャビネットに設定または適用されている操作ログの設定内容を確認する手順を説明します。 操作ログのキャビネット設定を確認できるのは、サービス管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [操作ログ] > [キャビネット設定の表示] を選択します。 [操作ログのキャビネット設定の表示] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- 4. 確認する内容に応じてタブをクリックして、操作ログのキャビネット設定を確認します。

◆ [全般] タブ

[操作ログのキャビネット設定の表示] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。 操作ログを記録しているかどうかを確認できます。

・操作ログ記録の設定状況 操作ログ記録の設定状況を「操作ログを記録しない。」、「操作ログを記録する。」のどちらかのラジオ ボタンが表示されます。

◆ [対象オブジェクトカテゴリー] タブ

[操作ログのキャビネット設定の表示] 画面 – [対象オブジェクトカテゴリー] タブのページが表示されます。

操作ログの記録対象となるオブジェクトカテゴリーを確認できます。

- ・[チェック]
 チェックボックスにチェックマークが付いている場合、そのオブジェクトカテゴリーが記録対象であることを示します
- [ID]

オブジェクトカテゴリーの ID が表示されます。

・[名前]

オブジェクトカテゴリーの名前が表示されます。

◆ [対象操作] タブ

[操作ログのキャビネット設定の表示]画面- [対象操作] タブのページが表示されます。 操作ログで記録する対象の操作が確認できます。

- ・[チェック] チェックボックスにチェックマークが付いている場合、その操作が記録対象であることを示します。
- ・[対象操作] 操作の名前が表示されます。

◆ [オブジェクト特性属性] タブ

[操作ログのキャビネット設定の表示]画面- [オブジェクト特性属性] タブのページが表示されます。 設定されているオブジェクト特性属性を確認できます。

- ・[属性 ID] {nameSpace}:{name}の形式で属性 ID が表示されます。
- ・[属性名]
 属性の表示名が表示されます。
- ・[属性型] 属性の型が表示されます。
- ・[型種別] 属性が単値であるか多値であるかが表示されます。
- ・[エクスポート] クリックすると、[ファイルの選択] 画面が表示されます。[ファイルの選択] 画面でファイル名を指 定して [OK] をクリックすると、一覧に表示されている属性がファイルに書き出されます。

5. 操作ログのキャビネット設定を確認したあと、[OK] をクリックします。 [操作ログのキャビネット設定の表示] 画面が閉じます。

操作ログを設定する

キャビネットに操作ログを設定する手順を説明します。 キャビネットに操作ログを設定できるのは、サービス管理者だけです。

- 補足・キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、操作ログを設定できます。
 - ・操作ログのサービス設定が初期化されていない場合は、操作ログのサービス設定を初期化する必要があり ます。
 - アカウントログを記録する設定にした場合には、操作ログを記録できません。また、操作ログを記録する 設定にした場合には、アカウントログを記録できません。
- 参照 操作ログのサービス設定を初期化する手順は、<u>[8.7 操作ログのサービス設定の初期化](P.192)</u>を参照してください。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [操作ログ] > [キャビネット設定] を選択します。 [操作ログのキャビネット設定] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- 4. 操作ログを記録するかどうかを、ラジオボタンで選択します。

[操	作ログの削除]メニューを表示する設定	定の場合			
[操作ログを記録しない。]または [操作ログを記録する。]のどちらかを選択しま					
操作	コグのキャビネット設定	×			
全般	対象オブジェクトカテゴリー 対象操作 オブジェクト特定属性				
	◉ 操作ログを記録しない。				
	○ 操作ログを記録する。				
・[操作ログの削除] メニューを表示しない設定の場合 [操作ログの記録を開始する。] にチェックマークを付けるか、チェックマークを外すかします。

鼻作ログのキャビネット設定	Х
全般」対象オブジェクトカテゴリー 対象操作 オブジェクト特定属性	
□ 操作ログの記録を開始する。	

注記 [操作ログの削除] メニューを表示しない設定の場合、[操作ログの記録を開始する] に一度チェック マークを付けると、そのチェックマークは外すことはできません。

参照 [操作ログの削除] メニューの表示設定については、<u>「付録 B [操作ログの削除] メニューの非表示設</u> 定 (P.286) を参照してください。

5. 「対象オブジェクトカテゴリー」 タブをクリックします。

[操作ログのキャビネット設定] 画面- [対象オブジェクトカテゴリー] タブのページが表示されます。

操作ログのキャビネット記	受定	×	
全般 対象オブジェク	トカテゴリー 対象操作 オブジェクト特定属性		
対象オブジェクトカテゴ	y–:		
チェック	ID	名前	
\checkmark	system:folder	system:folder フォルダ	
\checkmark	system:document	ドキュメント	
	system:externaldocument	外部ドキュメント	
	system:dynamicexternaldocument	動的外部ドキュメント	
	system:reference	リファレンス	
	system:hardreference	ハードリファレンス	
	system:externalreference	外部リファレンス	

図:[操作ログのキャビネット設定]画面- [対象オブジェクトカテゴリー] タブのページ

6. 操作ログの記録対象とするオブジェクトカテゴリーの [チェック] にチェックマークを付けます。

7. [対象操作] タブをクリックします。

[操作ログのキャビネット設定] 画面- [対象操作] タブのページが表示されます。

鼻作ログのキャビネット設定		Х
全般 対象オブジェクトカテゴリー 💈	「象操作」 オブジェクト特定属性	
対象操作:		
チェック	対象操作	
	新規登録	
	取得(属性のみ)	
	取得(コンテント含む)	
	表示処理用の取得(属性のみ)	
	表示処理用の取得(コンテント含む)	
	印刷処理用の取得(属性のみ)	
\square	印刷処理用の取得(コンテント含む)	
\checkmark	変更(属性のみ)	
\checkmark	変更(コンテント含む)	
\checkmark	削除	
	検索	
	一覧	
\checkmark	コピー(コピー元)	
	コピー(コピー先)	
\checkmark	移動(キャビネット内)	
\checkmark	版管理開始	~

図:[操作ログのキャビネット設定] 画面- [対象操作] タブのページ

8. 操作ログの記録対象とする操作の [チェック] にチェックマークを付けます。

9. [オブジェクト特性属性] タブをクリックします。

[操作ログのキャビネット設定] 画面- [オブジェクト特性属性] タブのページが表示されます。

	操作ログのキャビネット設	定			×
	全般 対象オブジェクトカテゴリー 対象操作 オブジェクト特定属性				
	オブジェクト特定属性:				
	属性ID	属性名	属性型	型種別	追加
l	system:contenttype	コンテントタイプ	文字列型 (string)	単値	肖北余
l	system:editionlabel	版名称	文字列型 (string)	単値	
l	system:editionnum	版番号	整数型 (integer)	単値	インポート
l	system:filename	ファイル名	文字列型 (string)	単値	エカフーゼート
	system:latesteditio	最新版フラグ	ブール型 (boolean)	単値	TOYWER
	systeminame	名前	文字列型 (string)	単値	
l					

図:[操作ログのキャビネット設定] 画面- [オブジェクト特性属性] タブのページ

10.操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ オブジェクト特定属性を追加する

(1) [操作ログのキャビネット設定] 画面 – [オブジェクト特性属性] タブのページで、[追加] をクリック します。 [属性 ID 選択] 画面が表示されます。

【周住ID 選択】回回が衣小されます。

- (2) オブジェクト特定属性にする属性を選択します。
 - [操作ログのキャビネット設定] 画面 [オブジェクト特性属性] タブのページが表示されます。 オブジェクト特定属性一覧に選択した特定属性が表示されます。
- (4) 手順 11 に進みます。

(3) [OK] をクリックします。

◆ オブジェクト特定属性を削除する

- (1) [操作ログのキャビネット設定] 画面 [オブジェクト特性属性] タブのページの特定属性一覧から、削除する特定属性を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。
- (3) 選択した特定属性が削除されます。
- (4) 手順 11 に進みます。
- ◆ オブジェクト特定属性をファイルから読み込む(インポート)
 ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。
 参照 設定ファイルの詳細については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。
- (1) [操作ログのキャビネット設定] 画面 [オブジェクト特性属性] タブのページの [インポート] をク リックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2) 追加する属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- **(4)** [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている属性が、特定属性一覧に表示が追加されます。

(5) 手順 <u>11</u> に進みます。

◆ オブジェクト特定属性をファイルに保存する(エクスポート)

(1) [操作ログのキャビネット設定] 画面- [オブジェクト特性属性] タブのページの [エクスポート] をク リックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存するオブジェクト特定属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。

(4) [OK] をクリックします。

設定されている特定属性が、設定ファイルとして保存されます。

- **(5)** 手順 <u>11</u> に進みます。
- **11.**[OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

6.7 設定済みのクラスを確認

キャビネットに設定されているクラスの設定内容を確認する手順を説明します。

補足
クラスのキャビネット設定を確認できるのは、サービス管理者とキャビネットの管理者だけです。

6.7.1 [クラスの表示] 画面の構成

[クラスの表示] 画面では、キャビネットに設定されているクラスを確認できます。 [クラスの表示] 画面の各項目について説明します。

項目	説明
[クラスの一覧] 表示エリア	 クラスの情報を表示します。 ・[名前] 設定されているアトムの表示名を表示します。 ・[説明] 設定されている説明を表示します。 ・[適用性] 一般操作でクラスを表示するかどうかを表示します。表示されるときは [有効]、表示されないときは[無効]と表示されます。
[詳細]	選択したクラスの[クラスの詳細表示]画面を表示します。
[デフォルトクラス]表示エ リア	クラスに設定されているデフォルトクラスを表示します。
[OK]	[クラスの表示] 画面を閉じます。

6.7.2 設定済みのクラスの内容を確認する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [クラス] > [表示] を選択します。 [クラスの表示] 画面が表示されます。
- **4.** クラスのキャビネット設定を確認したあと、[OK] をクリックします。 [クラスの表示] 画面が閉じます。

6.7.3 設定済みのクラスの詳細を確認する

- **1.** [クラスの表示] 画面で確認するクラスを選択して、[詳細] をクリックします。 [クラスの詳細表示] 画面が表示されます。
- 2. 確認する内容に応じてタブをクリックして、クラスの設定を確認します。

◆ [全般] タブ

[クラスの詳細表示]画面- [全般] タブのページが表示されます。 クラスの全般を確認できます。

- ・[クラス]
 設定されているアトムの表示名が表示されます。
 ・[説明]
 設定されている説明が表示されます。
- ・[クラス変更可能ロール]
 クラス変更ができるユーザーロールが表示されます。
- 「デフォルトクラスからのクラス変更の際にロールを無視する]
 チェックボックスにチェックマークが付いている場合、「クラス変更可能ロール」で設定したユーザー
 ロールにかかわらず、デフォルトクラスからクラス変更でできることを示します。

◆ [ユーザー属性] タブ

[クラスの詳細表示] 画面 – [ユーザー属性] タブのページが表示されます。 クラスに設定されているユーザー属性を確認できます。

- ・[登録されているユーザー属性の一覧] クラスに設定されているユーザー属性を表示します。
- ・[エクスポート]
 設定内容をファイルに保存します。
- ・[エディションキーとして利用されているユーザー属性の一覧] キャビネットにエディションキーとして設定されているユーザー属性を表示します。

◆ [属性制約] タブ

[クラスの詳細表示] 画面 – [属性制約] タブのページが表示されます。 クラスの属性制約が確認できます。

- ・[必須制約] クラスに設定した必須制約の属性を表示します。
- ・[値域制約] 値域制約が設定されているかどうかを示します。
- ・[エクスポート]
 設定内容をファイルに保存します。

◆ [状態定義] タブ

[クラスの詳細表示]画面- [状態定義] タブのページが表示されます。 クラスの状態定義が確認できます。

- ・[状態定義]表示一覧 クラスの状態、ロール、操作権限が表示されます。
- ・[初期状態] 設定されている初期状態が表示されます。
- ・[エクスポート] 設定内容をファイルに保存します。

◆ [状態遷移定義] タブ

[クラスの詳細表示]画面- [状態遷移定義] タブのページが表示されます。 クラスの状態遷移定義が確認できます。

- ・[状態遷移定義] 一覧 クラスの遷移前の状態、遷移後の状態、ロールが表示されます。
- 「エクスポート]
 設定内容をファイルに保存します。

◆ [保存期間] タブ

[クラスの詳細表示]画面-[保存期間]タブのページが表示されます。 クラスの保存期間が確認できます。

- ・[保存期間を設定する] チェックマークが付いている場合、保存期間が設定されていることを示します。
- ・[保存期間開始日時設定]: 保存期間開始日時を示します。
- ・[保存期間終了日時設定]: 保存期間終了日時を示します。

◆ [スタンプルール] タブ

[クラスの詳細表示] 画面 – [スタンプルール] タブのページが表示されます。 クラスのスタンプルールが確認できます。

- ・[状態遷移定義] 一覧 スタンプルールのカテゴリー、サブカテゴリー、表示名、名前、ID、説明が表示されます。
- 「エクスポート]
 設定内容をファイルに保存します。
- **3.** クラスの設定を確認したあと、[OK] をクリックします。 [クラスの詳細表示] 画面が閉じます。

6.8 クラスの設定

キャビネットにクラスを設定する手順を説明します。

- 補足・クラスのキャビネット設定を確認できるのは、サービス管理者とキャビネットの管理者だけです。
 - ・キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、クラスを設定できます。
 - ・スタンプルールを追加する時に、スタンプのサービス設定が初期化されていない場合は、スタンプのサービス設定を初期化する必要があります。

・スタンプルールを追加する時には、サービスにスタンプルール定義を設定する必要があります。

参照 スタンプのサービス設定を初期化する手順と、サービスにスタンプルール定義を設定する手順は、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

6.8.1 [クラスの設定] 画面の構成

[クラスの設定] 画面では、キャビネットにクラスを設定できます。

ク:	5スの設定			×
Г	クラスの一覧			
	クラス	i 兑B月	適用性	言羊糸田
				追加
				コピー追加
				編集
				肖山移余
				有効化
				無効化
	ナノオルトリフス:スな 〜			
				OK キャンセル

図:[クラスの設定] 画面

[クラスの設定] 画面の各項目について説明します。

項目	説明
[クラスの一覧] 表示エ リア	 クラスの情報を表示します。 ・ [クラス] 設定されているアトムの表示名を表示します。 ・ [説明] 設定されている説明を表示します。 ・ [適用性] 一般操作でクラスを表示するかどうかを表示します。表示されるときは [有効]、表示されないときは [無効] と表示されます。
[詳細]	選択したクラスの[クラスの詳細表示]画面を表示します。
[追加]	新規にクラス定義を追加します。
[コピー追加]	選択したクラスをコピーしてクラス定義を追加します。
[編集]	選択したクラスを編集します。
[削除]	選択したクラスを削除します。 一度キャビネットに設定したクラスは削除できません。[無効化] で無効にしま す。

項目	説明
[無効化]	選択したクラスを無効にします。 キャビネットに設定したクラスを使用しなくなったときに、設定します。
[有効化]	選択したクラスを有効にします。
[デフォルトクラス] プ ルダウンメニュー	デフォルトクラスを選択します。
[OK]	変更したクラスを設定して、[クラスの設定]画面を閉じます。
[キャンセル]	設定内容を破棄して、[クラスの設定]画面を閉じます。

6.8.2 クラスを設定する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [クラス] > [設定] を選択します。 [クラスの設定] 画面が表示されます。
- 4. [追加] をクリックします。

[クラスの追加] 画面- [全般] タブのページが	法示されます。
クラスの追加	×
全般 ユーザー属性 属性制約 状態定義 状態遷移定義 保存期間 スタンブルール	
クラス: 設定	
[X8月:	
「クラス変更割値	
クラス変更可能ロール: 全てのユーザーロール 設定	
☑ デフォルトクラスからのクラス変更の際にロールを無視する	
	OK キャンセル

図:[クラスの追加] 画面- [全般] タブのページ

- **5.** [クラス] の [設定] をクリックします。 [クラスの指定] 画面が表示されます。
- **6.** [ネームスペース] プルダウンメニューからネームスペースを選択します。 選択したネームスペースに登録されているアトムが、アトム一覧に表示されます。
- 7. アトムを選択して、[OK] をクリックします。 [クラスの追加] 画面に戻ります。
- 8. [説明] 入力フィールドに、クラスの説明を入力します。
 補足 入力できる説明は最大 2,048 バイトです。

- **9.** [クラス変更制御] エリアの [設定] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- **10.**ユーザーロールを選択して、[OK] をクリックします。 [クラスの追加] 画面に戻ります。
- 11.[ユーザー属性] タブをクリックします。

[クラスの追加] 画面- [ユーザー属性] タブのページが表示されます。

10-7-ボー属性 屋(生制的 化化学学 化化学学	と完美 (2万期間 つかごりこり		~
NG T O MULT MAY	生制体生 化乙酰乙酰胺 化乙酰乙烯	◎ 定職 1★1子外面 <タノノルニル		
診録されているユーザー層	第性の一覧			
属性口	属性名	属性型	型種別	エクスポート
1111210	10/12-0	101122	1201	
ディションキーとして利用	されているユーザー属性の一覧	[
属性ID	属性名	属性型	型時間	
upardrawipapo	図面乗号	立字列用(string)	単位	
f規に登録するユーザー	■性の一覧			
所規に登録するユーザー。 属性ID	属性の一覧 属性名	属性型	型種別	追加
近規に登録するユーザー。 病性ID userdrawingno	暦性の一覧 暦 覧 覧 覧 覧 覧 覧 覧 覧 覧 	雷性型 文字列型(string)	型種別 単値)))))))))))))))))))
所規に登録するユーザー。 属性ID userdrawingno	属性の一覧 属性名 図面番号	属性型 文字列型(string)	型種別 単値) 第2章 (小学一)
所規に登録するユーザー。 属性ID userdrawingno	属性の一覧 属性名 図面番号	爵性型 文字列型 (string)	型1種51) 単値) 追加 可原衆 インボート
所規に登録するユーザー。 原性1D user:drawingno	属性の一覧 属性名 [2]面番号	寄性型 文书列型(string)	型種別 単値) 追加 可原衆 インポート
所規に登録するユーザー 属性ID userdrawingno	属性の一覧 	新性型 文字列型 (string)	型/征形 単位	成時に 余型府 イーホント
所規に登録するユーザー。 属性ID userdrawingno	居住の一覧 居住名 [3回書号	寄性型 文字列型(strine)	型種別 単値	道加 音覧余 インポート
所規に登録するユーザー 原性ID userdrawingno	居住の一覧 居住名 図面書号	寄性型 文字列型(string)	型(低別) 単(値	道加 高加 市野命 インポート OK キャンセル
所規に登録するユーザー 属性ID userdrawingno	爾性の一覧	寄性型 文字列型(string)	型2枚版的 神師作道	・ ・ ・

12.作成するクラスにユーザー属性を設定します。操作に応じて、次の手順に進みます。

- ◆ ユーザー属性を追加する
- (1) [追加] をクリックします。[属性 ID 選択] 画面が表示されます。
- (2) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されている属性一覧に、選択したネームスペースに登録されている属性情報が表示され ます。
- (3) ユーザー属性にする属性を選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 [クラスの追加] 画面 – [ユーザー属性] タブのページが表示されます。 [新規に登録するユーザー属性の一覧] には、選択したユーザー属性が表示されます。
- (5) 手順 <u>13</u> に進みます。
- ◆ ユーザー属性を削除する
- (1) [新規に登録するユーザー属性の一覧]から、削除するユーザー属性を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したユーザー属性が削除されます。
- (3) 手順 <u>13</u> に進みます。

◆ ユーザー属性をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"attrId"
tokyo:drawingNumber
tokyo:cost

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [インポート] をクリックします。[ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するユーザー属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングをプルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている属性が、「新規に登録するユーザー属性の一覧」に表示が追加されます。

13.[属性制約] タブをクリックします。

[クラスの追加] 画面- [属性制約] タブのページが表示されます。

全般 ユーザー属性 腐性地称 状態定義 状態遷移定義 保存期間 スタンブルール - 必須腐性候補: 	クラスの、追加	×
「必須期払」 必須腐性候補: 必須腐性候補:	全般 ユーザー属性 属性制約 状態定義 状態遷移定義 保存期間 スタンブルール	
	主張 ユーリー病性 (All 2000) (八郎正朝 (八郎)(今)(元朝 (木中州朝 (スタノ)ルール) 必須期付 (法須用付け供補: 図面番号	<u>12ポート</u> エクスポート

図:[クラスの追加] 画面- [属性制約] タブのページ

- **14.**作成するクラスに属性制約を設定します。操作に応じて、次の手順に進みます。
 - ◆ 必須属性を追加する
- (1) [必須属性候補] エリアで属性を選択します。
- (2) [→] をクリックします。
 [必須属性] エリアに属性が追加されます。
- (3) 手順 <u>15</u> に進みます。
- ◆ 必須属性を削除する
- (1) [必須属性] エリアで属性を選択します。
- (2) [←] をクリックします。 [必須属性] エリアから属性が削除されます。
- **(3)** 手順 <u>15</u> に進みます。

◆ 必須属性をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"attrId", "facettype", "facetValue"
system:name,length,256
tokyo:drawingNumber,minInclusive,1
tokyo:drawingNumber,maxInclusive,1000

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [インポート]をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加する必須属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングをプルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている属性が、「必須属性候補」エリアに追加されます。

15.[状態定義] タブをクリックします。

[クラスの追加]画面- [状態定義] タブのページが表示されます。

クラスの追加			>
全般 ユーサー商性 商性制約 1人態定量	第 状態運移定義 1条仔期間 人タンフル	u-Ju	
状態定義:			
状態	0- <i>N</i>	権限	追加
固定	全てのユーザーロール	属性取得権 コンテント取得権 コンテー	續生
廃棄	全てのユーザーロール		000.745
編集可能	全てのユーザーロール	属性取得権 属性設定権 コンテント	育場余
			インポート
			T 5 7 - 40 L
			1974/P

図:[クラスの追加] 画面- [状態定義] タブのページ

16.操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ 状態定義を追加する

- (1) [追加] をクリックします。 [状態定義の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。 画面下部に表示されているアトム一覧に、選択したネームスペースに登録されているアトム一覧が表示 されます。
- (3) [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (4) 検索対象とする [種別] のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (5) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (6) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (7)状態定義を設定するロール名を選択します。
- (8) [OK] をクリックします。 [状態定義の指定] 画面が表示されます。 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が、表示されます。
- (9) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (10) [OK] をクリックします。

[クラスの追加] 画面 – [状態定義] タブのページが表示されます。 状態定義一覧に選択した状態定義が表示されます。 (11)手順 17 に進みます。

◆ 状態定義を編集する

- (1) 状態定義一覧から、編集する状態定義を選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [状態定義の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。 [クラスの追加] 画面 – [状態定義] タブのページが表示されます。 状態定義一覧に選択した状態定義が表示されます。
- (5) 手順 <u>17</u> に進みます。
- ◆ 状態定義を削除する
- (1) 状態定義一覧から、削除する状態定義を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択した状態定義が削除されます。
- **(3)** 手順 <u>17</u> に進みます。
- ◆ 状態定義をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"status","userRole","privilege","initialStatus",J
system:editable,Everyone,
"getAttribute|setAttribute|getContent|setContent|deleteObject|addChild|remov
eChild|printContent|viewContent|changeAcl|changeStatus|changeLock|addRevisio
n|removeRevision",true,J
system:fixed,Everyone, "getAttribute|getContent|deleteObject|printContent
|viewContent|changeAcl|changeStatus|changeLock|addRevision
|removeRevision",,J
system:obsolete,,,J
tokyo:issued, { ユーザーロール A }, "getAttribute|getContent|deleteObject
|printContent|viewContent|changeAcl|changeStatus",J
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

(1) [インポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2) 追加する状態定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている状態定義が読み込まれます。

- (5) 手順 17 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。 ただし、インポートした状態定義ファイルの initialStatus パラメーターに true を指定していない場合、エラーにはならず、初期状態の設定は変更されません。
 - ・[初期状態] に設定されている状態と異なる状態が初期状態として読み込まれた場合、確認画面が表示されます。

◆ 状態定義をファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [エクスポート] をクリックします。[ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存する状態定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されている状態定義が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 <u>17</u> に進みます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

- 17.必要に応じて、[初期状態] プルダウンメニューから、クラス作成時の初期状態を設定します。
- 18.[状態遷移定義] タブをクリックします。

[クラスの追加] 画面 – [状態遷移定義] タブのページが表示されます。

クラスの追加			×
全般 ユーザー属性 属性制約 状態定	義 状態遷移定義 保存期間 スタンブノ	レール	
状態遷移定義:			
遷移前の状態	遷移後の状態	対象のロール	追加
固定	編集可能	全てのユーザーロール	編集
固定	廃棄	全てのユーザーロール	
廃棄	編集可能	全てのユーザーロール	育耶余
廃棄	固定	全てのユーザーロール	/s _40 _1
編集可能	固定	全てのユーザーロール	1.245-1
編集可能	廃棄	全てのユーザーロール	エクスポート

図:[クラスの追加] 画面- [状態遷移定義] タブのページ

19.操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ 状態遷移定義を追加する

- (1) [追加] をクリックします。 [状態遷移定義の指定] 画面が表示されます。
- (2) [遷移前の状態]から、遷移前の状態を選択します。
- (3) [遷移後の状態]から、遷移後の状態を選択します。
- (4)状態遷移の対象となるユーザーロールを指定します。 必要に応じて、[追加]をクリックして表示される[ロールの選択]画面から、ユーザーロールを指定します。
- (5) [OK] をクリックします。 [キャビネットの作成] 画面- [状態遷移定義] タブのページが表示されます。 権限一覧に設定した状態遷移定義が表示されます。
- (6) 手順 <u>20</u> に進みます。

◆ 状態遷移定義を編集する

- (1) 状態遷移定義一覧から、編集する状態遷移定義を選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [状態遷移定義の編集] 画面が表示されます。
- (3) 状態遷移の対象となるユーザーロールを変更します。 [追加] をクリックして表示される [ロールの選択] 画面から、ユーザーロールを指定します。
- (4) [OK] をクリックします。 [クラスの追加] 画面 – [状態遷移定義] タブのページが表示されます。
- **(5)** 手順 <u>20</u> に進みます。

◆ 状態遷移定義を削除する

- (1) [クラスの追加] 画面- [状態遷移定義] タブのページの状態遷移定義一覧から、削除する状態遷移定義 を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択した状態遷移定義が削除されます。
- (3) 手順 20 に進みます。
- ◆ 状態遷移定義をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"beforeStatus", "afterStatus", "userRole" system:editable,system:fixed,Everyone system:editable,tokyo:issued, system:editable,system:obsolete,Everyone system:fixed,system:editable,Everyone system:fixed, tokyo:issued, $\{ 2 - \# - \square - \nu B \}$ system:fixed,system:obsolete,Everyone tokyo:issued,system:editable, $\{ \neg - \psi - \upsilon - \nu B \}$ tokyo:issued, system: fixed, $\{ 2 - \# - \Pi - \nu B \}$ tokyo:issued, system:obsolete, $\{ 2 - \# - \square - \nu B \}$ tokyo:issued,system:obsolete, $\{ 2 - \forall - \neg - \nu C \}$ system:obsolete,system:editable, system:obsolete,system:fixed, system:obsolete,tokyo:issued,

参照 記述方法については、「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル|(P.30) を参照してください。

- (1) [クラスの追加] 画面- [状態遷移定義] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加する状態遷移定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されている状態遷移定義が読み込まれます。

- (5) 手順 20 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップさ れます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ 状態遷移定義をファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存する状態遷移定義の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定されている状態遷移定義が、設定ファイルとして保存されます。
- (5) 手順 20 に進みます。

補足(ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持さ れる情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

20.[保存期間] タブをクリックします。

[クラスの追加] 画面 – [保存期間] タブのページが表示されます。 保存期間を設定しない場合は手順 <u>24</u> に進みます。

クラスの追加							×
全般 ユーサ	「一属性 属性制約	状態定義	状態遷移定義	保存期間	スタンブルール		
□ 保存 保存期間	期間を設定する 割始日時設定						
基準日	時属性:					\sim	
保存期間緣	《了日時設定――						
基準日	時属性:					\sim	
補正	期間:					\sim	
	日時:				設定	クリア	
	境界値:		○終了[日時を含める	◎ 終了日時を含めな(5	

図:[クラスの追加] 画面- [保存期間] タブのページ

- 21.[保存期間を設定する] にチェックマークを付けます。
- 22.[保存期間開始日時設定]、[保存期間終了日時設定]の[基準日時属性]プルダウンメニューで、基準日時の属性を選択します。

保存期間終了日時には基準日時属性以外に、次の項目を設定できます。

- ・[補正] [期間]
 基準日時を設定した期間だけ加算または減算します。
 ・[補正] [日時]
- 基準日時を設定した日時にします。
- ・[境界値] [終了日時を含める]または [終了日時を含めない]を選択します。
- 23.[スタンプルール] タブをクリックします。

[クラスの追加] 画面- [スタンプルール] タブのページが表示されます。

7ラスの追加						×	
全般 ユーザー属性	属性制約 状態定	義 状態遷移定義	保存期間 スタンプノ	1-11			Į.
スタンプルール:							
カテゴリ	サブカテゴリ	表示名	名前	ID	說明	追加	ł
						育明余	ł
						上へ	ł
						下へ	ł
						インポート	ł
						エクスポート	ł
							_

図:[クラスの追加] 画面- [スタンプルール] タブのページ

24.操作に応じて、次の操作を行います。

◆ スタンプルールを追加する

(1)[追加]をクリックします。

[スタンプルール定義の指定] 画面が表示されます。

- (2) [カテゴリ] プルダウンメニューで検索するカテゴリーを選択します。
- (3) [サブカテゴリ] プルダウンメニューで検索するサブカテゴリーを選択します。
- (4) [名前] を入力します。 名前は最大 64 バイト入力できます。
- (5) [検索範囲] を入力します。
- (6) [検索] をクリックします。 検索されたスタンプルールが一覧に表示されます。
- (7) 追加するスタンプルールを選択し、[OK] をクリックします。
 - [クラスの追加] 画面- [スタンプルール] タブのページが表示されます。 スタンプルール一覧に設定したスタンプルールが表示されます。

- (8) 手順 25 に進みます。
- ◆ スタンプルールを削除する
- (1) [クラスの追加] 画面- [スタンプルール] タブのページのスタンプルール一覧から、削除するスタンプ ルールを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したスタンプルールが削除されます。
- (3) 手順 25 に進みます。
- ◆ スタンプルールの順序を入れ替える
- (1) [クラスの追加] 画面- [スタンプルール] タブのページのスタンプルール一覧から、入れ替えるスタン プルールを選択します。
- (2) [上へ] または「下へ」ボタンをクリックします。 選択したスタンプルールが入れ替わります。
- (3) 手順 25 に進みます。
- ◆ スタンプルールをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル) の例を次に示します。

"stampRuleName" applicationform_applicant applicationform_acknowledger

> 参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [クラスの追加] 画面 [スタンプルール] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するスタンプルールの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているスタンプルールが読み込まれます。

- (5) 手順 <u>25</u> に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ スタンプルールをファイルに保存する(エクスポート)

- (1) [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するスタンプルールの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定されているスタンプルールが、設定ファイルとして保存されます。
- (5) 手順 <u>25</u> に進みます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

25.[OK] をクリックします。

[クラスの設定] 画面に戻ります。

26.[クラスの設定] 画面で、[OK] をクリックします。

[クラス設定の実行] 画面が表示され、クラスの設定が開始されます。 すべての設定が完了したら、[閉じる] をクリックします。

7 ドロワーの設定

ドロワーの設定を行う手順を説明します。

7.1 ドロワーとは

ドロワーとは、オブジェクト階層の中でキャビネットの下に位置するオブジェクトです。

書類整理棚の「引き出し」と考えることができます。1つのキャビネットの中に、複数のドロワーを置くことができます。



図:ドロワーとキャビネットの関係

ドロワーは、ドキュメントの内容(コンテント)そのものを保存する、物理的なメディアを管理するためのオブ ジェクトです。ドキュメント管理サービス内部では、通常、1つのドロワーがハードディスクの1つのディレクト リーに対応しています。

このディレクトリーのことをストレージと呼び、ディレクトリーのOSファイルシステムのパス名のことをスト レージパスと呼びます。

また、ストレージにはリモートファイルシステムのディレクトリーを使用できます。

管理アプリケーション デスクトップ版では、次の操作ができます。

- ・<u>ドロワーの作成</u>
- ・<u>ドロワーの削除</u>
- ・<u>ドロワー情報の確認</u>
- ・<u>ドロワー名の変更</u>
- ・<u>注釈の設定</u>
- ・<u>ストレージパスの変更</u>
- ・<u>アクセス権の設定</u>
 - 注記 ドロワーは、1つのキャビネットの中に複数作成できます。ただし、次に示すような状況がみられるため、 キャビネットに含まれるドロワーの個数を可能な限り減らし、フォルダーで階層を管理することをおすすめ します。
 - ・ハードディスクの容量が飛躍的に増えている
 - ·OSとボリューム管理ソフトウェアの機能向上によるパーティションの大きさの制限が減ってきている
 - ・ドロワー間での移動処理では、処理コストが比較的高い

7.2 [ドロワーの作成] 画面について

[ドロワーの作成] 画面を表示する操作、および [ドロワーの作成] 画面の構成について説明します。

7.2.1 [ドロワーの作成] 画面を表示する

[ドロワーの作成] 画面を表示する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [ドロワーの作成] を選択します。 [ドロワーの作成] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。

ロワーの作成			×	
全般 アクセス権 デフォルトア	りセス権			
Kn⊓-2.		_		
ストレージパス:				
注釈				
			han tau	
		 OK	+9701	

7.2.2 [ドロワーの作成] 画面の構成

[ドロワーの作成] 画面では、ドロワーを作成できます。

ドロワーの作成	×
全般 アクセス権 デフォルトアクセス権	
ドロワー名:	
ストレージパス:	
注釈:	
	OK キャンセル

図:[ドロワーの作成] 画面

[ドロワーの作成] 画面には、選択したタブに応じて次のページが表示されます。

- ・[ドロワーの作成] 画面- [全般] タブのページ
- ・[ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページ
- ・[ドロワーの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページ
 - 補足 ワークスペース用ドロワーを作成する場合、[ドロワーの作成] 画面 [エディションキー] タブのページ は、表示されません。

[ドロワーの作成] 画面の共通項目について説明します。

項目	説明
[OK]	クリックすると、入力した設定でドロワーが作成され、[ドロワーの作成] 画面 - [全般] タブのページが表示されます。

7.2.3 [ドロワーの作成] 画面- [全般] タブのページの構成

[ドロワーの作成] 画面- [全般] タブのページでは、作成するドロワーのドロワー名などを設定できます。

ドロワーの作成	×
全般 アクセス権 デフォルトアクセス権	
ドロワー名:	
ストレージパス:	
注釈:	
	OK キャンセル

図:[ドロワーの作成] 画面- [全般] タブのページ

[ドロワーの作成] 画面- [全般] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[ドロワー名] 入力 フィールド	作成するドロワーの名前を、384バイト以内で入力します。
[ストレージパス] 入力 フィールド	必須の入力項目です。 作成するドロワーが指定するストレージパスを入力します。 設定できる値は、英数字と記号だけです。 設定できる文字列の長さは、1~165バイトの範囲です。 絶対パスで指定します。
[注釈] 入力フィールド	ドロワーに付加する注釈を、512バイト以内で入力します。

7.2.4 [ドロワーの作成] 画面 – [アクセス権] タブのページの構成

[ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページでは、作成するドロワーのアクセス権を設定できます。

ドロワーの作成			×
全般 アクセス権 デフォル	トアクセス権		
アクセス権:			
	DN	権限	追加
全てのユーザーロール	everyone	属性取得権 エン りー追…	編集
			肖耶余
			インポート
			エカフポート
			T5200 L
]
		01	(キャンセル

図:[ドロワーの作成] 画面 — [アクセス権] タブのページ

[ドロワーの作成]画面- [アクセス権] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[アクセス権] 表示エリ	ドロワーに設定する「アクセス権」のメニューが表示されます。
<i>7</i>	注記 表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表示されます。
	補足 初期設定は、キャビネットに設定されたアクセス権のうち、ドロワーに設定できるアクセス権が設定された状態です。
[追加]	クリックすると、[アクセス権の指定] 画面が表示されます。追加するロールと 権限を指定してを追加します。
[編集]	[アクセス権] 表示エリアに表示されているを選択して、[編集] をクリックす ると、[アクセス権の編集] 画面が表示されます。 アクセス権が1つも設定されていない場合、[編集] は無効になります。
[削除]	[アクセス権] 表示エリアに表示されているを選択して、[削除] をクリックす ると、選択したアクセス権が削除されます。 が1つも設定されていない場合、[削除] は無効になります。
[インポート]	アクセス権をファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれたアクセス 権は、[アクセス権]表示エリアに表示されます。
[エクスポート]	アクセス権をファイルに保存します。 アクセス権が1つも設定されていない場合、[エクスポート] は無効になりま す。

7.2.5 [ドロワーの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブの ページの構成

[ドロワーの作成] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページでは、作成するドロワーのデフォルトアク セス権を設定できます。

ドロワーの作成			×
全般 アクセス権 デフォル	トアクセス権		
デフォルトアクセス 権 :			
0-1L	DN	権限	追加
全てのユーザーロール	everyone	属性取得権 属性設定権…	編集
			肖北余
			インポート
			エクスポート
		OK	キャンカル

図:[ドロワーの作成] 画面 --- [デフォルトアクセス権] タブのページ

[ドロワーの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[デフォルトアクセス権]	ドロワーに設定する「デフォルトアクセス権」のメニューが表示されます。
表示エリア	注記 表示幅が狭いために、文字列や値などが隠れてしまうことがあります。その場合、該当カラムをダブルクリックすると、文字列や値が別ウィンドウに表示されます。
[追加]	クリックすると、[アクセス権の指定]画面が表示されます。追加するロールと 権限を指定してデフォルトアクセス権を追加します。
[編集]	[デフォルトアクセス権]表示エリアに表示されている属性を選択して、[編集] をクリックすると、[アクセス権の編集] 画面が表示されます。 デフォルトアクセス権が1つも設定されていない場合、[編集] は無効になりま
	र ु
[削除]	[デフォルトアクセス権]表示エリアに表示されているデフォルトアクセス権を 選択して、[削除]をクリックすると、選択したデフォルトアクセス権が削除さ れます。
	デフォルトアクセス権が1つも設定されていない場合、[削除] は無効になりま す。
[インポート]	デフォルトアクセス権をファイルから読み込みます。ファイルから読み込まれ たデフォルトアクセス権は、[デフォルトアクセス権]表示エリアに表示されま す。
[エクスポート]	デフォルトアクセス権をファイルに保存します。 デフォルトアクセス権が1つも設定されていない場合、[エクスポート] は無効 になります。

7.3 ドロワーの作成

ドロワーの作成手順を説明します。

ドロワーを作成できるのは、サービス管理者および操作対象のキャビネットのキャビネット管理者だけです。

1. [ドロワーの作成] 画面- [全般] タブのページで、次の項目を入力します。

- ・ドロワー名 作成するドロワーの名前を、384 バイト以内で入力します。
 ・ストレージパス(必須入力) 作成するドロワーが指定するストレージとして、このフォルダーを指定します。 ストレージパスは、絶対パス(英数字と記号だけ)で入力します。 入力できる文字列の長さは、1~165 バイトの範囲です。 存在しないパスを指定した場合は自動でフォルダーが作成されます。 クラスター構成では、クラスター構成内のすべてのドキュメント管理サーバーでストレージを共有す る必要があります。
 - 参照 クラスター構成でのストレージの共有の詳細については、『セットアップガイド』を参照してください。

・注釈

ドロワーに付加する注釈を、0~512バイトの範囲で入力します。

ドロワーの作成	×
全般 アクセス権 デフォルトアクセス権	
ドロワー名:	
ストレージパス:	
注釈:	

図:[ドロワーの作成] 画面- [全般] タブのページ

2. [アクセス権] タブをクリックします。

[ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページが表示されます。

ドロワー	の作成			×
全般	アクセス権 デフォルトフ	ックセス権		
アクセ	2ス権:			
0-)	ŀ	DN	権限	追加
全て	のユーザーロール	everyone	属性取得権 エンドリー追	編集
				削除
				インポート
				エクスポート

図:[ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページ

補足
 ページを開いたときに最初に表示される設定は、作成先のキャビネットのデフォルトのうち、ドロ
 ワーに設定可能な権限だけです。
 ドロワーに設定できない権限は表示されません。

ドロノーに設定できない権限は衣小されよせ

3. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ アクセス権を追加する

- (1) [ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。

- (3)検索対象とする [種別] のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (4) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (5) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (6) アクセス権を設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が表示されます。
- (8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (9) [OK] をクリックします。 [ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページが表示されます。 アクセス権一覧に選択したアクセス権が表示されます。
- (10)手順4に進みます。

◆ アクセス権を編集する

- (1) [ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページの一覧から、編集するアクセス権を選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [アクセス権の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。 [ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページが表示されます。 一覧に選択したアクセス権が表示されます。
- (5) 手順<u>4</u>に進みます。

◆ アクセス権を削除する

- (1) [ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページの一覧から、削除するアクセス権を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したアクセス権が削除されます。
- (3) 手順<u>4</u>に進みます。
- ◆ アクセス権をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"userRole","privilege" Everyone,"getAttribute" Others,"getAttribute" {ユーザーロールA},"getAttribute|addChild" {ユーザーロールB},"getAttribute|addChild|removeChild"

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [ドロワーの作成] 画面 [アクセス権] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定ファイルに記述されているアクセス権が読み込まれます。

(5) 手順4に進みます。

- 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ アクセス権をファイルに保存する (エクスポート)

- (1) [ドロワーの作成] 画面- [アクセス権] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているアクセス権が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順<u>4</u>に進みます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

4. [デフォルトアクセス権] タブをクリックします。

[ドロワーの作成]画面- [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。

ł	「ロワーの作成			×	
	全般 アクセス権 デフォルトフ	クセス権			
	デフォルトアクセス権:				
	0-µ	DN	権限	追加	
	全てのユーザーロール	everyone	属性取得権 属性設定権…	編集	
				肖明除	
				インポート	
				エクスポート	

図:[ドロワーの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページ

5. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ デフォルトアクセス権を追加する

- (1) [ドロワーの作成] 画面 [デフォルトアクセス権] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (3)検索対象とする [種別] のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (4) [キーワード] にを設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (5) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (6) デフォルトアクセス権を設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。
 [の指定] 画面が表示されます。
 権限一覧には、[ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が表示されます。
- (8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (9) [OK] をクリックします。

[ドロワーの作成]画面- [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。 デフォルトアクセス権一覧に選択したデフォルトアクセス権が表示されます。 (10)手順6に進みます。

◆ デフォルトアクセス権を編集する

ロールに付加されているデフォルトアクセス権の設定を変更します。

- (1) [ドロワーの作成] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページのデフォルトアクセス権一覧から、編 集するデフォルトアクセス権を選択します。
- (2) [編集] をクリックします。 [アクセス権の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。

[ドロワーの作成] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。デフォルトアクセス 権一覧に選択したデフォルトアクセス権が表示されます。

- (5) 手順 <u>6</u> に進みます。
- ◆ デフォルトアクセス権を削除する
- (1) [ドロワーの作成] 画面 [デフォルトアクセス権] タブのページのデフォルトアクセス権一覧から、削除するデフォルトアクセス権を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したデフォルトアクセス権が削除されます。
- (3) 手順 6 に進みます。
- ◆ デフォルトアクセス権をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"userRole","privilege" Everyone,"getAttribute" Others,"getAttribute" {ユーザーロール A},"getAttribute|addChild|removeChild" {ユーザーロール B},"getAttribute"

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u>を参照してください。

- (1) [ドロワーの作成] 画面 [デフォルトアクセス権] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するデフォルトアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているデフォルトアクセス権が読み込まれます。

- (5) 手順 6 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1 行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
- ◆ デフォルトアクセス権をファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [ドロワーの作成] 画面 [デフォルトアクセス権] タブのページの [エクスポート] をクリックします。
 - [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するデフォルトアクセス権の設定ファイル名を選択します。

- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているデフォルトアクセス権が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順 6 に進みます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

6. [OK] をクリックします。

指定した条件で、ドロワーが作成され、ドロワー作成が成功したことを示す画面が表示されます。

7. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、またはインポートで設定した内容は、[OK]をクリックしたときに反映されます。

注記 何らかの原因で管理サーバー側の処理が中断されると、その時点までに作成されたストレージ用のディレク トリーは、削除されません。

7.4 ドロワーの削除

ドロワーを削除する手順を説明します。

ドロワーを削除できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者だけです。キャビ ネットがメンテナンスモードの場合だけ、ドロワーを削除できます。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーに一覧されるキャビネットから、キャビネットを 選択します。
- 3. 右側のテーブルに一覧されるドロワーから、操作対象のドロワーを選択します。
- **4.** メニューバーの [ドロワー操作] > [ドロワーの削除] を選択します。 [ドロワーの削除] 画面が表示されます。



図:[ドロワーの削除] 画面

- 5. ドロワーを強制的に削除する場合は、[ドロワーを強制的に削除する。] にチェックマークを付けます。
- **6.** [はい] をクリックします。 ドロワーが削除され、処理結果を確認する画面が表示されます。
- **7.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

- 注記 ・ストレージ領域に格納されているコンテントのファイルは、別途削除する必要があります。 ・同じキャビネット内のドロワー間でオブジェクトの移動処理が完了していないドロワーを削除する場合、
 - 削除時に移動処理が行われるため、処理時間が長くなります。

7.5 ドロワー情報の確認

ドロワーの情報を確認する手順を説明します。

- ドロワーの情報を確認できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者だけです。
 - [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
 - 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーに一覧されるキャビネットから、キャビネットを 選択します。
 - 3. 右側のテーブルに一覧されるドロワーから、操作対象のドロワーを選択します。
 - **4.** メニューバーの [ドロワー操作] > [ドロワー情報の表示] を選択します。 [ドロワー情報の表示] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
 - 5. 次に示すページのドロワー情報を確認します。
 - ・[ドロワー情報の表示] 画面 [全般] タブのページ
 - ・[ドロワー情報の表示] 画面- [アクセス権] タブのページ
 - ・[ドロワー情報の表示]画面- [デフォルトアクセス権] タブのページ
 - **6.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション]の[サービス]タブのページに戻ります。

7.6 ドロワー名の変更

ドロワー名を変更する手順を説明します。

ドロワーの名前を変更できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーに一覧されるキャビネットから、キャビネットを 選択します。
- 3. 右側のテーブルに一覧されるドロワーから、操作対象のドロワーを選択します。
- **4.** メニューバーの [ドロワー操作] > [ドロワー名の変更] を選択します。 [ドロワー名の変更] 画面が表示されます。

ドロワー名の	ドロワー名の変更 X			
í	ドロワー名を入力してください。 Drawer 1			
	OK キャンセル			

図:[ドロワー名の変更] 画面

- 5. 変更するドロワーの名前を、384 バイト以内で入力します。
- **6.** [OK] をクリックします。

ドロワー名が変更され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

7.7 注釈の設定

ドロワーに注釈を設定する手順を説明します。

補足新たな注釈を設定できるのは、ドロワーの所属するキャビネットの管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーに一覧されるキャビネットから、キャビネットを 選択します。
- 3. 右側のテーブルに一覧されるドロワーから、操作対象のドロワーを選択します。
- **4.** メニューバーの [ドロワー操作] > [ドロワー注釈の設定] を選択します。 [ドロワー注釈の設定] 画面が表示されます。

ドロワー注釈の設定	\times
 注釈を入力してください。 I OK キャンセル]

図:[ドロワー注釈の設定] 画面

- 5. 注釈を0~512 バイトの範囲で選択します。
- **6.** [OK] をクリックします。

注釈が設定され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

7.8 ストレージパスの変更

ドロワーのストレージパスを変更する手順を説明します。

ドロワーのストレージパスを変更できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者 だけです。キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、ストレージパスを変更できます。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーに一覧されるキャビネットから、キャビネットを 選択します。
- 3. 右側のテーブルに一覧されるドロワーから、操作対象のドロワーを選択します。
- **4.** メニューバーの [ドロワー操作] > [ストレージパスの変更] を選択します。 [ストレージパスの変更] 画面が表示されます。

 ストレージパスを入力してください。 C+ジョンジェンジョン・C+ジョン・C+ジョン・C+ジョン・C・ション・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ストレージ	パスの変更	×
	i	ストレージパスを入力してください。 C:¥ ¥Service¥data¥Repository¥storage¥DEFAULT_CAB¥De OK キャンセル	ſa

図:[ストレージパスの変更] 画面

- **5.** 新しいストレージパスを入力します。絶対パス(英数字と記号だけ)で入力します。 入力できる文字列の長さは、1~165 バイトの範囲です。
- **6.** [OK] をクリックします。 ドロワーのストレージパスが変更され、処理結果を確認する画面が表示されます。
- **7.** [OK] をクリックします。 [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

7.9 アクセス権の設定

ドロワーのアクセス権を設定する手順を説明します。

ドロワーのアクセス権を設定できるのは、サービス管理者および操作対象のキャビネットのキャビネット管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーに一覧されるキャビネットから、キャビネットを 選択します。
- 3. 右側のテーブルに一覧されるドロワーから、操作対象のドロワーを選択します。
- **4.** メニューバーの [ドロワー操作] > [アクセス権の設定] を選択します。 [アクセス権の設定] 画面 – [アクセス権] タブのページが表示されます。

F	アクセス権の設定			×
1	アクセス権 デフォルトアクセス	権		
アクセス権:				
	ロール	DN	権限	追加
	全てのユーザーロール	everyone	属性取得権 エンドリー追…	編集
				削除
				インポート
				エクスポート

図:[アクセス権の設定]画面-[アクセス権] タブのページ

- 5. 操作に応じて、次の手順に進みます。
- ◆ アクセス権を追加する
- (1) [アクセス権の設定] 画面- [アクセス権] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照]をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (3) 検索対象とする [種別] のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (4) [キーワード] にアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力します。
- (5) [検索] をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (6) アクセス権を設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。 権限一覧には、「ロールの選択] 画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が表示されます。
- (8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (9) [OK] をクリックします。

[アクセス権の設定]画面-[アクセス権]タブのページが表示されます。 アクセス権一覧に選択したアクセス権が表示されます。

(10)手順<u>6</u>に進みます。

◆ アクセス権を編集する

ロールに付加されているアクセス権の設定を変更します。

- (1) [アクセス権の設定] 画面- [アクセス権] タブのページの一覧から、編集するアクセス権を選択しま す。
- (2) [編集] をクリックします。 [アクセス権の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。 [アクセス権の設定] 画面 – [アクセス権] タブのページが表示されます。 アクセス権一覧に選択したアクセス権が表示されます。
- (5) 手順 6 に進みます。
- ◆ アクセス権を削除する
- (1) [アクセス権の設定] 画面 [アクセス権] タブのページの一覧から、削除するアクセス権を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したアクセス権が削除されます。
- (3) 手順 <u>6</u> に進みます。
- ◆ アクセス権をファイルから読み込む(インポート)
 - ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"userRole","privilege"
Everyone,"getAttribute"
Others,"getAttribute"
{ユーザーロール A} ,"getAttribute|addChild"
{ユーザーロール B} ,"getAttribute|addChild|removeChild"
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [アクセス権の設定] 画面 [アクセス権] タブのページの [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。 設定ファイルに記述されているアクセス権が読み込まれます。
- (5) 手順 6 に進みます。
 - 補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。
 - ・ファイルは、1行ずつ読み込まれます。
 - ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
 - ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。
- ◆ アクセス権をファイルに保存する(エクスポート)
- (1) [アクセス権の設定] 画面 [アクセス権] タブのページの [エクスポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2)保存するアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているアクセス権が、設定ファイルとして保存されます。
(5) 手順6に進みます。

補足
ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持さ れる情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

6. [デフォルトアクセス権] タブをクリックします。

[アクセス権の設定] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。

アクセス権の設定			×
アクセス権 デフォルトアクセ	江権		
デフォルトアクセス 権 :			
0- <i>I</i> V	DN	権限	追加
全てのユーザーロール	everyone	属性取得権 属性設定権…	編集
			肖山除余
			インポート
			エクスポート

図:[アクセス権の設定]画面-[デフォルトアクセス権] タブのページ

7. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ デフォルトアクセス権を追加する

- (1) [アクセス権の設定] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページの [追加] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。
- (2) [ロールの参照] をクリックします。 [ロールの選択] 画面が表示されます。
- (3) 検索対象とする「種別」のチェックボックスにチェックマークを付けます。複数選択できます。
- (4) [キーワード] にデフォルトアクセス権を設定するロール名の UID 属性、または CN 属性の一部を入力 します。
- (5) 「検索」をクリックします。 画面下部の一覧に [キーワード] で抽出されたロール名が表示されます。
- (6) デフォルトアクセス権を設定するロール名を選択します。
- (7) [OK] をクリックします。 [アクセス権の指定] 画面が表示されます。 権限一覧には、[ロールの選択]画面で選択したロールに定義されている権限の一覧が表示されます。
- (8) 設定する権限の左側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (9) [OK] をクリックします。

[アクセス権の設定] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。 デフォルトアクセス権一覧に選択したデフォルトアクセス権が表示されます。

(10) 手順8に進みます。

◆ デフォルトアクセス権を編集する

ロールに付加されているデフォルトアクセス権の設定を変更します。

- (1) [アクセス権の設定] 画面- 「デフォルトアクセス権] タブのページのデフォルトアクセス権一覧から、 編集するデフォルトアクセス権を選択します。
- (2)[編集]をクリックします。 [アクセス権の編集] 画面が表示されます。
- (3) 設定する権限の方側に表示されているチェックボックスに、チェックマークを付けます。
- (4) [OK] をクリックします。

[アクセス権の設定] 画面- [デフォルトアクセス権] タブのページが表示されます。 デフォルトアクセス権一覧に選択したデフォルトが表示されます。

(5) 手順8に進みます。

- ◆ デフォルトアクセス権を削除する
- (1) [アクセス権の設定] 画面 [デフォルトアクセス権] タブのページのデフォルトアクセス権一覧から、 削除するデフォルトアクセス権を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したデフォルトアクセス権が削除されます。
- (3) 手順8 に進みます。
- ◆ デフォルトアクセス権をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

```
"userRole","privilege"
Everyone,"getAttribute"
Others,"getAttribute"
{ユーザーロール A},"getAttribute|addChild|removeChild"
{ユーザーロール B},"getAttribute"
```

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

(1) [アクセス権の設定] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページの [インポート] をクリックします。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2) 追加するデフォルトアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているデフォルトアクセス権が読み込まれます。

(5) 手順8 に進みます。

補足・インポートで読み込まれた設定項目は、現在の設定に追加されます。

- ・ファイルは、1 行ずつ読み込まれます。
- ・すでに表示されている設定項目が読み込まれた場合はメッセージが表示され、その項目はスキップされます。
- ・インポートファイルの記述が正しくない場合は、エラーになります。

◆ デフォルトアクセス権をファイルに保存する(エクスポート)

(1) [アクセス権の設定] 画面 – [デフォルトアクセス権] タブのページの [エクスポート] をクリックしま す。

[ファイルの選択] 画面が表示されます。

- (2)保存するデフォルトアクセス権の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定されているデフォルトアクセス権が、設定ファイルとして保存されます。

(5) 手順<u>8</u>に進みます。

補足 ファイルに出力した順序が、画面に表示されている順序とは異なることがあります。内部的に保持される情報に表示順序の情報が含まれていないためです。

8. [OK] をクリックします。

アクセス権、およびデフォルトアクセス権が変更され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

補足 追加、編集、削除、またはインポートで設定した内容は、[OK] をクリックしたときに反映されます。



操作ログのサービス設定を行う手順を説明します。

8.1 操作ログとは

操作ログとは、ドキュメント管理サービスのオブジェクトに対する操作の履歴です。

アカウントログよりも詳細な情報を記録できます。また、ドキュメントスペースからの操作の情報なども記録され ます。

管理アプリケーション デスクトップ版では、次の操作を行えます。

- ・<u>操作ログ情報の確認</u>
- ・<u>操作ログのエクスポート</u>
- ・<u>操作ログの削除</u>
- ・操作ログのサービス設定の確認
- ・操作ログのサービス設定の初期化
- ・操作ログのサービス設定の解除

参照操作ログの詳細については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』をご覧ください。

8.2 操作ログの設定の流れ

操作ログの設定の流れについて説明します。



8.3 操作ログ情報の確認

操作ログの情報を確認する手順を説明します。 操作ログの情報を確認できるのは、サービス管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [操作ログ] > [操作ログの情報表示] を選択します。 [操作ログの情報表示] 画面が表示されます。
- 3. 操作ログ情報を確認します。
 - ・ [キャビネット ID] 操作ログが記録されているキャビネット ID が表示されます。
 - ・[記録件数] 該当するキャビネットで記録されている操作ログの件数が表示されます。
- **4.** 操作ログの詳細情報を確認する場合は、確認する操作ログ情報を選択して[詳細]をクリックします。 [操作ログの詳細情報表示] 画面が表示されます。
- 5. 操作ログの詳細情報を確認します。
 - ・[キャビネット ID] 操作ログが記録されているキャビネット ID が表示されます。
 - ・[記録件数] 該当するキャビネットで記録されている操作ログの件数が表示されます。
 - ・[エクスポート済件数] 該当するキャビネットで記録されている操作ログのうち、エクスポート済みであるログの件数が表示 されます。
 - ・[最古エクスポート済ログ記録日] 該当するキャビネットで記録されている操作ログのうち、エクスポート済みで最も古いログの日付が 表示されます。 エクスポート済件数が0の場合は、空欄になります。
 - ・[最新エクスポート済ログ記録日]
 該当するキャビネットで記録されている操作ログのうち、エクスポート済みで最も新しいログの日付が表示されます。
 エクスポート済件数が0の場合は、空欄になります。
 - ・[未エクスポート件数] 該当するキャビネットで記録されている操作ログのうち、未エクスポートであるログの件数が表示されます。
 - ・[最古未エクスポートログ記録日]
 該当するキャビネットで記録されている操作ログのうち、未エクスポートで最も古いログの日付が表示されます。
 未エクスポート件数が0の場合は、空欄になります。
 - ・[最新未エクスポートログ記録日] 該当するキャビネットで記録されている操作ログのうち、未エクスポートで最も新しいログの日付が 表示されます。 未エクスポート件数が0の場合は、空欄になります。
 - 注記 データベース表領域やデータファイルのサイズが1TBを超えると、数値溢れのため、結果が正しく表示され ないことがあります。

8.4 操作ログのエクスポート

操作ログをエクスポートする手順を説明します。

操作ログをエクスポートできるのは、サービス管理者だけです。

補 足 操作ログのサービス設定が初期化されていない場合は、操作ログのサービス設定を初期化する必要があります。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [操作ログ] > [操作ログのエクスポート] を選択します。 [操作ログのエクスポート] 画面が表示されます。

操作ログのエクスポート X
対象範囲
● <u>サービス全(</u> 本)
○ キャビネット 🗸
エクスポードID:
開始日: 2 ~ 0 ~ / 1 ~ / 0 ~ 1 ~
終了日: 2 ~ 0 ~ / 12 ~ / 1 ~ 7 ~
エクスポートファイル: C#ArcSuite¥dummy¥¥20200101_20201217,xxx.csv
OK キャンセル

図:[操作ログのエクスポート] 画面

- 3. エクスポートする操作ログの対象範囲を、ラジオボタンから選択します。
 - 補足 [キャビネット] を選択した場合は、プルダウンメニューから、エクスポート対象のキャビネットを選択します。
- 4. [エクスポート ID] に、エクスポート操作の識別子を入力します。
 - 補足
 ・ [エクスポート ID] に指定したディレクトリーがすでに存在し、中身が空でない場合は、エラーになります。
 ・ 英数字、「 (アンダースコア)) で 64 バイト以内の値を指定します。
- 5. [開始日]、[終了日] プルダウンメニューで、エクスポートする操作ログの記録期間を設定します。
- 6. [エクスポートファイル] で、エクスポートされるファイルのファイル名、保存先などを確認します。
- **7.** [OK] をクリックします。 操作ログのエクスポートを確認する画面が表示されます。
- **8.** [はい] をクリックします。 エクスポートが開始され、終了すると、エクスポート結果の確認画面が表示されます。

9. [OK] をクリックします。 エクスポート結果の確認画面が閉じます。

注記
エクスポート結果ファイルにある属性は、内部処理で定められた順序で出力されます。

参照 操作ログのサービス設定を初期化する手順は、<u>「8.7 操作ログのサービス設定の初期化」(P.192)</u>を参照してください。

8.5 操作ログの削除

操作ログを削除する手順を説明します。

操作ログを削除できるのは、サービス管理者だけです。

注記このメニューは、[操作ログの削除]メニューが表示できる設定になっている場合に表示されます。

補 足 操作ログのサービス設定が初期化されていない場合は、操作ログのサービス設定を初期化する必要があります。

- 参照 ・操作ログのサービス設定を初期化する手順は、<u>[8.7 操作ログのサービス設定の初期化](P.192)</u>を参照 してください。
 - ・[操作ログの削除] メニューの表示または非表示の設定については、「付録 B [操作ログの削除] メニュー の非表示設定|(P.286) を参照してください。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- 2. メニューバーの [サービス操作] > [操作ログ] > [操作ログの削除] を選択します。

[操作ログの削除] 画面が表示されます。

操作ログの削除		×
─────────────────────────────────────		
 ● 型 	ービス全体	
0*	ャビネット 〜	
開始日:	2 ~ 0 ~ / 1 ~ / 0 ~ 1 ~	
終了日:	2 ~ 0 ~ / 12 ~ / 1 ~ 7 ~	
	0K ++>>t	μ

図:[操作ログの削除] 画面

3. 削除する操作ログの対象範囲を、ラジオボタンから選択します。

補足 [キャビネット]を選択した場合は、プルダウンメニューから、対象キャビネットを選択します。

- **4.** [開始日]、[終了日] プルダウンメニューで、削除する操作ログの記録期間を設定します。 補足 プルダウンメニューの数値は、[YY/MM/DD](年/月/日)の順序です。
- **5.** [OK] をクリックします。

操作ログの削除を確認する画面が表示されます。

操作ログの	D削除 ×	<
(\mathbf{i})	指定された操作ログを削除しますか? □ 未エクスポートのログがあっても強制的に削除する。	
	はい いいえ	

図:[操作ログの削除] 画面

- **6.** エクスポートされていない操作ログも強制的に削除する場合は、[未エクスポートのログがあっても強制 的に削除する。] にチェックマークを付けます。
 - 注記 ・エクスポートしていない操作ログがある場合、このチェックボックスにチェックマークを付けないと エラーになります。
 - 「未エクスポートのログがあっても強制的に削除する」にチェックマークを付けた場合、エクスポートファイルに記録されていないログも削除されるため、操作ログが不要になったときだけ、このチェックボックスにチェックマークを付けてください。

- **7.** [はい] をクリックします。 操作ログが削除され、確認画面が表示されます。
- **8.** [OK] をクリックします。 確認画面が閉じます。

操作ログのサービス設定の確認 8.6

サービス全体の操作ログの設定情報を確認する手順を説明します。

操作ログの設定情報を確認できるのは、サービス管理者だけです。



補足 操作ログのサービス設定が初期化されていない場合は、操作ログのサービス設定を初期化する必要がありま す。

参照 操作ログのサービス設定を初期化する手順は、<u>[8.7 操作ログのサービス設定の初期化](P.192)</u>を参照し てください。

- 1. [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示]エリアから [サービス]を選択します。
- 2. メニューバーの [サービス操作] > [操作ログ] > [サービス設定の表示] を選択します。 [操作ログのサービス設定の表示] 画面が表示されます。

	2000		379		
2000	4000	379		18	C:¥DATABASE¥
2000	1000	010		10	orbinibilite
	мв) 2000	MB) 最大サイズ(MB) 2000 4000	MB) 最大サイズ(MB) 使用量(MB) 2000 4000 379	MB) 最大サイズ(MB) 使用量(MB) 使用率(% 2000 4000 379	MB) 最大サイズ(MB) 使用量(MB) 使用率(%) 2000 4000 379 18

図:[操作ログのサービス設定の表示] 画面

3. 表領域情報を確認します。

- ・[表領域名] 表領域名が表示されます。
- ・[サイズ (MB)] 表領域のサイズが MB 単位で表示されます。
- ・[使用量 (MB)] 表領域の使用量が MB 単位で表示されます。
- .[使用率(%)] 表領域の使用率が%単位で表示されます。
- 4. データファイル情報を確認します。
 - ・[データファイル名] データファイル名が表示されます。
 - ・[サイズ (MB)] データファイルのサイズが MB 単位で表示されます。
 - ・[最大サイズ (MB)] データファイルの最大サイズが MB 単位で表示されます。
 - 「使用量 (MB)] データファイルの使用量が MB 単位で表示されます。
 - · [使用率(%)] データファイルの使用率が%単位で表示されます。
 - ・[ディレクトリ] データファイルの格納されているディレクトリーパスが表示されます。

5. [エクスポートディレクトリパス] で、操作ログのエクスポート時の保存先を確認します。

8.7 操作ログのサービス設定の初期化

操作ログのサービス設定を初期化する手順を説明します。

サービス全体の操作ログの設定情報を確認できるのは、サービス管理者だけです。

- サービスがメンテナンスモードの場合だけ、サービス設定を初期化できます。
 - **1.** [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 - **2.** メニューバーの [サービス操作] > [操作ログ] > [サービス設定の初期化] を選択します。 [操作ログのサービス設定の初期化] 画面が表示されます。

操作ログのサービス設定の初期化	×
─表領域────	
表領域名:	
表領域サイズ:	GB
データファイルパス:	
エクスポートディレクトリパス:	
	OK キャンセル

図:[操作ログのサービス設定の初期化] 画面

- 3. [表領域名] に、操作ログを記録するための表領域名を入力します。
 - 補足・必須の入力項目です。
 - ・先頭の文字は英字を指定する必要があります。
 - ・2 文字め以降は英数字またはアンダースコア(_)の文字列を指定できます。
 - ・文字列の長さの最大値は30バイトです。
 - ・"SYS_"ではじまる文字列、およびデータベースの予約語になっている文字列は指定できません。
 - ・英小文字で設定しても、大文字化されて作成されます。たとえば、abcと指定しても作成される表 領域は ABC になります。
 - データベースの予約語については、次の URL で確認してください。
 https://docs.oracle.com/cd/F19136_01/sqlrf/Oracle-SQL-Reserved-Words.html#GUID-55C49D1E-BE08-4C50-A9DD-8593EB925612
 URL は、2021 年 4 月現在のものです。
- 4. [表領域サイズ] に、操作ログを記録するための表領域のサイズを入力します。

注記
ログの記録に失敗するとサービスが停止してしまうため運用にあった大きさを指定してください。

- 補足・必須の入力項目です。
 - ・1~32 までの数値を指定できます。なお、1GB は 1000MB とみなされます。
- 5. [データファイルパス] に、作成する表領域に対応するデータファイルパスを指定します。

補足 入力を省略すると「 (表領域名) .dbf」を指定したものとみなされます。
 相対パスはデフォルトのデータファイル配置先(サービス用表領域のデータファイルが格納されているディレクトリー)を基準とします。

6. [エクスポートディレクトリパス] に、操作ログデータのエクスポート先のディレクトリーパスを絶対パスの形式で指定します。 この項目は必ず入力してください。

補足指定されたパスにディレクトリーが存在しなければ自動的に作成されます。

7. [OK] をクリックします。 正常終了した場合は、初期化完了の確認画面が表示されます。 **8.** [OK] をクリックします。

確認画面が閉じます。

- 注記
 ・作成した表領域は、次のオプションで構成されます。
 自動拡張モードは設定するが、作成時に指定したサイズの倍までしか拡張は行わない
 EXTENT の最大数は無制限(サイズの制限は超えられません)
 ロギングは、「有効」
 - REUSE は、「無効」
 - ・ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版では、データベース表領域の作成と削除 だけできます。

データファイルの追加や表領域のサイズの変更は、データベース表領域管理ツールでできます。

参照 データベース表領域管理ツールについては、『セットアップガイド』を参照してください。

8.8 操作ログのサービス設定の解除

操作ログのサービス設定を解除する手順を説明します。

サービス全体の操作ログの設定情報を確認できるのは、サービス管理者だけです。

- サービスがメンテナンスモードの場合だけ、サービス設定を解除できます。
 - 注記このメニューは、[操作ログの削除]メニューが表示できる設定になっている場合に表示されます。
 - 補足・操作ログのサービス設定が初期化されていない場合は、操作ログのサービス設定を初期化する必要があります。
 - ・操作ログを記録中のキャビネットが1つでも存在するときはエラーが表示されます。この場合、エラー内容に表示されるキャビネットに対して、操作ログを記録しない設定へと変更してください。
 - 参照
 ・ [操作ログの削除] メニューの表示設定については、「付録 B [操作ログの削除] メニューの非表示設定」
 (P.286) を参照してください。
 - ・操作ログのサービス設定を初期化する手順は、「8.7 操作ログのサービス設定の初期化」(P.192)を参照 してください。
 - ・キャビネットの操作ログの設定を変更する手順は、<u>「6.6.19 操作ログを設定する」(P.143)</u>を参照してく ださい。
 - [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 - メニューバーの [サービス操作] > [操作ログ] > [サービス設定の解除] を選択します。
 [操作ログのサービス設定の解除] 画面が表示されます。



- 図:[操作ログのサービス設定の解除] 画面
- **3.** エクスポートされていない操作ログがあっても強制的にサービス設定を解除する場合は、[未エクスポートのログがあっても強制的にサービス設定を解除する] にチェックマークを付けます。

注記 エクスポートしていない操作ログがある場合、このチェックボックスをチェックしないとエラーになります。

- **4.** [はい] をクリックします。 操作ログのサービス設定が解除され、操作ログのサービス設定解除の確認画面が表示されます。
- **5.** [OK] をクリックします。

確認画面が閉じます。

注記 エクスポート先として指定されていたディレクトリは削除されないため、出力されたファイルが不要な場合 は手動で削除する必要があります。

9 検索エンジンの設定

検索エンジンの設定を行う手順を説明します。

9.1 検索エンジンとは

検索エンジンとは、検索機能を提供するソフトウェアです。

ArcSuiteでは、検索エンジンと連携することで、次の検索ができます。

- ・全文検索(シソーラス検索、テキスト検索)
- ・関連文書検索

「管理アプリケーション デスクトップ版」では、検索エンジンを利用するための設定や、検索をするために必要な 検索インデックスを作成、更新をします。

検索エンジンを利用するための設定では、検索結果の最大件数や、検索インデックスを更新する文書の数などを指 定します。

検索インデックスの設定は、キャビネット単位で検索インデックスを作成、更新、削除します。

9.2 全文検索エンジン連携の設定の流れ

全文検索エンジン連携を使用する前に、次のような準備が必要です。



9.3 全文検索エンジン連携の操作

全文検索エンジン連携の操作について説明します。

9.3.1 全文検索エンジン連携を設定する

全文検索エンジン連携の設定手順を説明します。 連携定義を設定できるのは、サービス管理者だけです。 サービスがメンテナンスモードの場合だけ、全文検索エンジン連携を設定できます。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [全文検索エンジン連携の設定] を選択します。 [全文検索エンジン連携の設定] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。

	×
fts2@	\sim
2000	件まで
16	件
512	バイトまで
300	件
300	件
	fts2@ 2000 16 512 300 300

図:[全文検索エンジン連携の設定] 画面- [全般] タブのページ

- 3. [全文検索サービス] プルダウンメニューから、デフォルトで使用する全文検索エンジンのサービスを選択します。
- 4. [全文検索エンジン連携の設定] 画面で、次の項目を入力します。
 - ・最大結果取得数 最大結果取得数を、1~10,000の範囲で入力します。初期値は 2,000 です。
 - ・コミット間隔

検索インデックスの更新処理で、いくつの文書を処理するごとに更新するのかを設定します。1~64 の範囲で入力します。初期値は16(旧バージョンからバージョンアップした環境では8)です。

- 補足・コミット間隔は通常デフォルト値で運用してください。
 - ・コミット間隔に大きな値を設定すると、コミット間隔分の文書を全文検索インデックスに登録するごとに、キャビネットのモード変更の検出を行いますので、キャビネットのモードを通常からメンテナンスに変更するときに時間を要する場合があります。
- ・ショートテキスト最大サイズ
 - ショートテキストの最大サイズを、20~512の範囲で入力します。初期値は 512 です。
 - 補足・変更したショートテキストの最大サイズは、該当する文書のプライマリーコンテントを差し替え後に
 全文検索インデックスを更新することで反映されます。
 - ・ショートテキストを作成するときに、連続する半角スペース、タブ、改行コードは、単一の半角スペースに置き換えられます。
 このため、実際に返されるショートテキストが短くなる場合があります。
 最小値の 20 バイトに近い値を設定すると、ショートテキストが空白文字だけになってしまうことも
- ・カーソルを開き直す間隔

あります。

検索インデックスの更新処理で、内部的に利用しているデータベースカーソルを、どれだけの数の文書を処理したら開き直すかを設定します。64 ~ 10,000 の範囲で入力します。初期値は 300 です。

・一度の検索で処理する文書数 検索したときに同時に処理する文書数を入力します。30 ~ 10,000 の範囲で入力します。初期値は 300 です。 [全文検索エンジン連携の設定] 画面- [メディアタイプ] タブのページが表示されます。

全文検索エンジン連携の設定 全般 メディアタイプ シソーラス辞書		×
メディアタイプの一覧:]	検索対象となるメディアタイプ: application/msword application/pdf application/rtf
	→ ←	application/vnd docuworks application/vnd ms-excel application/vnd.ms-excel application/vnd.ms-powerpoint application/vnd.ms-powerpoint pression/vnd.ms-word.document. application/vnd.openxmlformats-ofl v
]	OK キャンセル

図:[全文検索エンジン連携の設定] 画面- [メディアタイプ] タブのページ

6.メディアタイプを検索対象にするかどうかを設定します。

◆ メディアタイプを検索対象に追加する場合

(1) [メディアタイプの一覧] から、検索対象に追加するメディアタイプを1つ以上選択し、[→] をクリックします。

[メディアタイプの一覧] で指定したメディアタイプが、[検索対象となるメディアタイプ] に移動します。

- ◆ メディアタイプを検索対象から外す場合
- (1) [検索対象となるメディアタイプ] で、検索対象から外すメディアタイプを1つ以上選択し、[←] をク リックします。
 [検索対象となるメディアタイプ] で指定したメディアタイプが、[メディアタイプの一覧] に移動しま す。
- 7. 必要に応じて、手順6を繰り返します。
- 8. [シソーラス辞書] タブをクリックします。

[全文検索エンジン連携の設定] 画面- [シソーラス辞書] タブのページが表示されます。

全文検索エンジン連携の設定		×
全般 メディアタイプ シソーラス辞書		
****	检查不利田子不改争。	
	(東奈じ利用9句辞書:	
	\rightarrow	
	←	
	ОК	キャンセル
図:[全文検索エンジン	/連携の設定] 画面-	[シソーラ

- 9. 辞書を検索に使用するかどうかを設定します。
- ◆ 辞書を検索に使用する場合
- (1) [辞書の一覧] から、検索に使用する辞書を1つ以上選択し、[→] をクリックします。
 - [辞書の一覧] で指定した辞書が、[検索で利用する辞書] に移動します。
 - 注記 キャビネット単位で異なる全文検索エンジンを使用する場合、全文検索エンジンのシソーラス辞書は 同じ辞書を設定してください。

参照シソーラス辞書を設定する手順は、『システム管理者ガイド』を参照してください。

◆ 辞書を検索に使用しない場合

(1) [検索で利用する辞書] で検索に使用しない辞書を1つ以上選択し、[←] をクリックします。 [検索で利用する辞書] で指定した辞書が、[辞書一覧] に移動します。

10.必要に応じて、手順9を繰り返します。

11.[OK] をクリックします。

全文検索エンジン連携の設定が終了し、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

9.3.2 全文検索エンジン連携の情報を確認する

全文検索エンジン連携の情報を確認する手順を説明します。 全文検索エンジン連携の情報を確認できるのは、サービス管理者だけです。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [全文検索エンジン連携の表示] を選択します。 [全文検索エンジン連携の表示] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- 3.次に示すページの全文検索エンジン連携の情報を確認します。
 - ・ [全文検索エンジン連携の表示] 画面 [全般] タブのページ
 - ・ [全文検索エンジン連携の表示] 画面 [メディアタイプ] タブのページ
 - ・ [全文検索エンジン連携の表示] 画面 [シソーラス辞書] タブのページ
- **4.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

全文検索インデックスの操作 9.4

全文検索インデックスの操作について説明します。

全文検索インデックスの情報を確認する 9.4.1

全文検索インデックスの情報を確認する手順を説明します。 全文検索インデックスの情報を確認できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット 管理者だけです。



- 補足
 キャビネットがワークフローキャビネット、分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネッ トの場合は、全文検索インデックスを作成できません。
- 1.[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス]タブのページで、左側の[階層ツ リー表示]エリアから [サービス]を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネット から、操作対象のキャビネットを選択します。
- 3. メニューバーの [キャビネット操作] > [検索インデックス] > [全文検索インデックス] > [全文検 索インデックス情報の表示]を選択します。 [全文検索インデックス情報の表示] 画面- [全般] タブのページが表示されます。
- 4. 次に示すページの全文検索インデックスの情報を確認します。
 - ・「全文検索インデックス情報の表示」画面- 「全般」 タブのページ
 - 「全文検索インデックス情報の表示」画面-「連携設定」タブのページ
 - ・ [全文検索インデックス情報の表示] 画面 [メディアタイプ] タブのページ
 - 「全文検索インデックス情報の表示」画面-「シソーラス辞書」タブのページ

5. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

全文検索インデックスを初期化する 9.4.2

全文検索インデックスを初期化する手順を説明します。

全文検索インデックスを初期化できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理 者だけです。キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、全文検索インデックスを初期化できます。

補足・全文検索エンジン連携の設定をしていない場合は、全文検索エンジン連携の設定をする必要があります。 ・キャビネットがワークフローキャビネット、分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビ

- ネットの場合は、全文検索インデックスの初期化はできません。
- ・キャビネットに登録されているドキュメントの数などによって、全文検索インデックスの初期化に時間が かかることがあります。
- 参照 全文検索エンジン連携の設定をする手順は、「9.3 全文検索エンジン連携の操作」(P.198)を参照してくだ さい。
- 1.[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス]タブのページで、左側の[階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネット から、操作対象のキャビネットを選択します。

- メニューバーの[キャビネット操作] > [検索インデックス] > [全文検索インデックス] > [全文検 索インデックス初期化] を選択します。
 [全文検索インデックスの初期化] 画面が表示されます。
- 4. [全文検索サービス] プルダウンメニューから、対象となる全文検索エンジンのサービスを選択します。
- 5. ドキュメントスペースでキーワードを指定して検索したときに、検索結果でキーワードをハイライト表示する場合は、[検索結果のハイライトを可能にする] にチェックマークを付けます。

補足 全文検索の検索結果をハイライト表示するためには、あらかじめ検索結果のハイライトを可能にして、 「全文検索インデックスの初期化」を実行する必要があります。ハイライト表示を使用しないインデッ クスを作成している場合に、ハイライト表示を使用するように変更するときは、一度インデックスを 削除し、ハイライト表示を可能にした状態で、再度、「全文検索インデックスの初期化」を実行してく ださい。

6. [はい] をクリックします。

全文検索インデックスが初期化され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

9.4.3 全文検索インデックスを削除する

全文検索インデックスを削除する手順を説明します。

全文検索インデックスを削除できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理者 だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、全文検索インデックスを削除できます。

補足・関連文書検索インデックスが作成されている場合は、関連文書検索インデックスを削除する必要があります。関連文書検索インデックスが作成されている状況とは、[関連文書検索インデックス状況]が[未設定]以外の状況です。

・キャビネットがワークフローキャビネット、分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビ ネットの場合は、全文検索インデックスを作ることはできません。

参照 関連文書検索インデックスを削除する手順は、<u>「9.7.3 関連文書検索インデックスを削除する」(P.207)</u>を 参照してください。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- 3. メニューバーの [キャビネット操作] > [検索インデックス] > [全文検索インデックス] > [全文検 索インデックスの削除] を選択します。

[全文検索インデックスの削除] 画面が表示されます。

全文検索	インデックスの削除	×
í	キャビネット「DEFAULT_CAB」の全文検索インデックスを削除しますか □検索エンジンからのエラーを無視	?
	はいいえ	

図:[全文検索インデックスの削除] 画面

- **4.** 全文検索エンジンでエラーが発生した場合も、無視して全文検索インデックスを削除する場合は、[検索 エンジンからのエラーを無視] にチェックマークを付けます。
- **5.** [はい] をクリックします。

全文検索インデックスが削除され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス] タブのページに戻ります。

9.5 関連文書検索エンジン連携の設定の流れ

関連文書検索エンジン連携を使用する前に、次のような準備が必要です。



9.6 関連文書検索エンジン連携の操作

関連文書検索エンジン連携の操作について説明します。

9.6.1 関連文書検索エンジン連携を設定する

関連文書検索エンジン連携の設定手順を説明します。 連携定義を設定できるのは、サービス管理者だけです。 サービスがメンテナンスモードの場合だけ、関連文書検索エンジン連携を設定できます。

補足
全文検索インデックスが作成されている場合に、関連文書検索インデックスを作成できます。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [関連文書検索エンジン連携の設定] を選択します。 [関連文書検索エンジン連携の設定] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- **3.** [関連文書検索サービス] プルダウンメニューから、デフォルトで使用する関連文書検索エンジンのサービスを選択します。
- 4. [関連文書検索エンジン連携の設定] 画面で、次の項目を入力します。
 - ・最大結果取得数 最大結果取得数を、1~1,000の範囲で入力します。初期値は 1,000 です。
 - ・コミット間隔 検索インデックスの更新処理で、いくつの文書を処理するごとに更新するのかを設定します。1~64 の範囲で入力します。初期値は8です。
 - ・最小スコア 結果として返す最小スコアの基準を、0~99の範囲で入力します。初期値は0です。
 - 補足・最小スコアが初期値0のままの、最小スコアによる検索結果のフィルターを行わない運用を推奨します。
 - ・最小スコアを初期値以外の値に設定すると、スコアが最小スコア以上であることが最大取得件数より 優先されますので、最大取得件数よりも検索結果が少なくなることがあります。
 - ・カーソルを開き直す間隔 検索インデックスの更新処理で、内部的に利用しているデータベースカーソルを、どれだけの数の文 書を処理したら開き直すかを設定します。64 ~ 10,000 の範囲で入力します。初期値は 300 です。
- **5.** [メディアタイプ] タブをクリックします。 [関連文書検索エンジン連携の設定] 画面 – [メディアタイプ] タブのページが表示されます。
- 6. メディアタイプを検索対象にするかどうかを設定します。

◆ メディアタイプを検索対象に追加する場合

- (1) [メディアタイプの一覧]から、検索対象に追加するメディアタイプを1つ以上選択し、[→]をクリックします。
 [メディアタイプの一覧]で指定したメディアタイプが、[検索対象となるメディアタイプ]に移動します。
- ◆ メディアタイプを検索対象から外す場合
- (1) [検索対象となるメディアタイプ] で、検索対象から外すメディアタイプを1つ以上選択し、[←] をク リックします。
 [検索対象となるメディアタイプ] で指定したメディアタイプが、[メディアタイプの一覧] に移動しま す。
- 7. 必要に応じて、手順6を繰り返します。

8. [OK] をクリックします。

関連文書検索エンジン連携の設定が終了し、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

9.6.2 関連文書検索エンジン連携の情報を確認する

関連文書検索エンジン連携の情報を確認する手順を説明します。 関連文書検索エンジンの連携定義情報を確認できるのは、サービス管理者だけです。

- **1.** [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [関連文書検索エンジン連携の表示] を選択します。 [関連文書検索エンジン連携の表示] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- 3.次に示すページの関連文書検索エンジン連携の情報を確認します。
 - ・[関連文書検索エンジン連携の表示] 画面 [全般] タブのページ
 - ・[関連文書検索エンジン連携の表示] 画面 [メディアタイプ] タブのページ
- **4.** [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

関連文書検索インデックスの操作 9.7

関連文書検索インデックスの操作について説明します。

関連文書検索インデックスの情報を確認する 9.7.1

関連文書検索インデックスの情報を確認する手順を説明します。 関連文書検索インデックスの情報を確認できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビ ネット管理者だけです。



- 補足
 キャビネットがワークフローキャビネット、分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネッ トの場合は、関連文書検索インデックスを作成できません。
- 1.[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス]タブのページで、左側の[階層ツ リー表示]エリアから [サービス]を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネット から、操作対象のキャビネットを選択します。
- 3. メニューバーの [キャビネット操作] > [検索インデックス] > [関連文書検索インデックス] > [関 連文書検索インデックス情報の表示]を選択します。 [関連文書検索インデックス情報の表示] 画面- [全般] タブのページが表示されます。
- 4.次に示すページの関連文書検索インデックスの情報を確認します。
 - 「関連文書検索インデックス情報の表示」画面-「全般」タブのページ
 - 「関連文書検索インデックス情報の表示」画面-「連携設定」タブのページ
 - ・[関連文書検索インデックス情報の表示] 画面 [メディアタイプ] タブのページ
- **5.** [OK] をクリックします。 [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

関連文書検索インデックスを初期化する 9.7.2

関連文書検索インデックスを初期化する手順を説明します。

関連文書検索インデックスを初期化できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット 管理者だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、関連文書検索インデックスを初期化できます。

- 補足・関連文書検索エンジン連携の設定をしていない場合は、関連文書検索エンジン連携の設定をする必要があ ります。
 - ・キャビネットがワークフローキャビネット、分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビ ネットの場合は、関連文書検索インデックスの初期化はできません。
 - ・全文検索インデックスが作成されている必要があります。全文検索インデックスが作成されている状況と は、[関連文書検索インデックス状況]が[未設定]以外の状況です。 ただし、全文検索インデックス状況が「インデックス更新中」、「インデックス削除中」、または「インデッ クス更新失敗」の場合は、関連文書検索インデックスの初期化はできません。
- 参照 関連文書検索エンジン連携の設定をする手順は、「9.6 関連文書検索エンジン連携の操作」(P.204)を参照 してください。
- 1. 「ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の「サービス]タブのページで、左側の「階層ツ リー表示]エリアから [サービス]を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネット から、操作対象のキャビネットを選択します。

- 3. メニューバーの [キャビネット操作] > [検索インデックス] > [関連文書検索インデックス] > [関連文書検索インデックスの初期化] を選択します。
 [関連文書検索インデックスの初期化] 画面が表示されます。
- **4.** [関連文書検索サービス] プルダウンメニューから、対象となる関連文書検索エンジンのサービスを選択します。
- 5. [はい] をクリックします。 関連文書検索インデックスが初期化され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サー ビス] タブのページに戻ります。

9.7.3 関連文書検索インデックスを削除する

関連文書検索インデックスを削除する手順を説明します。

関連文書検索インデックスを削除できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管 理者だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、関連文書検索インデックスを削除できます。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- メニューバーの[キャビネット操作]> [検索インデックス]> [関連文書検索インデックス]> [関連文書検索インデックスの削除]を選択します。
 [関連文書検索インデックスの削除] 画面が表示されます。
- **4.** 関連文書検索エンジンでエラーが発生しても、無視して関連文書検索インデックスを削除する場合は、 [検索エンジンからのエラーを無視] にチェックマークを付けます。
- 5. [はい] をクリックします。 関連文書検索インデックスが削除され、[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション] の [サービ ス] タブのページに戻ります。

補足 キャビネットがワークフローキャビネット、分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネットの場合は、関連文書検索インデックスを作ることはできません。

検索インデックスの異常状況を回復する 9.8

検索インデックスを作成するときに、何らかの異常が発生した場合、回復する手順を説明します。 検索インデックスの異常状況を回復できるのは、サービス管理者および操作対象キャビネットのキャビネット管理 者だけです。

キャビネットがメンテナンスモードの場合だけ、検索インデックスの異常状況を回復できます。

- 補足 キャビネットがワークフローキャビネット、分類キャビネット、およびメッセージ通知サービスキャビネッ トの場合は、検索インデックスを作ることはできません。
- 1.[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の[サービス]タブのページで、左側の[階層ツ リー表示]エリアから [サービス]を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネット から、操作対象のキャビネットを選択します。
- 3. メニューバーの [キャビネット操作] > [検索インデックス] > [検索インデックス異常状況の回復] を選択します。

[検索インデックス異常状況の回復] 画面が表示されます。



図:[検索インデックス異常状況の回復] 画面

- 4. 状況に応じて、[エラー状況の文書について] のラジオボタンを選択します。
- 5. 状況に応じて、[更新中・初期化中・削除中の状況について] のラジオボタンを選択します。
- **6.** [はい] をクリックします。

インデックス状況が選択した条件で回復し、「ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション」の [サービス] タブのページに戻ります。

10スケジューラー機能の設定

スケジューラー機能の設定を行う手順を説明します。

10.1 スケジューラー機能とは

スケジューラー機能とは、前もって実行する日時や間隔(たとえば7日に1度)などを設定しておくことで、管理 操作を自動的に実行する機能です。

管理アプリケーション デスクトップ版では、次の操作を行えます。

- ・<u>スケジューラー機能の状態の変更</u>
- ・<u>スケジューラー機能の状態の確認</u>
- ・<u>スケジュール情報の確認</u>
- ・<u>スケジュールの中止</u>
- ・<u>キャビネットのスケジュールの設定</u>

参照スケジューラー機能の詳細については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』をご覧ください。

10.2 スケジューラー機能の状態の変更

サービスおよびキャビネットのスケジューラー機能の状態を変更する手順を説明します。

サービスのスケジューラー機能の状態を変更する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- メニューバーの [サービス操作] > [スケジューラー] > [スケジューラー機能の状態変更] を選択します。
 [スケジューラー機能の状態変更] 画面が表示されます。
- **3.** [はい] をクリックします。 サービスのスケジューラー機能の状態が変更されます。

キャビネットのスケジューラー機能の状態を変更する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- メニューバーの [サービス操作] > [スケジューラー] > [スケジューラー機能の状態変更] を選択します。
 [スケジューラー機能の状態変更] 画面が表示されます。
- **4.** [はい] をクリックします。 キャビネットのスケジューラー機能の状態が変更されます。

10.3 スケジューラー機能の状態の確認

スケジューラー機能の状態を確認する手順を説明します。

- **1.** [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- メニューバーの [サービス操作] > [スケジューラー] > [スケジューラー機能の状態表示] を選択します。
 [スケジューラー機能の状態表示] 画面が表示されます。
- 3. 次に示すスケジューラー機能の状態を確認します。
 - ・サービスのスケジューラー機能の状態
 - ・キャビネットのスケジューラー機能の状態

10.4 スケジュール情報の確認

スケジュール情報を確認する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- メニューバーの [サービス操作] > [スケジューラー] > [スケジューラー機能の状態表示] を選択します。
 [スケジューラー機能の状態表示] 画面が表示されます。
- 3. [スケジュールの一覧表示] 画面に表示されているスケジュールのうち1つを選択します。
- **4.** [詳細] をクリックします。 [スケジュール情報の表示] 画面が表示されます。
- 5. 次に示すスケジュール情報を確認します。
 - ・スケジュールの設定情報
 - ・スケジュールの実行情報

10.5 スケジュールの中止

サービスおよびキャビネットの実行中のスケジュールを中止する手順を説明します。

10.5.1 サービスの実行中のスケジュールを中止する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [スケジューラー] > [実行中スケジュールの表示] を選択します。 [実行中スケジュールの表示] 画面が表示されます。
- 3. 操作対象のスケジュールを選択します。
- **4.** [実行中止] をクリックします。 [スケジュールの実行中止] 画面が表示されます。
- **5.** [はい] をクリックします。 選択したスケジュールの実行が中止されます。

10.5.2 キャビネットの実行中のスケジュールを中止する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [サービス操作] > [スケジューラー] > [実行中スケジュールの表示] を選択します。 [実行中スケジュールの表示] 画面が表示されます。
- 4. 操作対象のスケジュールを選択します。
- **5.** [実行中止] をクリックします。 [スケジュールの実行中止] 画面が表示されます。
- **6.** [はい] をクリックします。 選択したスケジュールの実行が中止されます。

10.6 キャビネットのスケジュールの設定

キャビネットのスケジュールの設定について説明します。

10.6.1 [スケジュールの追加] 画面を表示する

- ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [スケジューラー] > [スケジュールの設定] を選択します。 [スケジュールの設定] 画面が表示されます。
- **4.** [スケジュールの設定] 画面で、[追加] をクリックします。 [スケジュールの追加] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。

スケジュールの追加		×
全般 実行オペレーション 実行	条件	
スケジュールの名前:		
無効化設定:	有効 ~	
衝突時の選択:	実行エラーにする。 🗸 🗸	
実行ユーザー:	RMS管理者	
🗌 スケジュール実行ユーザーを	自分にする。	
		OK キャンセル

図:[スケジュールの追加] 画面- [全般] タブのページ

10.6.2 [スケジュールの追加] 画面- [全般] タブのページの構成

[スケジュールの追加] 画面- [全般] タブのページでは、作成するスケジュールの名前などを設定できます。

スケジュールの追加		×
全般 実行オペレーション 実行条	件	
スケジュールの名前:		
無効化設定:	有効 ~	
衝空時の避招:	実行エラーにする。	
	XUT) (5,000 A	
実行ユーザー:	RMS管理者	
	li se ele	
□ スケジュール実行ユーサーを目	分にする。	
		0K ****/1711

図:[スケジュールの追加] 画面- [全般] タブのページ

[スケジュールの追加] 画面- [全般] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[スケジュールの名前]	作成するスケジュールの名前を、384バイト以内で入力します。[スケジュール の名前]の入力は必須です。
[無効化設定]プルダウ ンメニュー	作成するスケジュールの無効化設定を指定します。
[衝突時の選択] プルダ ウンメニュー	作成するスケジュールの衝突時の動作を選択します。
[実行ユーザー]	スケジュールを実行するユーザーが表示されます。スケジュールを登録する ユーザーがそのまま実行ユーザーとして表示されます。
[スケジュール実行ユー ザーを自分にする。]	スケジュールを登録するユーザーが実行ユーザーとなるため、[スケジュールの 追加] 画面ではグレー表示され、使用できません。[スケジュールの編集] 画面 では変更できます。
10.6.3 [スケジュールの追加] 画面 – [実行オペレーション] タブの ページの構成

[スケジュールの追加] 画面- [実行オペレーション] タブのページでは、作成するスケジュールのオペレー ション (操作とパラメーター) を設定できます。

スケジュールの追加		×
全般 実行オペレーション 実行条	件	
順序	操作種類	設定
		OK キャンセル

図:[スケジュールの追加] 画面- [実行オペレーション] タブのページ

[スケジュールの追加] 画面- [実行オペレーション] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[順序]	オペレーションを実行する順番が表示されます。
[操作種類]	オペレーションの操作が表示されます。
[設定]	クリックすると、[オペレーション設定]画面が表示されます。

10.6.4 [スケジュールの追加] 画面 – [実行条件] タブのページの構成

[スケジュールの追加] 画面- [実行条件] タブのページでは、作成するスケジュールの実行条件を設定できます。

スケジニ	ールの追加	×
全般	実行オペレーション実行条件	
		設定
		OK キャンセル

図:[スケジュールの追加] 画面- [実行条件] タブのページ

[スケジュールの追加]画面- [実行条件] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[実行条件]	実行条件を設定すると、実行条件が表示されます。
[設定]	クリックすると、[実行間隔単位の選択]画面が表示されます。

10.6.5 スケジュールを設定する

キャビネットにスケジュールを設定する手順を説明します。

- 注記 ・キャビネットをメンテナンスモードにして [不要なコンテント関連データの削除] を実行しなかった場合 には、不要データが残ってしまうことがあります。
 - ・移動の後処理を強制終了させた場合、移動の後処理を実行しようとしても処理ができない場合があります。
 - ・分類範囲に指定されたオブジェクトが、メンテナンスモードのキャビネット、または、その中のドロワー かフォルダーであった場合、その分類ビューの該当件数の更新は行われません。
- 補足ドキュメント管理サービスの運用の中で、次のような場合に不要なデータが残ります。
 - ・オブジェクトを削除したあとで、コンテントファイルが残るオブジェクトを削除したときに属性に関する データは削除されますが、コンテントファイル、およびコンテントを管理するデータは削除されずに残り ます。
 - トランザクションデータが残る何らかの原因でサービスが強制的に停止されたときなどに、予約などの不 要なトランザクションデータが残ります。

上記のようなデータを長期間放置しておくと、ハードディスクなどのリソースを圧迫する可能性があるので、 定期的に不要なデータを削除するために、「不要なコンテント関連データの削除」、「不要なトランザクション データの削除」をスケジューラーにて実施するようにしてください。

スケジュールを追加する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。

- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [スケジューラー] > [スケジュールの設定] を選択します。 [スケジュールの設定] 画面が表示されます。
- **4.** [スケジュールの設定] 画面で、[追加] をクリックします。 [スケジュールの追加] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- 5. [スケジュールの名前] にスケジュール名を 384 バイト以内で入力します。
- 6. [無効化設定] プルダウンメニューから、スケジュールの無効化設定を選択します。
- 7. [衝突時の選択] プルダウンメニューから、衝突時の動作を選択します。
- **8. [実行オペレーション] タブをクリックします**。 [スケジュールの追加] 画面 – [実行オペレーション] タブのページが表示されます。
- **9.** [設定] をクリックします。 [オペレーション設定] 画面が表示されます。
- **10.**[追加] をクリックします。 [操作の選択] 画面が表示されます。
- **11.**オペレーションの操作をラジオボタンで選択します。

補足キャビネットラベルによって、表示される操作が異なります。

12.[OK] をクリックします。

[操作の選択] 画面で次のラジオボタンを選択していた場合は、パラメーター設定のための画面が表示されます。手順 <u>14</u> に進みます。それ以外のラジオボタンを選択していた場合は、[スケジュールの追加] 画面 - [実行オペレーション] タブのページに戻ります。手順 <u>15</u> に進みます。

- ・全文検索インデックスの更新
- ・関連文書検索インデックスの更新
- ・不要なコンテント関連データの削除
- ・不要なトランザクションデータの削除
- ・該当件数更新
- **13.**オペレーションのパラメーターを設定したあと、[OK] をクリックします。

[スケジュールの追加] 画面-[実行オペレーション] タブのページに戻ります。

14.[実行条件] タブをクリックします。

[スケジュールの追加] 画面- [実行条件] タブのページが表示されます。

- 15.[実行間隔単位] で、オペレーションの実行間隔単位をラジオボタンで選択します。
- **16.**[OK] をクリックします。

選択した実行間隔単位を設定する画面が表示されます。

17.実行間隔単位を設定したあと、[OK]をクリックします。

[スケジュールの追加]画面- [実行条件] タブのページに戻ります。

18.[OK] をクリックします。

[スケジュールの設定] 画面が表示されます。 スケジュール一覧に追加したスケジュールが表示されます。

19.[OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

スケジュールを編集する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [スケジューラー] > [スケジュールの設定] を選択します。 [スケジュールの設定] 画面が表示されます。
- 4. [スケジュールの設定] 画面のスケジュール一覧から、編集するスケジュールを選択します。
- 5. スケジュールを編集します。

参照 手順の詳細については、「スケジュールを追加する」(P.218)を参照してください。

スケジュールを削除する

- 1. [スケジュールの設定] 画面のスケジュール一覧から、削除するスケジュールを選択します。
- **2.** [削除] をクリックします。 [スケジュールの削除] 画面が表示されます。
- **3.** [はい] をクリックします。 選択したスケジュールが削除されます。
- **4.** [OK] をクリックします。 [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

スケジュールを有効化する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [スケジューラー] > [スケジュールの設定] を選択します。 [スケジュールの設定] 画面が表示されます。
- 4. [スケジュールの設定] 画面のスケジュール一覧から、有効にするスケジュールを選択します。
- 5. [有効化] をクリックします。 [スケジュールの有効化] 画面が表示されます。
- **6.** [はい] をクリックします。 選択したスケジュールが有効になります。
- **7.** [OK] をクリックします。 [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

スケジュールを無効化する

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [スケジューラー] > [スケジュールの設定] を選択します。 [スケジュールの設定] 画面が表示されます。
- 4. [スケジュールの設定] 画面のスケジュール一覧から、無効にするスケジュールを選択します。
- **5.** [無効化] をクリックします。 [スケジュールの無効化] 画面が表示されます。
- **6.** [はい] をクリックします。 選択したスケジュールが無効になります。
- **7.** [OK] をクリックします。 [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページに戻ります。

11メール通知の設定

メール通知の設定を行う手順を説明します。

11.1 メール通知設定の確認

メール通知設定を確認する手順を説明します。

- **1.** [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [メール通知] > [表示] を選択します。 [メール通知設定の表示] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- 3. [メール通知設定の表示] 画面で、次に示すメール通知設定を確認します。
 - ・メール通知の設定、メッセージ通知、通知メールの最大サイズ
 - ・メール通知のメールテンプレート

11.2 メール通知設定の使用状況の確認

メール通知設定の使用状況を確認する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [メール通知] > [使用状況] を選択します。 [メール通知設定の使用状況の表示] 画面が表示されます。
- **3.** [メール通知設定の使用状況の表示] 画面で、次に示すメール通知設定の使用状況を確認します。 ・イベントトリガーのアクション
 - ・タイマー定義

11.3 メール通知の設定

メール通知を設定する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [メール通知] > [設定] を選択します。 [メール通知の設定] 画面 - [全般] タブのページが表示されます。

メール通知の設定	×
全般 メールテンプレート	
メール通知の設定:	 百次 () 百次 () () ()
	○ 無効にする
メッセージ通知:	メッセージ通知サービス() 🗸
通知メールの最大サイズ:	1000 KB

- 図:[メール通知の設定] 画面- [全般] タブのページ
- メール通知の設定を有効にするかどうかを、[メール通知の設定]の[有効にする]、または[無効にする]から選択します。
- 4. [メッセージ通知] プルダウンメニューから、使用するメッセージ通知を選択します。
 補足 利用可能なメッセージ通知がない場合は、[メッセージ通知] プルダウンメニューには何も表示されません。
- 5. [通知メールの最大サイズ] に通知するメールの最大サイズを KB 単位で入力します。
 補足 指定できる値は、10~10,000 までの整数値です。
- **6.** [メールテンプレート] タブをクリックします。 [メール通知の設定] 画面 – [メールテンプレート] タブのページが表示されます。
- **7.** [即時配信] エリアにある [追加] をクリックします。 [メールテンプレートの設定] 画面が表示されます。

OK	キャンセル
	ОК

図:[メールテンプレートの設定] 画面

- 8. [名前] にメールテンプレートの名前を 384 バイト以内で入力します。
- 9. [テンプレート名] にメールテンプレートのテンプレート名を 255 バイト以内で入力します。
- **10.**[OK] をクリックします。

[メール通知の設定]画面- [メールテンプレート] タブのページが表示されます。

- **11.**[ダイジェスト] エリアにある [追加] をクリックします。 [メールテンプレートの設定] 画面が表示されます。
- 12. [名前] にメールテンプレートの名前を 384 バイト以内で入力します。
- 13.[テンプレート名] にメールテンプレートのテンプレート名を 255 バイト以内で入力します。

14.[OK] をクリックします。

[メール通知の設定]画面- [メールテンプレート] タブのページが表示されます。

15.[OK] をクリックします。

メール通知が設定されます。

12タイマー機能の設定

タイマー機能の設定を行う手順を説明します。

12.1 タイマーの追加

タイマーを追加する手順を説明します。

- 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [タイマーの設定] を選択します。 [タイマーの設定] 画面が表示されます。

k	タイマーの設定								×
	操作对象:	DEFAULT_CAB							
l	タイマー一覧:				1			0011	
l	名前	次回のイベント成立	前回のイベント発行…	タイマー状態	総イベント数	スキップ登録数	冉表示	開始	
							実行情報	取消し	
							設定情報	リセット	
							新規追加	一時停止	
							コピー追加	再開	
							編集		
							肖山『余		
							エラー管理		
l								_	
L								0	K

図:[タイマーの設定] 画面

- 4. 操作に応じて、次の手順に進みます。
- ◆ タイマーを新規に追加する
- (1) [新規追加] をクリックします。 [タイマーの追加] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- ◆ タイマーをコピーして追加する
- (1) コピーするタイマーを、一覧から選択します。
- (2) [コピー追加]をクリックします。

		" <u> </u>
[タイマーの追	≧加] 画面- [全般] タブのペーシ	"が表示されます。
タイマーの追加		×
全般対象オブジェクト条	#件(基本) 対象オブジェクト条件(詳細) イベント発行タイミング	
名前:		
i兑8月:		
イベント付加情報:		
実行ユーザー:	RMS管理者	
エラー通知:	O 42	
	● しない	

図:[タイマーの追加] 画面- [全般] タブのページ

5. [名前] に、タイマーの名前を入力します。

補足 入力できる名前は、384 バイト以内です。

6. [説明] に、タイマーの説明を入力します。

補足入力できる説明は、2,048 バイト以内です。

- 7. [イベント付加情報] に、タイマー固有の情報を付加するための情報を入力します。
 補足 入力できるイベント付加情報は、512 バイト以内です。
- 8. 管理者にエラー通知をするかどうかを、[エラー通知]の [する] または [しない] から選択します。
- 9. [対象オブジェクト条件(基本)] タブをクリックします。

[タイマーの追加]画面- [対象オブジェクト条件(基本)] タブのページが表示されます。

タイマーの追加	×
全般 対象オブジェクト条件(基本) 対象オブジェクト条件(詳細) イベント発行タイミング	
│対象範囲	
● キャビネット全体	
- רטא 🔾	
○ ごみ箱	
- オブジェカトカイプー	
	設定

図:[タイマーの追加] 画面- [対象オブジェクト条件(基本)] タブのページ

10.[対象範囲] エリアで、タイマーの対象範囲を、ラジオボタンから選択します。

補 足
 ・デフォルトでは[キャビネット全体]が選択されています。
 ・ドロワーまたはごみ箱を登録していない場合、ラジオボタンは選択できません。
 ・[ドロワー]を選択した場合は、プルダウンメニューから、対象のドロワーを選択します。

11.[オブジェクトタイプ] エリアで、タイマーの対象オブジェクトタイプを設定します。

(1) [設定] をクリックします。

[対象オブジェクトタイプの設定] 画面が表示されます。

対象オブジェクトタイプの設定		×
侯補 オブジェクトカテゴリー: 「オブジェクトカテゴリー: 「オブジェクトタイプ: フォルダ ドキュメント リファレシス ハヽードリファレシス ・ ・	選択済 オブジェクトタイプ: 前印余	
	OK キャンセル	

図:[対象オブジェクトタイプの設定] 画面

- (2) [対象オブジェクトタイプの設定] 画面の [オブジェクトカテゴリー] プルダウンメニューで、オブジェ クトカテゴリーを選択します。 候補の [オブジェクトタイプ] エリアにオブジェクトタイプが表示されます。
- (3) [候補] の [オブジェクトタイプ] エリアでオブジェクトタイプを選択します。
- **(4)** [→] をクリックします。
- (5) [選択済]の[オブジェクトタイプ]エリアにオブジェクトタイプが追加されます。

(6) [OK] をクリックします。

[タイマーの追加] 画面- [対象オブジェクト条件(基本)] タブのページの [オブジェクトタイプ] エ リアに、オブジェクトタイプが追加されます。

12.[対象オブジェクト条件(詳細)] タブをクリックします。

[タイマーの追加] 画面 – [対象オブジェクト条件(詳細)] タブのページが表示されます。

イマーの追加			×
全般(対象オブジェク)	条件(基本) 対象オブジェクト	条件(詳細) イベント発行タイミング	
11118に用する冬代			
1/12812199197097817			設定
			BAAL
属性に関する条件-			
属性名	演算子	属性値	追加
			変更
			肖明余
	● すべてを満たす	○ いずれかを満たす	
	8-+7 & /4		
	890余1千	(1-0-1)etro
基準日時周性	開始日時	終了日時	加速
			· 美史
			月小P示
結合条件:	◎ すべてを満たす	○ いずれかを満たす	
			K +550 +711
			11/2010

図:[タイマーの追加] 画面- [対象オブジェクト条件(詳細)] タブのページ

13.[状態に関する条件]エリアで、対象オブジェクトの状態を設定します。

(1) [設定] をクリックします。

[クラスに応じた状態を選択] 画面が表示されます。

クラスに応じた状態を選択		\times
候補 クラス: 「 <u>すべて選択</u> 」 ◇ 状態: 固定 廃棄 編集可能	選択済 状態: 前原奈	
	OK キャンセ	ŀ

図:[クラスに応じた状態を選択] 画面

- (2) 必要に応じて、状態の追加または削除します。
- (3) [OK] をクリックします。

[タイマーの追加]画面- [対象オブジェクト条件(詳細)] タブのページの [状態に関する条件] エリアに、オブジェクトの状態が表示されます。

補足 何も指定しない場合は、すべての状態が有効になります。

- 14. [属性に関する条件] エリアで、タイマーの対象とする属性の条件を設定します。
- (1) [追加] をクリックします。 [属性に関する条件の設定] 画面が表示されます。

- (2) [属性に関する条件の設定] 画面の [属性名]、[演算子]、[属性値] プルダウンメニューで、タイマーの 対象とする属性の条件を設定します。
- (3) [OK] をクリックします。 [タイマーの追加] 画面- [対象オブジェクト条件(詳細)] タブのページの [属性に関する条件] エリ アに、属性の条件が追加されます。

15.[イベント成立日時に関する条件]エリアで、イベントが成立する日時を指定します。

- (1) [追加] をクリックします。 [イベント成立日時に関する条件の設定] 画面が表示されます。
- (2) [イベント成立日時に関する条件の設定] 画面の [基準日時属性] プルダウンメニューで、基準日時の属 性を選択します。
- (3) タイマーイベント発行を許可する期間の開始日時を設定する場合は、[開始日時を設定] にチェックマー クを付けます。

開始日時を基準日時属性を基準に次の項目を設定します。

- ・[補正] [期間] 開始日時を設定した期間だけ、加算または減算します。
- ・[補正] [日時] 開始日時を設定した日時にします。
- ・[境界値] [開始日時を含める]または[開始日時を含めない]を選択します。
- (4) タイマーイベント発行を許可する期間の終了日時を設定する場合は、[終了日時を設定] にチェックマー クを付けます。

終了日時を基準日時属性を基準に次の項目を設定します。

- ・[補正] [期間] 終了日時を設定した期間だけ、加算または減算します。
- ・[補正] [日時]
 終了日時を設定した日時にします。

・[境界値] [終了日時を含める]または [終了日時を含めない]を選択します。

(5) [OK] をクリックします。

[タイマーの追加]画面- [対象オブジェクト条件(詳細)] タブのページの [イベント成立日時に関す る条件] エリアに、イベントが成立する日時が追加されます。

16.[イベント発行タイミング] タブをクリックします。

[タイマーの追加] 画面 – [イベント発行タイミング] タブのページが表示されます。

- 17.タイマーのイベント発行タイミングを設定します。
- (1) [設定]をクリックします。

[実行間隔単位の選択] 画面が表示されます。

実行間隔単位の選択	×
作成する実行間隔単位を選択してください。 - 実行間隔単位	
● 日単位	
○ 週単位	
○ 月単位	
○ 一回だけ実行	
L	1
ОК	キャンセル

図:[実行間隔単位の選択] 画面

(2) タイマーイベントを実行する条件をラジオボタンで選択します。

(3) [OK] をクリックします。

選択した実行間隔を設定する画面が表示されます。

(4) 選択したラジオボタンによって表示される、次の画面でタイマーイベントを設定します。

- ・[日単位] を選択した場合 [日単位] 画面が表示されます。
- ・[週単位]を選択した場合 [週単位] 画面が表示されます。
- ・[月単位] を選択した場合
 [月単位] 画面が表示されます。
- ・[一回だけ実行] を選択した場合
- [一回だけ実行] 画面が表示されます。
- (5) 選択した実行間隔を設定する画面で、[OK]をクリックします。

[タイマーの追加] 画面- [イベント発行タイミング] タブのページに、タイマーイベントを発行するタ イミングが追加されます。

18.[OK] をクリックします。

タイマーが追加され、[タイマーの設定]画面に戻ります。

12.2 タイマーの編集

- タイマーを編集する手順を説明します。
 - 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
 - [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
 - キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
 - **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [タイマーの設定] を選択します。 [タイマーの設定] 画面が表示されます。
 - 4. 編集するタイマーを、一覧から選択します。

補足タイマーを編集できるのは、タイマーの状態が「停止」のタイマーだけです。

5. [編集] をクリックします。

[タイマーの編集]画面-[全般]タブのページが表示されます。

タイマーの編集	×
全般 対象オブジェクト	条件(基本) 対象オブジェクト条件(詳細) イベント発行タイミング
名前:	接続タイマー
ID:	000092453C3B87FA
i说8月:	
イベント付加情報:	
タイマー状態:	停止
実行ユーザー:	RMS管理者
	□タイマーイベント実行ユーザーを自分にする。
エラー通知:	⊖ ৰৱ
	● しない
	OK キャンセル

図:[タイマーの編集] 画面- [全般] タブのページ

- 6. 必要に応じて、次の項目を編集します。
 - ・[名前]入力フィールド タイマーの名前を384バイト以内で入力します。
 - ・[説明] 入力フィールド タイマーの説明を 2,048 バイト以内で入力します。
 - ・[イベント付加情報]入力フィールド タイマーにタイマー固有の情報を付加するための情報を 512 バイト以内で入力します。
 - ・[タイマーイベント実行ユーザーを自分にする。] タイマーの実行ユーザーを自分に変更する場合にチェックマークを付けます。
 - 「エラー通知]
 管理者にエラー通知をするかどうかを設定します。
- 7. [対象オブジェクト条件(基本)] タブをクリックします。

[タイマーの編集] 画面- [対象オブジェクト条件(基本)] タブのページが表示されます。

タイマーの編集			×
全般対象オブジェクト条件(基本)) 対象オブジェクト条件(詳細)	イベント発行タイミング	
┌対象範囲			
 キャビネット全体 			
רפזא ⊖	\sim		
○ ごみ箱			
۲×۲۲			設定

図:[タイマーの編集]画面- [対象オブジェクト条件(基本)] タブのページ

8. [対象範囲] エリアで、タイマーの対象範囲を、ラジオボタンで選択します。

補足 [ドロワー]を選択した場合は、プルダウンメニューから、対象のドロワーを選択します。

9. [オブジェクトタイプ] エリアで、タイマーの対象オブジェクトタイプを設定します。

参照 対象オブジェクトタイプの設定方法は、タイマーを追加する場合と同じです。<u>「12.1 タイマーの追加」</u> (P.228) を参照してください。

10.[対象オブジェクト条件(詳細)] タブをクリックします。

[タイマーの追加] 画面- [対象オブジェクト条件(詳細)] タブのページが表示されます。

11.[状態に関する条件]エリアで、タイマーの対象オブジェクトの状態を設定します。

参照 状態の条件の設定方法は、タイマーを追加する場合と同じです。<u>「12.1 タイマーの追加」(P.228)</u>を 参照してください。

12.[属性に関する条件]エリアで、タイマーの対象とする属性の条件を設定します。

参照 対象とする属性の条件の設定方法は、タイマーを追加する場合と同じです。<u>12.1 タイマーの追加</u> (P.228) を参照してください。

13.[イベント成立日時に関する条件]エリアで、イベントが成立する日時を設定します。

参照 イベントが成立する日時の設定方法は、タイマーを追加する場合と同じです。<u>12.1 タイマーの追加</u> (P.228)を参照してください。

14.[イベント発行タイミング] タブをクリックします。

[タイマーの編集]画面- [イベント発行タイミング] タブのページが表示されます。

15.タイマーの発行タイミングを設定します。

参照 対象とする属性の条件の設定方法は、タイマーを追加する場合と同じです。<u>「12.1 タイマーの追加」</u> (P.228)_を参照してください。

16.[OK] をクリックします。

編集内容が登録され、[タイマーの設定]画面に戻ります。

12.3 タイマーの削除

タイマーを削除する手順を説明します。

- 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- 2. キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [タイマーの設定] を選択します。 [タイマーの設定] 画面が表示されます。
- 4. 削除するタイマーを、一覧から選択します。
 補足 削除できるタイマーは、状態が「停止」のタイマーだけです。
- 5. [削除] をクリックします。 タイマー削除の確認画面が表示されます。
- **6.** [はい] をクリックします。 タイマーが削除され、[タイマーの設定] 画面に戻ります。

12.4 実行情報の確認

- タイマーの実行情報を確認する手順を説明します。
 - 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
 - [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
 - キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
 - **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [タイマーの設定] を選択します。 [タイマーの設定] 画面が表示されます。
 - 4.実行情報を確認するタイマーを、一覧から選択します。
 - 5. [実行情報] をクリックします。 [イベント実行情報] 画面が表示されます。

6. 次の情報を確認します。

- ・名前
 タイマーの名前が表示されます。
- ・タイマー状態
 タイマーの状態が表示されます。
- ・対象イベント成立日時 タイマーイベント成立日時が表示されます。
- ・イベント発行開始日時
 最初にタイマーイベントを発行した日時が表示されます。
- ・イベント発行再開日時 最近のタイマーイベント状態が「イベント発行中」になってから、最初にタイマーイベントを発行した日時が表示されます。
 一度も中断されていない場合は、タイマーイベント発行開始日時と同じになります。
- ・全イベント数 発行対象となったすべてのタイマーイベント数が表示されます。
- ・成功イベント数
 発行対象となったすべてのタイマーイベントのうち、イベント発行に成功しているイベントの数を表示します。
- ・リトライイベント数
 発行対象となったすべてのタイマーイベントのうち、リトライ中のタイマーイベントの数を表示します。
- ・失敗イベント数
 発行対象となったすべてのタイマーイベントのうち、スキップリストにエントリーしたタイマーイベントの数を表示します。
 リトライキューにあるタイマーイベントの数は含みません。

7. [OK] をクリックします。

[タイマーの設定] 画面に戻ります。

12.5 設定情報の確認

- タイマーの設定情報を確認する手順を説明します。
 - 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
 - [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
 - キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
 - **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [タイマーの設定] を選択します。 [タイマーの設定] 画面が表示されます。
 - 4. 設定情報を確認するタイマーを、一覧から選択します。
 - **5.** [設定情報] をクリックします。 [タイマーの表示] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
 - 6. 次の情報を確認します。
 - 「名前]
 タイマーの名前が表示されます。
 - [ID]
 タイマーの ID が表示されます。
 「説明]
 - タイマーの説明が表示されます。
 - ・[イベント付加情報] タイマーにタイマー固有の情報を付加するための情報が表示されます。
 - ・[タイマー状態] タイマーの状態が表示されます。「停止」、「スケジュール待ち」、「スケジュール中」、「イベント発行待 ち」、「再開待ち」、「イベント発行中」、「正常終了」、または「異常終了」と表示されます。
 - ・[実行ユーザー] タイマーを実行するユーザー名が表示されます。
 - ・[エラー通知] エラー通知の設定を表示します。
 - 7. [対象オブジェクト条件(基本)] タブをクリックします。

[タイマーの表示]画面- [対象オブジェクト条件(基本)] タブのページが表示されます。

タイマーの表示	×
全般 対象オブジェクト条件(基本) 対象オブジェクト条件(詳細) イベント発行タイミング	
┌対象範囲	
● キャビネット全体	
Cםא - כםא -	
○ごみ箱	
۲×1×1	

図:[タイマーの表示]画面- [対象オブジェクト条件(基本)] タブのページ

8. 次の情報を確認します。

- ・[対象範囲] エリア
 タイマーの対象範囲がラジオボタンで表示されます。
- 「オブジェクトタイプ」エリア
 タイマーの対象オブジェクトタイプが表示されます。
- 9. [対象オブジェクト条件(詳細)] タブをクリックします。

[タイマーの表示]画面- [対象オブジェクト条件(詳細)] タブのページが表示されます。

タイマーの表示 全般 対象オブジェクト条件 「状態に関する条件 「固定 「廃棄 編集可能	‡(基本) 対象オブジェクト条件	(詳細)」イベンド発行タイミング	×
「属性に関する条件――			
属性名	演算子	属性值	
	\$\$/4		
		40 → □ n±	*-
承認日	開始日時	補正なし	3010

図:[タイマーの表示]画面- [対象オブジェクト条件(詳細)] タブのページ

10.次の情報を確認します。

- ・[状態に関する条件] エリア タイマーの対象オブジェクトの状態が表示されます。
- ・[属性に関する条件] エリア タイマーの対象とする属性の条件が表示されます。
- ・[イベント成立日時に関する条件] エリア イベントが成立する日時が表示されます。

11.[イベント成立日時に関する条件]エリアの条件内容を選択し、[表示]をクリックします。

[イベント成立日時に関する条件] 画面が表示されます。

イベント成立	こ日時に関す	る条件	Х
基準日間	時属性: 3		
☑開始	日時を設定		
補正	期間:	なし	
	日時:	なし	
	境界値:	開始日時を含める	
☑ 終了	日時を設定		
補正	期間:	なし	
	日時:	なし	
	境界値:	終了日時を含めない	
		0	K

図:[イベント成立日時に関する条件] 画面

- 12.[イベント成立日時に関する条件] エリアで選択した条件内容の詳細を確認します。
- **13.**[OK] をクリックします。

[イベント成立日時に関する条件] 画面が閉じます。

- **14.**[イベント発行タイミング] タブをクリックします。 [タイマーの表示] 画面 – [イベント発行タイミング] タブのページが表示されます。
- 15.次の情報を確認します。

・イベント発行タイミング

16.[OK] をクリックします。

[タイマーの設定] 画面に戻ります。

12.6 状態の変更

タイマーの状態を変更する手順を説明します。

- 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [タイマーの設定] を選択します。 [タイマーの設定] 画面が表示されます。
- 4. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ タイマーを開始する

- (1) 開始するタイマーを、一覧から選択します。
 - 補足 [開始] は、次の場合に無効です。
 - ・タイマー状態が「停止」以外の場合
 - ・タイマーイベント発行タイミングの条件で、すでに過去である日時を設定している場合
- (2) [開始] をクリックします。[タイマーの開始] 画面が表示されます。
- **(3)** [はい] をクリックします。 タイマーが開始されます。

◆ タイマーを取り消す

- (1) 取り消すタイマーを、一覧から選択します。 取り消せるタイマーは、タイマーの状態が「スケジュール中」、「イベント発行待ち」、「再開待ち」、「イ ベント発行中」のタイマーだけです。
- (2) [取消し] をクリックします。 [タイマーの取消し] 画面が表示されます。
- (3) [はい] をクリックします。 タイマーが取り消されます。

◆ タイマーをリセットする

- (1) リセットするタイマーを、一覧から選択します。 リセットできるタイマーは、タイマーの状態が「正常終了」、「異常終了」、「スケジュール待ち」のタイ マーだけです。
- (2) [リセット] をクリックします。 [タイマーのリセット] 画面が表示されます。
- (3) リセットと同時にスキップリスト内のイベントもクリアする場合は、[スキップ登録リスト内のイベント もクリアする。] にチェックマークを付けます。
- (4) [はい] をクリックします。 タイマーがリセットされます。

◆ タイマーを一時停止する

(1) 一時停止するタイマーを、一覧から選択します。 一時停止できるタイマーは、タイマーの状態が「イベント発行中」のタイマーだけです。

- (2) [一時停止] をクリックします。 [タイマーの一時停止] 画面が表示されます。
- (3) [はい] をクリックします。 タイマーが一時停止します。

◆ タイマーを再開する

- (1) 再開するタイマーを、一覧から選択します。 再開できるタイマーは、タイマーの状態が「再開待ち」のタイマーだけです。
- (2) [再開] をクリックします。[タイマーの再開] 画面が表示されます。
- **(3)** [はい] をクリックします。 タイマーが再開します。

12.7 スキップリストのクリア

スキップリストをクリアする手順を説明します。

- 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [タイマーの設定] を選択します。 [タイマーの設定] 画面が表示されます。

-									
	タイマーの設定								×
I	操作对象:	DEF	AULT_CAB						
l	タイマー一覧:								
I	名前		次回のイベント成立	前回のイベント発行…	タイマー状態	総イベント数	スキップ登録数	再表示	開始
I	接続タイマー				停止		0	9 実行情報	取消し
I								設定情報	リセット
I								新規追加	一時停止
l								コピー追加	再開
l								編集	
l								育川移余	
								エラー管理	
I									OK

図:[タイマーの設定] 画面

4. スキップリストをクリアするタイマーを、一覧から選択します。

補足スキップリストをクリアできるのは、タイマーの状態が「停止」のタイマーだけです。

5. [エラー管理] をクリックします。

[エラー管理] 画面が表示されます。

補足 スキップ登録数が0件の場合、[エラー管理]は無効になります。

6. [はい] をクリックします。

スキップリスト内のタイマーイベントがすべてクリアされます。

13 イベントトリガーの設定

イベントトリガーの設定を行う手順を説明します。

13.1 外部コマンド定義の設定

外部コマンド定義の設定について説明します。

13.1.1 情報を確認する

外部コマンド定義の情報を確認する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [外部コマンド定義] > [表示] を選択します。 [外部コマンド定義の表示] (一覧) 画面が表示されます。
- 3. [外部コマンド定義の表示] (一覧) 画面に表示されている外部コマンド定義のうち、1 つを選択します。
- **4.** [詳細] をクリックします。 [外部コマンド定義の表示] (詳細) 画面が表示されます。
- 5. 外部コマンド定義情報を確認します。

13.1.2 外部コマンド定義を追加する

外部コマンド定義を追加する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- メニューバーの [サービス操作] > [外部コマンド定義] > [追加] を選択します。
 [外部コマンド定義の追加] (一覧) 画面が表示されます。
- 3. [追加] をクリックします。

[外部コマンド定義の追加]	(個別)	画面が表示されます。
外部コマンド定義の追加		×
名前:		
ID:		
説明:		
実行ファイル:		
- 弓 数の説明 - 個数: 0 〜 設定		
		OK キャンセル

- 4. [名前] に外部コマンド定義の名前を 384 バイト以内で入力します。
- 5. [ID] に外部コマンド定義の ID を 64 バイト以内で入力します。英字で始まる文字列で、英数字および 「_ (アンダースコア)」が使用できます。
- 6. [説明] に外部コマンド定義の説明を 2,048 バイト以内で入力します。
- 7. [実行ファイル] に、外部コマンド定義の実行ファイルの名前を 256 バイト以内で入力します。
- 8. [引数の説明] エリアの [個数] プルダウンメニューから、引数の個数を 1 ~ 10 の範囲で選択します。

図:[外部コマンド定義の追加] (個別) 画面

9. [設定] をクリックします。

[引数の説明	月の設定]	画面が表示されます。	
引数の説明の設定			×
第161数: 第261数:			
		ОК	キャンセル

図:[引数の説明の設定] 画面

- 10.[引数] に引数の説明を入力します。
- **11.**[OK] をクリックします。

[外部コマンド定義の追加](個別)画面が表示されます。

12.[OK] をクリックします。

外部コマンド定義が追加されます。

13.1.3 外部コマンド定義を変更する

外部コマンド定義を変更する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [外部コマンド定義] > [変更] を選択します。 [外部コマンド定義の変更] (一覧) 画面が表示されます。
- 3. [外部コマンド定義の一覧] エリアから、対象となる外部コマンド定義を選択して、[変更] をクリックします。

L外部コマンド定義の変更」	(個別)	画面が表示され	ます。
---------------	------	---------	-----

外部コマンド定義の変更	×
名前:	操作ブロック
ID:	SimpleBlocking
i兑8月:	事前アクションをブロックする。
実行ファイル:	block.exe
「弓 数の 説 印 月 個数: 2	~ 設定
	OK キャンセル

図:[外部コマンド定義の変更](個別)画面

- 4. 外部コマンド定義情報を必要に応じて変更します。
- **5.** 変更内容を確認してから、[OK] をクリックします。 外部コマンド定義が変更されます。

13.1.4 外部コマンド定義を削除する

外部コマンド定義を削除する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
- **2.** メニューバーの [サービス操作] > [外部コマンド定義] > [削除] を選択します。 [外部コマンド定義の削除] (一覧) 画面が表示されます。
- 3. 削除対象となる外部コマンド定義の [チェック] に、チェックマークを付けます。
- **4.** [OK] をクリックします。 [外部コマンド定義の削除](確認)画面が表示されます。
- 5. 削除する外部コマンド定義を確認したら、[はい]をクリックします。 [外部コマンド定義の削除](結果)画面が表示されます。
- **6.** 不要なフォルダーを確認したら、[OK] をクリックします。 外部コマンド定義が削除されます。

13.2 イベントトリガー定義の設定

イベントトリガー定義の設定について説明します。

13.2.1 イベントトリガー定義を確認する

イベントトリガー定義を確認する手順を説明します。

- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [イベントトリガー定義] > [表示] を選択します。 [イベントトリガー定義の表示] (一覧) 画面が表示されます。
- 4. [イベントトリガー定義の表示] (一覧) 画面に表示されているスケジュールのうち、1 つを選択します。
- **5.** [詳細] をクリックします。 [イベントトリガー定義の表示](個別)画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- **6.** [イベントトリガー定義の表示](個別)画面で、次に示すイベントトリガー定義情報を確認します。 ・イベントトリガー定義の名前、ID、定義の説明、イベントフィルターを評価するタイミング
 - ・イベントトリガー定義の対象となるイベント
 - ・イベントトリガー定義のイベントフィルター
 - ・イベントトリガー定義のトリガーアクション

13.2.2 イベントトリガー定義を追加する

イベントトリガー定義を追加する手順を説明します。

なお、イベントトリガー定義の追加後は、イベントトリガー定義のリロードが必要です。

注記 イベントトリガー定義を追加したあとは、必ずイベントトリガー定義をリロードしてください。追加したイ ベントトリガー定義が反映されません。

補足 ·操作できるのは、キャビネットラベルが "標準キャビネット(public)"、または "標準キャビネット (EDMICS2000 移行済)(dmsPublic)"の場合だけです。

・イベントトリガー定義は、1 つのキャビネットに 20 個まで追加できます。

- 参照 イベントトリガー定義のリロードについては、「13.2.6 イベントトリガー定義をリロードする」(P.289)を 参照してください。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [イベントトリガー定義] > [追加] を選択します。 [イベントトリガー定義の追加] (一覧) 画面が表示されます。

補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット(public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済)(dmsPublic)"の場合だけです。

4. [新しく追加するイベントトリガー定義] エリアにある [追加] をクリックします。 [イベントトリガー定義の追加方法の選択] 画面が表示されます。

(ベントトリガー定義の追加方法	の選択 ×
イベントリガー定義の追加方法	を選択してください。
「追加方法	
● 靳規追加	
○ コピーして追加	
	OK キャンセル

図:[イベントトリガー定義の追加方法の選択] 画面

5. イベントトリガー定義を新規に追加する場合、または既存のイベントトリガー定義をコピーして追加する場合に応じて、次のどちらかの手順を行います。

◆ イベントトリガー定義を新規に追加する場合

- (1) [新規追加] を選択します。
- (2) [OK] をクリックします。

[イベントトリガー定義の追加] (個別) 画面- [全般] タブのページが表示されます。

(3) 手順 6 に進みます。

◆ 既存のイベントトリガー定義をコピーして追加する場合

- (1) [コピーして追加]を選択します。
- (2) [OK] をクリックします。 [コピー元イベントトリガー定義の選択] 画面が表示されます。
- (3) [キャビネット ID] プルダウンメニューで、コピー元になるキャビネット ID を選択します。 画面下部に表示されている一覧に、選択したイベントトリガー定義の情報が表示されます。
- (4) イベントトリガー定義情報を確認する場合は、[詳細]をクリックします。 [イベントトリガー定義の表示](個別)画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- (5) [OK] をクリックします。

[イベントトリガー定義の追加](個別)画面- [全般] タブのページが表示されます。

- 注記 · 選択したイベントトリガー定義に、登録先のキャビネットで定義されていないオブジェクトタイプが 含まれる場合は、エラーになります。
 - ・選択したイベントトリガー定義に、登録先のキャビネットで定義されていないユーザー属性、状態、 コンテントラベル、オブジェクトタイプおよびアトムが含まれる場合は、イベントトリガー定義の追 加確認画面が表示されます。追加確認画面の[はい]をクリックすると、定義されていないユーザー 属性、状態、コンテントラベル、オブジェクトタイプおよびアトムが削除された状態で、イベントト リガー定義をコピーします。
- (6) 手順 <u>6</u>に進みます。
- 6. イベントトリガーに使用するテンプレートを、[テンプレート] プルダウンメニューから選択します。
- 7. [名前] にイベントトリガー定義の名前を 384 バイト以内で入力します。
- 8. [ID] にイベントトリガー定義の ID を 64 バイト以内で入力します。英字で始まる文字列で、英数字、 「_ (アンダースコア)」の文字で入力します。
- 9. [説明] にイベントトリガー定義の説明を 2,048 バイト以内で入力します。
- **10.**[フィルター評価タイミング] プルダウンメニューから、[事前] または [事後] を選択します。
- 11.[対象イベント] タブをクリックします。

[イベントトリガー定義の追加] (個別)画面-[対象イベント]タブのページが表示されます。

12.[イベント種別] エリアで、対象イベントの種別をラジオボタンで選択します。

- ◆ [一般操作イベント] を選択した場合
- (1) [対象操作] プルダウンメニューから、イベントトリガー定義の対象イベントを選択します。
- ◆ [タイマーイベント] を選択した場合
- (1) 手順 14 に進みます。
- 13.[関連性] プルダウンメニューで、[対象操作] と関連付けられているオブジェクトの種類を選択します。

14.[オブジェクトタイプ] エリアの [設定] をクリックします。

[対象オブジェクトタイプの設定] 画面が表示されます。

対象オブジェクトタイプの設定	×
候補 オブジェクトカテゴリー: すべて選択 マ オブジェクトタイプ: フォルダ ドキュメント リファレンス ハーードリファレンス ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	選択済 オブジェクトタイプ: 肖印奈
	OK キャンセル

図:[対象オブジェクトタイプの設定] 画面

- 15. [対象操作] と [関連性] に関連付けられているオブジェクトタイプを選択します。
- **16.**[OK] をクリックします。

[イベントトリガー定義の追加](個別)画面- [対象イベント] タブのページの [オブジェクトタイプ] に対象オブジェクトタイプが表示されます。

17.[クラス] エリアの [設定] をクリックします。

[対象クラスの設定画面](個別)画面が表示されます。

対象クラスの設定画面	×
候補 ネームスペース: 「すべて選択 ~ クラス: クラスなし	選択済 クラス: ドロネ ドロネ ドロネ 「日本 「日本 「「「」」 「 「」 「」 「 「」 「」 「 「」 「」 「」 「 「」 「」 「 「 「」 「」 「 「 「 「」 「

図:[対象クラスの設定画面] (個別) 画面

18.イベントの対象としたいクラスを選択します。

19.[OK] をクリックします。

[イベントトリガー定義の追加](個別)画面- [対象イベント] タブのページの [クラス] に対象クラ スが表示されます。

20.[イベントフィルター 1] タブをクリックします。

[イベントトリガー定義の追加](個別)画面- [イベントフィルター1] タブのページが表示されます。

21.次の条件について設定します。

- ・状態に関する条件
- ・属性に関する条件
- ・イベント受理日時に関する条件
- 22.[状態に関する条件] エリアの [設定] をクリックします。

[クラスに応じた状態を選択] 画面が表示されます。

クラスに応じた状態を選択		×
候補 カラス: <u> </u> <u> </u> <i> 「大態</i> : 固定 廃棄 編集可能	選択済 <u>状態:</u>	前時ま

図:[クラスに応じた状態を選択] 画面

- 23.対象となるオブジェクトの状態を選択します。
- **24.**[OK] をクリックします。

[イベントトリガー定義の追加](個別)画面- [イベントフィルター 1] タブのページの [状態に関する条件] に状態の条件が表示されます。

25. [属性に関する条件] エリアの [追加] をクリックします。

[属性に関する条件の設定] 画面が表示されます。

属性に関する条件の設定		×
属性種別:	● 保持属性 ○ 適用属性	
属性名:	選択してください	~
演算子:	選択してください	\sim
属性值:		設定
		OK キャンセル

図:[属性に関する条件の設定] 画面

26.次の項目を設定します。

- ・属性種別
- ・属性名
- ・条件の演算子と属性値
- **27.**[OK] をクリックします。

[属性に関する条件] エリアに条件が追加されます。

28.[イベント受理日時に関する条件] エリアの[追加] をクリックします。 [イベント受理日時に関する条件] 画面が表示されます。

29.次の項目を設定します。

- ・基準日時属性
- ・開始日時
- ・終了日時

30.[OK] をクリックします。

31.[イベントフィルター 2] タブをクリックします。

[イベントトリガー定義の追加](個別)画面- [イベントフィルター 2] タブのページが表示されます。

32.次の条件について設定します。

- ・操作者に関する条件
- ・呼び出し元アプリケーション種別に関する条件
- ・操作情報に関する条件

33.[操作者に関する条件] エリアの [追加] をクリックします。 [操作者に関する条件の設定] 画面が表示されます。

34.次の項目を設定します。

- ・操作者のロール
- ・条件の演算子
- **35.**[OK] をクリックします。

[操作者に関する条件] エリアに条件が追加されます。

36.[呼び出し元アプリケーション種別に関する条件] エリアの [設定] をクリックします。

[呼び出し元アプリケーション種別の選択] 画面が表示されます。

呼び出し元アプリケーション種別の選択		×
使補 呼び出し元アブリケーション種別: ドキュメントガジリーコネクター Webサービスインターフェース ドキュメント管理サービスJavaAPI(API版) ドキュメント管理サービスJavaAPI(API版) ドキュメント管理サービスJFTK(オブジェクト操作EI ドキュメント管理サービスIFTK(一括登録コマント ドキュメント管理サービスIFTK(一括登録コマント ドキュメントマーユ ワークフロー データ共有モジュール <	選択済 呼び出し元アプリケーション種別: ←	+v>tul

図:[呼び出し元アプリケーション種別の選択] 画面

37.呼び出し元アプリケーション種別を選択します。

38.[OK] をクリックします。

[イベントトリガー定義の追加](個別)画面- [イベントフィルター 2] タブのページの [呼び出し元 アプリケーション種別] に呼び出し元アプリケーション種別が表示されます。

39.[操作情報に関する条件]エリアの [追加]をクリックします。

[操作情報に関する条件の設定] 画面が表示されます。

操作情報に関する象	条件の設定 ×
パラメーター:	違択してください
演算子:	違択してください、
値:	設定
	OK キャンセル

図:[操作情報に関する条件の設定] 画面

40.次の項目を設定します。

- ・パラメーター
- ・演算子
- ・値
41.[OK] をクリックします。

[操作情報に関する条件の設定] エリアに条件が追加されます。

- 42.[トリガーアクション] タブをクリックします。
 - [イベントトリガー定義の追加](個別)画面- [トリガーアクション] タブのページが表示されます。 補足 [イベントトリガー定義の追加](個別)画面- [トリガーアクション] タブのページは、選択したテ ンプレートおよびフィルター評価タイミングの種類によって表示される項目が異なります。

43.次のアクションについて設定します。

- ・トリガーアクションの事前アクション
- ・トリガーアクションの事後(成功時)アクション
- ・トリガーアクションの事後(失敗時)アクション
 - 補足・操作ブロックテンプレートまたは組み込み操作テンプレートを選択した場合、トリガーアクションの 事後(成功時)アクションおよびトリガーアクションの事後(失敗時)アクションは表示されません。
 - ・メール通知テンプレートを選択した場合、または外部コマンド起動テンプレートを選択し、フィルター評価タイミングで事後を選択した場合はトリガーアクションの事前アクションは表示されません。
- 44.アクションプルダウンメニューから、アクションの種類を選択します。

45.アクションプルダウンメニューの右にある [設定] をクリックします。

アクションを設定する画面が表示されます。

アクションを設定する画面は、選択したアクションの種類によって次の画面が表示されます。

◆ [操作ブロック] を選択した場合

[操作ブロック]を選択した場合は [操作ブロックの設定] 画面が表示されます。

・イベンド 情報参照引 機	Į	
引数番号	引数の内容	追加
		変更
		削除
言語別エラーメッセー	J	
☑日本語		
(デフォルト)		
□ 英語		

図:[操作ブロックの設定] 画面

- (1) 次の項目を設定します。
 - ・イベント情報参照引数
 - ・言語別エラーメッセージ
- (2) [OK] をクリックします。

アクション内容が設定されます。

◆ [メール通知] を選択した場合

[メール通知]を選択した場合では、[メール通知の設定]画面- [全般] タブのページが表示されます。

メール通知の設定		×
全般 メッセージ		
配信方式:	ダイジェスト	~
差出人メールアドレス:		
宛先		
指定方法	値	追加
		肖·耶余
制限		
最大宛先ユーザー数:	100	
同一宛先への最大配信	: 数:	
最大配信数を	越えた場合、宛先に別途通知	142
エラー通知先ユーザー:	RMS管理者	
	🗌 エラー通知先ユーザーを	自分にする。
		OK キャンセル

図:[メール通知の設定] 画面- [全般] タブのページ

(1)次の項目を設定します。

- ・配信方式
- ・差出人メールアドレス
- ・宛先
- ・制限
- ・エラー通知先ユーザー
- (2) [メッセージ] タブをクリックします。

[メール通知の設定]画面- [メッセージ] タブのページが表示されます。

(3)次の項目を設定します。

- ・メールテンプレート
- ・イベント情報参照引数
- ・言語別メッセージ
- (4) [OK] をクリックします。

アクション内容が設定されます。

◆ 「削除」を選択した場合は [削除の設定] 画面が表示されます。 ■除の設定 ▼ジョンモード: ●管理者王二ド ●通常モード セッジョンオーナー: PMS管理者 ●セッジョンオーナーを自分にする。 ハードリファレンス削除モード: ● ハードリファレンスがある場合、ハードリファレンスも削除する ● ハードリファレンスがある場合、エラーにする

図:[削除の設定] 画面

(1) 次の項目を設定します。

- ・セッションモード
- ・セッションオーナー
- ・ハードリファレンス削除モード
- (2) [OK] をクリックします。

アクション内容が設定されます。

◆ [移動] を選択した場合

[移動]を選択した場合は [移動の設定] 画面が表示されます。

移動の設定	×
セッションモード:	● 管理者王ド
	○ 通常モード
セッションオーナー:	RMS管理者
	- セッションオーナーを自分にする。
移動先ドロワー:	~
	OK キャンセル

図:[移動の設定] 画面

- (1)次の項目を設定します。
 - ・セッションモード
 - ・セッションオーナー
 - ・移動先ドロワー
- (2) [OK] をクリックします。

アクション内容が設定されます。

◆ [状態変更] を選択した場合

[状態変更]を選択した場合は [状態変更の設定] 画面が表示されます。

状態変更の設定	×
セッションモード:	● 管理者モード
	○ 通常モード
セッションオーナー:	RMS管理者
	- セッションオーナーを自分にする。
変更後の状態:	~
	OK キャンセル

図:[状態変更の設定] 画面

- (1)次の項目を設定します。
 - ・セッションモード
 - ・セッションオーナー
 - ・変更後の状態
- (2) [OK] をクリックします。

アクション内容が設定されます。

◆ [外部コマンド] を選択した場合

[外部コマンド]を選択した場合は [外部コマンドの設定] 画面が表示されます。

外部コマンドの設定		×
外部コマンド:	コラボタスクメッセージ登録	『羊糸田 』
タイムアワト時間:	U 12	
第1引数:		設定
第2引数:		設定
第3引数:		設定
第4引数:		設定
第5引数:		設定
第6引数:		設定
第7引数:		設定
第8引数:		設定
	C	K キャンセル

図:[外部コマンドの設定] 画面

(1) 次の項目を設定します。

- ・外部コマンド
- ・タイムアウト時間
- ・引数
- (2) [OK] をクリックします。

アクション内容が設定されます。

46.アクションプルダウンメニューが複数表示されている場合は、同じように設定します。

47.[OK] をクリックします。

イベントトリガー定義が追加されます。

注記 イベントトリガーは、同時実行数が制御されます。
 最大同時実行数を越えた場合、実行中のイベントトリガーが終了するまで待機します。
 ただし、待機時間が1時間を超えた場合、イベントトリガーの実行はタイムアウトのエラーになります。
 最大同時実行数は、トリガーアクションの種類によって異なります。
 ・操作ブロック用トリガーアクション: 無制限
 ・メール通知用トリガーアクション: リポジトリーサーバーの最大セッション数の2割の値
 ・ 州部コマンド起動用トリガーアクション: 30
 最大同時実行数が制御されるタイミングは、イベントフィルターの評価のあとになるため、イベントフィルターの評価の結果、実行されないイベントトリガーが、最大同時実行数の制御によって待機することはありません。
 参照 最大セッション数の設定については「14.2.1 最大セッション数を設定する」(P.267) を参照してください。

13.2.3 イベントトリガー定義を変更する

イベントトリガー定義を変更する手順を説明します。 なお、イベントトリガー定義の変更後は、イベントトリガー定義のリロードが必要です。

- 注記 イベントトリガー定義を変更した後は、必ずイベントトリガー定義をリロードしてください。変更したイベ ントトリガー定義が反映されません。
- 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
- 参照 イベントトリガー定義のリロードについては、「13.2.6 イベントトリガー定義をリロードする」(P.289)を 参照してください。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [イベントトリガー定義] > [変更] を選択します。 [イベントトリガー定義の変更] (一覧) 画面が表示されます。
- **4.** [イベントトリガー定義の変更](一覧)画面の [イベントトリガー定義の一覧]から、設定を変更する イベントトリガー定義を選択します。
- **5.** [変更] をクリックします。 [イベントトリガー定義の変更] (個別) 画面 – [全般] タブのページが表示されます。
- 6. イベントトリガー定義を変更します。

参照 手順の詳細については、「13.2.2 イベントトリガー定義を追加する」(P.248)を参照してください。

13.2.4 イベントトリガー定義の順序を変更する

イベントトリガー定義の順序を変更する手順を説明します。

- 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [イベントトリガー定義] > [定義順の変更] を選択します。 [イベントトリガー定義の定義順の変更] 画面が表示されます。

1	ベントトリガー定義の定	■義順の変更			×
	2	7 2			
	イベントドリガー定義の	一覧:			
	名前	ID	テンプレート	說明	上へ
	固定時メール通知	fixed_status_mail	メール通知	状態が固定にされ	τa
	操作ブロック	bleck	操作ブロック	ロックされているオ	157
				OK	キャンセル

図:[イベントトリガー定義の定義順の変更] 画面

補足 [イベントトリガー定義の定義順の変更] 画面の [イベントトリガー定義の一覧] の順序が、イベント トリガー定義の実行順序になります。

◆ イベントトリガー定義の順序を1つ上げる場合

- (1) [イベントトリガー定義の一覧] で、順序を変更するイベントトリガー定義をクリックして選択します。
- (2) [上へ] をクリックします。 手順1で選択したイベントトリガー定義の順序が1つ上がります。

◆ 属性値の順序を1つ下げる場合

- (1) [イベントトリガー定義の一覧] で、順序を変更するイベントトリガー定義をクリックして選択します。
- (2) [下へ] をクリックします。 手順<u>1</u>で選択したイベントトリガー定義の順序が1つ下がります。

13.2.5 イベントトリガー定義を削除する

イベントトリガー定義を削除する手順を説明します。

- 補足 操作できるのは、キャビネットラベルが"標準キャビネット (public)"、または"標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic)"の場合だけです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [イベントトリガー定義] > [削除] を選択します。 [イベントトリガー定義の削除] (一覧) 画面が表示されます。

1	ベントトリガー定義の	削除			>	<
	イベントヤリガー定義。	៣一覧:				
	チェック	名前	ID	テンプレート	i.光印月	
		固定時メール通…	fixed_status_mail	メール通知	状態が固定にさ	
		操作ブロック	bleck	操作ブロック	ロックされているオ	
					OK キャンセル	

図:[イベントトリガー定義の削除](一覧)画面

- 4. 削除対象となるイベントトリガー定義の [チェック] に、チェックマークを付けます。
- **5.** [OK] をクリックします。 [イベントトリガー定義の削除](確認)画面が表示されます。
- **6.** [はい] をクリックします。 イベントトリガー定義が削除されます。

13.2.6 イベントトリガー定義をリロードする

イベントトリガー定義をリロードする手順を説明します。

- 補足
 ・キャビネットがメンテナンスモードの場合、イベントトリガー定義をリロードできます。
 ・操作できるのは、キャビネットラベルが " 標準キャビネット (public) "、または " 標準キャビネット (EDMICS2000 移行済) (dmsPublic) "の場合だけです。
- [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション]の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツ リー表示] エリアから [サービス] を選択します。
 キャビネットの一覧が表示されます。
- キャビネット一覧が表示された状態で、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。
- **3.** メニューバーの [キャビネット操作] > [イベントトリガー定義] > [リロード] を選択します。 [イベントトリガー定義のリロード] 画面が表示されます。
- **4.** [はい] をクリックします。 イベントトリガー定義がリロードされます。

14サーバーの設定

管理アプリケーション デスクトップ版を使用して、ドキュメント管理サービスが利用するサーバーの設定を行う手順を説明します。

14.1 サーバーの停止と終了

サーバーの停止と終了について説明します。

14.1.1 サーバーを一時停止する

サーバーを一時停止する手順を説明します。

一時停止できる管理サーバーは、アクティブ管理サーバーだけです。

補足
サーバーが、稼働状態のときに実行できます。サービスの管理者だけ実行できます。

◆ 管理サーバーを一時停止する場合

- [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面- [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。
 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーから管理サーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示される管理サーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの [管理サーバー操作] > [起動状態の変更] > [一時停止] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
- 5. [はい] をクリックします。 管理サーバーが一時停止し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 – [サーバー] タブのページ に戻ります。

◆ リポジトリーサーバーを一時停止する場合

- [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。
 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーからリポジトリーサーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示されるリポジトリーサーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの [リポジトリーサーバー操作] > [起動状態の変更] > [一時停止] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
- 5. [はい] をクリックします。 リポジトリーサーバーが一時停止し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面- [サーバー] タブ のページに戻ります。

14.1.2 サーバーの一時停止を解除する

サーバーの一時停止を解除する手順を説明します。

一時停止解除できる管理サーバーは、アクティブ管理サーバーだけです。

補足
サーバー状態が、一時停止状態のときに実行できます。サービスの管理者だけ実行できます。

◆ 管理サーバーの一時停止を解除する場合

- [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。
 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーから管理サーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示される管理サーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの[管理サーバー操作] > [起動状態の変更] > [一時停止解除] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
- 5. [はい] をクリックします。 管理サーバーの一時停止が解除し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 – [サーバー] タブの ページに戻ります。
- ◆ リポジトリーサーバーの一時停止を解除する場合
 - **1.** [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。 サーバー種別一覧が表示されます。
 - 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーからリポジトリーサーバーを選択します。
 - 3. 右側のテーブルに表示されるリポジトリーサーバーを選択します。
 - **4.** メニューバーの [リポジトリーサーバー操作] > [起動状態の変更] > [一時停止解除] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
 - 5. [はい] をクリックします。 リポジトリーサーバーの一時停止が解除し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 – [サー バー] タブのページに戻ります。

14.1.3 サーバーを強制一時停止する

サーバーを強制一時停止する手順を説明します。

一時停止できる管理サーバーは、アクティブ管理サーバーだけです。

補足
サーバーが、稼働状態のときに実行できます。サービスの管理者だけ実行できます。

◆ 管理サーバーを強制一時停止する場合

- [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。
 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーから管理サーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示される管理サーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの[管理サーバー操作] > [起動状態の変更] > [強制一時停止] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
- 5. [はい] をクリックします。 管理サーバーが一時停止し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 – [サーバー] タブのページ に戻ります。
- ◆ リポジトリーサーバーを強制一時停止する場合
 - **1.** [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。 サーバー種別一覧が表示されます。
 - 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーからリポジトリーサーバーを選択します。
 - 3. 右側のテーブルに表示されるリポジトリーサーバーを選択します。
 - **4.** メニューバーの [リポジトリーサーバー操作] > [起動状態の変更] > [強制一時停止] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
 - 5. [はい] をクリックします。 リポジトリーサーバーが強制一時停止し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面- [サーバー] タブのページに戻ります。

14.1.4 サーバーを終了する

サーバーを終了する手順を説明します。

◆ 管理サーバーを終了する場合

- [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。
 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーから管理サーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示される管理サーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの[管理サーバー操作] > [起動状態の変更] > [終了] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
- 5. [はい] をクリックします。 管理サーバーが終了し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面- [サーバー] タブのページに戻 ります。
- ◆ リポジトリーサーバーを終了する場合
 - **1.** [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。 サーバー種別一覧が表示されます。
 - 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーからリポジトリーサーバーを選択します。
 - 3. 右側のテーブルに表示されるリポジトリーサーバーを選択します。
 - **4.** メニューバーの [リポジトリーサーバー操作] > [起動状態の変更] > [終了] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
 - 5. [はい] をクリックします。 リポジトリーサーバーが終了し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面- [サーバー] タブの ページに戻ります。
 - 注記 管理サーバーが異常終了状態になったあとに管理ツールを起動した場合、メニューから [起動状態の変更] を選択できません。異常終了状態では、管理者などのサービス情報の取得がエラーになり、サービス管理者 の権限のあるユーザーとしては認証されないためです。 この場合は、管理ツールからサーバーを終了できません。『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』に記載 されたサービスの停止方法を参照して、サービスを終了してください。

補足 サーバー状態が、稼動状態、一時停止状態、異常終了状態のときに実行できます。サービスの管理者だけ実行できます。

14.1.5 サーバーを強制終了する

- サーバーを強制終了する手順を説明します。
 - 補 足 サーバーが、稼働状態、一時停止状態、異常終了状態のどれかであるときに実行できます。サービスの管理
 者だけ実行できます。
- ◆ 管理サーバーを強制終了する場合
 - [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。
 サーバー種別一覧が表示されます。
 - 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーから管理サーバーを選択します。
 - 3. 右側のテーブルに表示される管理サーバーを選択します。
 - **4.** メニューバーの[管理サーバー操作] > [起動状態の変更] > [強制終了] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
 - 5. [はい] をクリックします。 管理サーバーが強制終了し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 – [サーバー] タブのページ に戻ります。
- ◆ リポジトリーサーバーを強制終了する場合
 - [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面- [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。
 サーバー種別一覧が表示されます。
 - 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーからリポジトリーサーバーを選択します。
 - 3. 右側のテーブルに表示されるリポジトリーサーバーを選択します。
 - **4.** メニューバーの [リポジトリーサーバー操作] > [起動状態の変更] > [強制終了] を選択します。 [起動状態の変更] 画面が表示されます。
 - 5. [はい]をクリックします。 リポジトリーサーバーが強制終了し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面- [サーバー] タブのページに戻ります。
 - 注記 管理サーバーが異常終了状態になったあとに管理ツールを起動した場合、メニューから [起動状態の変更] を選択できません。異常終了状態では、管理者などのサービス情報の取得がエラーになり、サービス管理者 の権限のあるユーザーとしては認証されないためです。 この場合は、管理ツールからサーバーを終了できません。『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』に記載 されたサービスの停止方法を参照して、サービスを終了してください。

14.1.6 サーバーをアクティブにする(管理サーバー)

サーバーをアクティブにする手順を説明します。

アクティブにできるサーバーは、スタンバイ状態の管理サーバーだけです。

補足
サーバー状態が、待機状態のときに実行できます。サービスの管理者だけ実行できます。

- **1.** [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーから管理サーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示される管理サーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの[管理サーバー操作] > [アクティブ化] を選択します。 [アクティブ化] 画面が表示されます。
- 5. [はい] をクリックします。 管理サーバーがアクティブになり、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面- [サーバー] タブの ページに戻ります。

14.2 リポジトリーサーバーで必要な設定

リポジトリーサーバーで必要な設定について説明します。

14.2.1 最大セッション数を設定する

リポジトリーサーバーで最大セッション数を設定する手順を説明します。 最大セッション数を設定できるのは、サービス管理者だけです。

- **1.** [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーからリポジトリーサーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示されるリポジトリーサーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの [リポジトリーサーバー操作] > [最大セッション数の設定] を選択します。 [最大セッション数の設定] 画面が表示されます。

最大セッション数の設定	Ē	Х
 ・ ・ ・	ョン数を入力してください。 キャンセル	

図:[最大セッション数の設定] 画面

- 5. 最大セッション数を入力します。初期値は 100 です。
- **6.** [OK] をクリックします。

リポジトリーサーバーの最大セッション数が設定され、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面-[サーバー] タブのページに戻ります。

注記 · 最大セッション数の設定は、管理ツールでの設定のあと、サーバーを再起動すると有効になります。 ・リソース不足で、最大セッション数の最大数までのセッションがオープンできないことがあります。

補足 対象となるリポジトリーサーバーの [稼動状態] が [終了] と表示されている場合に、最大セッション数を 設定できます。

14.2.2 サーバーのウェイトを設定する

リポジトリーサーバーでサーバーのウェイト(重み付け)を設定する手順を説明します。 サーバーの重み付けを設定できるのは、サービス管理者だけです。 対象サーバーが終了状態である必要があります。

- **1.** [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーからリポジトリーサーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示されるリポジトリーサーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの [リポジトリーサーバー操作] > [サーバーの重み付け設定] を選択します。 [サーバーの重み付け設定] 画面が表示されます。

サーバーの	重み付け設定	×
i	サーバーの重み付けを入力してください。 5 OK キャンセル	,

図:[サーバーの重み付け設定] 画面

- 5. 選択したリポジトリーサーバーのウェイトを、1~10の範囲で入力します。
- **6.** [OK] をクリックします。

リポジトリーサーバーの重み付けが設定され、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面- [サー バー] タブのページに戻ります。

注記 [重み付け設定]の値は、定期的な内部チェックのタイミングで反映されるため、変更が反映されるまで数分 かかることがあります。

14.2.3 クラスタリングに追加/削除を設定する

リポジトリーサーバーでクラスタリングに追加または削除する手順を説明します。 クラスタリング参加を設定できるのは、サービス管理者だけです。 対象サーバーが終了状態である必要があります。

◆ クラスタリングに追加する場合

- **1.** [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーからリポジトリーサーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示されるリポジトリーサーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの [リポジトリーサーバー操作] > [クラスタリング参加設定] を選択します。 [クラスタリング参加設定] 画面が表示されます。
- 5. [OK] をクリックします。 選択したリポジトリーサーバーがクラスタリングに参加し、[ドキュメント管理サービス管理ツール] 画 面- [サーバー] タブのページに戻ります。

◆ クラスタリングから削除する場合

- **1.** [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面 [サーバー] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サーバー] を選択します。 サーバー種別一覧が表示されます。
- 2. サーバー種別一覧が表示された状態で、左側のツリーからリポジトリーサーバーを選択します。
- 3. 右側のテーブルに表示されるリポジトリーサーバーを選択します。
- **4.** メニューバーの [リポジトリーサーバー操作] > [クラスタリング参加設定] を選択します。 [クラスタリング参加設定] 画面が表示されます。
- 5. [OK] をクリックします。 選択したリポジトリーサーバーがクラスタリングから削除され、[ドキュメント管理サービス管理ツー ル] 画面 - [サーバー] タブのページに戻ります。

14.3 サーバーの起動

サーバーを起動する手順を説明します。

- **1.** ドキュメント管理サービスがインストールされているコンピューターに Administrators 権限を持つ ユーザーでサインインします。
- **2.** Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。 [サービス] 画面が表示されます。
- **3.**「ArcSuite Repository Master Admin Service」を選択します。
- 4. 右クリックで表示されるメニューから、[サービスの開始]を選択します。
- 5. 「ArcSuite Repository Service」を選択します。
- 6. 右クリックで表示されるメニューから、[サービスの開始]を選択します。

 補足・管理サーバーやリポジトリーサーバーがすでに起動されている場合、右クリックで表示されるメニューから
 「開始」は選択できません。管理サーバーやリポジトリーサーバーを正常に起動できなかった場合は、 エラーメッセージが表示されます。

・管理サーバーよりもリポジトリーサーバーを先に起動した場合、リポジトリーサーバーは一時停止状態に なります。

その後、管理サーバーを起動すると、リポジトリーサーバーの一時停止状態は自動的に解除されるため、 両方とも稼働状態になります。ただし、両方のサーバーがほぼ同時に起動する場合、この自動解除のタイ ミングによってはリポジトリーサーバーが稼働状態にならないことがあります。

14.4 バージョン情報の表示

バージョン情報を表示する手順を説明します。

1. [ドキュメント管理サービス管理ツール] 画面のメニューバーの [ヘルプ] > [バージョン情報] を選択 します。

[バージョン情報] 画面が表示されます。

15 RMSの設定

RMSの設定を行う手順を説明します。

15.1 ユーザー属性の追加

ユーザー属性を追加する手順を説明します。

 補 足 ユーザー属性を登録できるのは、RMSのドキュメント管理サービスの属性管理部分に対する書き込み権限を 持つサービス管理者だけです。

1. メニューバーの [RMS] > [ユーザー属性の追加] を選択します。

[ユーザー属性の追加] 画面が表示されます。

ネームスペース:	user ーザー属性の一覧		I	~			,
属性ID UserRoles UserRole_sin Boolean_single principal_sing Principal_Mul	DB力力公名 UserRoles UserRole_sin Boolean_single Principal_sing Principal_Mul	表示名(日本 ユーザーロール ユーザーロール ブール型(単 プリンシパル型 プリンシパル型	表示名(英語) UserRole_sin Boolean_single Principal_sing Principal_Mul	型 ユーザーロール ユーザーロール ブール型 (bool プリンシパル型 プリンシパル型	型種別 多値:10 単値 単値 多値:10	^	エクスポート
- 新規に登録するユ 属性ID	ーザー属性の一手 DBカラム名	ā 表示名(日本	表示名(英語) 型	型種別		<u>追加</u> 編集 削除 インポート
						OK	キャンセル

図:[ユーザー属性の追加] 画面

- 2. [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。
- 3.操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ ユーザー属性を追加する

- (1) [ユーザー属性の追加] 画面の [追加] をクリックします。 [ユーザー属性の指定] 画面が表示されます。
- (2) [属性名] に、属性名を 64 バイト以内で入力します。英字で始まる文字列で英数字、「_(アンダースコア)」の文字で入力します。
- (3) [DB カラム入力] に、DB カラム名を 25 バイト以内で入力します。英字で始まる文字列で、英数字、 「_ (アンダースコア)」の文字で入力します。
- (4) 次の言語から、ライセンスのある言語の属性名を 128 バイト以内で入力します。
 - 日本語表示名の入力は、必須です。
 - ・[日本語]
 - ・[英語]
 - ・[簡体字中国語]
 - ・[繁体字中国語]
 - ・[韓国語]
- (5) [型] プルダウンメニューから、データ型の種類を選択します。
- (6) [型] プルダウンメニューで、〔文字列型(string)〕を選択した場合は、右側の入力フィールドに、1 ~ 3,000 の範囲で、文字列の長さを入力します。

(7)次のどちらかのラジオボタンを選択します。

・[単値型属性]

「多値型属性】

[多値型属性]を選択した場合は、右側の入力フィールドに、2~100の範囲で多属属性の最大数を入力します。

(8) [OK] をクリックします。

[ユーザー属性の追加] 画面が表示されます。

[ユーザー属性の追加] 画面の [新規に登録するユーザー属性の一覧] に、登録したユーザー属性が表示 されます。

(9) 手順4に進みます。

◆ ユーザー属性を削除する

- (1) [ユーザー属性の追加] 画面のユーザー属性一覧から、削除するユーザー属性を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したユーザー属性が削除されます。
- (3) 手順4に進みます。
- ◆ ユーザー属性定義をファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"attrId","dbColumnName","displayName_ja","displayName_en","attrType","length ","multivalued","maxItem" tokyo:drawingNumber,DRAWINGNUMBER,図面番号,Drawing Number,string,256,multivalued,10 tokyo:cost,COST,原価,Cost,integer,,singlevalued,

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [ユーザー属性の追加] 画面の [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するユーザー属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているユーザー属性が、ユーザー属性一覧に追加されます。

- (5) 手順4に進みます。
 - 補足・すでに存在する値を追加しようとした場合は警告メッセージが表示されます。

・設定ファイルには、[ユーザー属性の追加] 画面で選択したネームスペースの属性を指定してください。選択していないネームスペースの属性が設定ファイルに記述されていた場合、警告メッセージが表示されます。
 例)ネームスペース「userx」を選択しているときに、設定ファイルに「usery:attr1」という属性が指定されていた場合

- ・記述方法が正しくない場合はエラーです。
- **4.** [ユーザー属性の追加] 画面で、[OK] をクリックします。 ユーザー属性の追加を確認する画面が表示されます。
- **5.** [はい] をクリックします。

ユーザー属性が追加され、元の画面に戻ります。

15.2 ユーザーアトムの追加

ユーザーアトムを追加する手順を説明します。

補足 ユーザーアトムを登録できるのは、RMSのドキュメント管理サービスの属性管理部分に対する書き込み権限 を持つサービス管理者だけです。

1. メニューバーの [RMS] > [ユーザーアトムの追加] を選択します。

[ユーザーアトムの追加] 画面が表示されます。



図:[ユーザーアトムの追加] 画面

- 2. [ネームスペース] プルダウンメニューから、ネームスペースを選択します。
- 3. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ ユーザーアトムを追加する

- (1) [ユーザーアトムの追加] 画面の [追加] をクリックします。 [ユーザーアトムの指定] 画面が表示されます。
- (2) [アトム名] に、アトム名を 64 バイト以内で入力します。英字で始まる文字列で英数字、「_(アンダースコア)」の文字で入力します。
- (3) 次の言語から、ライセンスのある言語の属性名を 128 バイト以内で入力します。
 - 日本語表示名の入力は、必須です。
 - ・[日本語]
 - ・[英語]
 - ・[簡体字中国語]
 - ・[繁体字中国語]
 - ・[韓国語]
- (4) [OK] をクリックします。

[ユーザーアトムの追加] 画面が表示されます。 [ユーザーアトムの追加] 画面の [新規に登録するユーザーアトムの一覧] に、登録したユーザーアトム が表示されます。

(5) 手順<u>4</u>に進みます。

◆ ユーザーアトムを削除する

- (1) [ユーザーアトムの追加] 画面のユーザーアトム一覧から、削除するユーザーアトムを選択します。
- (2) [削除] をクリックします。 選択したユーザーアトムが削除されます。

(3) 手順 4 に進みます。

◆ ユーザーアトムをファイルから読み込む(インポート)

ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。設定ファイル (CSV ファイル)の例を次に示します。

"atomName","displayName_ja","displayName_en" tokyo:issued, 承認,Issued tokyo:cadData,CAD データ,CAD Data

参照 記述方法については、<u>「3 管理アプリケーション デスクトップ版で使用する CSV ファイル」(P.30)</u> を参照してください。

- (1) [ユーザーアトムの追加] 画面の [インポート] をクリックします。 [ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加するユーザーアトムの設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。

設定ファイルに記述されているユーザーアトムが、ユーザーアトム一覧に追加されます。

- (5) 手順4に進みます。
 - 補足・すでに存在する値を追加しようとした場合は警告メッセージが表示されます。 設定ファイルには、[ユーザーアトムの追加] 画面で選択したネームスペースのアトムを指定してく ださい。
 - ・選択していないネームスペースのアトムが設定ファイルに記述されていた場合、警告メッセージが表示されます。
 例)ネームスペース「userx」を選択しているときに、設定ファイルに「usery:atom1」というアトムが指定されていた場合
 - ・記述方法が正しくない場合はエラーです。
- **4.** [ユーザーアトムの追加] 画面で、[OK] をクリックします。 ユーザーアトムの追加を確認する画面が表示されます。
- **5.** [はい] をクリックします。

ユーザーアトムが追加され、元の画面に戻ります。

15.3 ユーザーネームスペースの追加

ユーザーネームスペースを追加する手順を説明します。

補足 ネームスペースを追加できるのは、RMSのドキュメント管理サービスの属性管理部分に対する書き込み権限 を持つ、サービス管理者だけです。

1. メニューバーの [RMS] > [ネームスペースの追加] を選択します。

[ネームペースの追加] 画面が表示されます。

ネームスペースの追加	×
 ネームスペースを入力してください。 	
OK キャンセル	

図:[ネームペースの追加] 画面

- 2.入力フィールドにネームスペースを英字で始まる文字列で英数字で入力します。
- **3.** [OK] をクリックします。

ネームスペースが追加され、元の画面に戻ります。

15.4 RMS 情報のリロード

RMS情報をリロードする手順を説明します。

- **1.** メニューバーの [RMS] > [RMS 情報のリロード] を選択します。 [RMS 情報のリロード] 画面が表示されます。
- **2.** [はい] をクリックします。 RMS 情報がリロードされ、元の画面に戻ります。

付録

管理アプリケーション デスクトップ版では、サービスおよびキャビネットのモードによって、使用できる機能が 異なります。

各モードで使用できる機能について説明します。

付録 A.1 サーバー管理

各モードで使用できるサーバー管理に関する操作は、次のとおりです。

表:モード別機能一覧(サーバー管理)

○:実行できます、×:実行できません

动争		塌作	サー	ビス	
XJ3K			通常	メンテナンス	
リポジトリー/	基本	一覧表示	\bigcirc	\bigcirc	
管理サーバー共通	起動状態の変更	一時停止解除	\bigcirc	0	
		一時停止	\bigcirc	\bigcirc	
		強制一時停止	強制一時停止	\bigcirc	\bigcirc
		終了	\bigcirc	\bigcirc	
		強制終了	\bigcirc	\bigcirc	
リポジトリーサーバー	基本	最大セッション数の設 定	\bigcirc	0	
		サーバーの重み付け設 定	\bigcirc	0	
		クラスタリング参加設 定	0	\bigcirc	
管理サーバー	基本	アクティブ化	\bigcirc	\bigcirc	

付録 A.2 サービス管理

各モードで使用できるサービス管理に関する操作は、次のとおりです。

表:モード別機能一覧(サービス管理)

対免	42米百	操作	サービス	
N 3K	刀块		通常	メンテナンス
サービス	基本	サービス情報表示	0	0
		サービス管理者の設定	×	0
		サービスモードの設定	0	0
		セッション情報の一覧表示	0	0

表:モード別機能一覧(サービス管理)

安位	分類	操作	サー	ビス
	<i>,</i> ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		通常	メンテナンス
サービス	操作ログ	設定初期化	×	0
		設定の表示	0	0
		設定の解除(操作ログの全削除)	×	0
		操作ログのエクスポート	0	0
		操作ログの削除	0	0
	スケジューラー	スケジューラー状態変更	0	0
		スケジューラー状態表示	0	0
		スケジュール一覧	0	0
		実行中スケジュール一覧	0	0
	全文検索	エンジン連携設定	×	0
		エンジン連携設定の表示	0	0
	関連文書検索	エンジン連携設定	×	0
		エンジン連携設定の表示	0	0
	イベントトリガー	外部コマンド定義の追加	×	0
		外部コマンド定義の変更	×	0
		外部コマンド定義の表示	0	0
		外部コマンド定義の削除	×	0
	メール通知	設定	×	0
		設定の表示	0	0
		使用状況の表示	0	0
	データベース表領域	サイズ算出	0	0
		作成	0	0
		削除	0	0
		一覧表示	0	0
	RMS	ネームスペース一覧の表示	0	0
		ネームスペースの追加	0	0
		ユーザーアトムの登録	0	0
		ユーザーアトムの一覧表示	0	0
		ユーザー属性の登録	0	0
		ユーザー属性の一覧表示	0	0

付録 A.3 キャビネット管理

各モードで使用できるキャビネット管理に関する操作は、次のとおりです。 表:モード別機能一覧(キャビネット管理)

分分	公階	操作	キャビ	ネット
	,∑,⊼只		通常	メンテナンス
キャビネット	基本	キャビネット一覧	サービスの モードに関係 なく○	サービスの モードに関係 なく○
		キャビネット作成	サービスの モードに関係 なく○	サービスの モードに関係 なく○
		キャビネット情報の表示	0	0
		キャビネット削除	×	0
		管理者の設定	×	0
		クラスがないオブジェクトに関する ユーザー属性の設定	х	0
		アクセス権(アクセス権、デフォルト アクセス権、およびアクセス権マスク) の設定	0	0
		クラスがないオブジェクトに関する状 態定義(状態定義および状態遷移定義) の設定	×	0
		モードの設定	\bigcirc	0
		コンテントラベルの設定	×	0
		版(エディション)ラベルの設定	×	0
		版(エディション)ラベルの削除	×	0
		インデックスキー(ユニークキー)の 設定	х	0
		インデックスキー(ユニークキー)の 削除	х	0
		オブジェクトタイプの設定	×	0
		ファイルフォーマット変換サービスの 設定	х	0
		キャビネット名の設定	0	0
		注釈の設定	0	0
		操作制約の設定 	×	0
	アカウントログ	設定	0	0
		設定情報の表示	\bigcirc	0
		設定の反映	×	\bigcirc

表:モード別機能一覧(キャビネット管理)

対争	<u></u>	操作	キャビ	゚ネット
XJ3K	ノ規		通常	メンテナンス
キャビネット	操作ログ	設定	×	0
		設定情報の表示	0	0
		エクスポート	0	0
		削除	0	0
	スケジューラー	スケジューラー状態の表示	0	0
		スケジューラー状態の変更	0	0
		スケジュールの設定	0	0
		スケジュールの表示	0	0
		スケジュールの中止	0	0
	全文検索	インデックス初期化	×	0
		インデックス更新	(*1)	(*1)
		インデックス最適化	(*1)	(*1)
		インデックス情報表示	0	0
		インデックス削除	×	0
	関連文書検索	インデックス初期化	×	0
		インデックス更新	○ ^(*1)	○ ^(*1)
		インデックス最適化	(*1)	○ ^(*1)
		インデックス情報表示	0	0
		インデックス削除	×	0
	検索インデック ス共通	異常状況の回復	×	0
	ごみ箱	作成	×	0
		名前の設定	0	0
		注釈の設定	0	0
		ストレージパスの設定	×	0
		情報の表示	0	0
		削除	×	0
	クラス	設定	×	0
		クラスが設定されたオブジェクトに関 するユーザー属性の設定	×	0
		クラスが設定されたオブジェクトに関 する属性制約の設定	×	0
		クラスが設定されたオブジェクトに関 する状態定義(状態定義および状態遷 移定義)の設定	×	0

表:モード別機能一覧(キャビネット管理)

○:実行できます、×:実行できません

対象 分類	人入米五	+= <i>//</i> =	キャビネット	
	J#TF	通常	メンテナンス	
キャビネット	クラス	クラスが設定されたオブジェクトに関 するスタンプルール定義の設定	×	0
		クラスが設定されたオブジェクトに関 する保存期間定義の設定	х	0
		設定の表示	0	0
	タイマー	追加	0	0
		編集	0	0
		削除	0	0
		実行情報の表示	0	0
		設定情報の表示	0	0
		状態の変更	0	0
		スキップリストのクリア	0	0
	イベントトリ ガー定義	表示	0	0
		追加	0	0
		変更	0	0
		定義の順序の変更	0	0
		削除	0	0
		追加または変更の反映	×	0
	運用	不要なコンテント関連データの削除	(*1)	○ ^(*1)
		不要なトランザクションデータの削除	(*1)	(*1)
		動的外部ドキュメントが持つ不要なプ ライマリーコンテントの選定	(*1)	(*1)
		移動の後処理	○ ^(*1)	○ ^(*1)
		分類ビューの該当件数の更新	○ (*1)	○ ^(*1)
		管理操作のキャンセル	0	0

*1:スケジューラーを使用します。

付録 A.4 ドロワー管理

各モードで使用できるドロワー管理に関する操作は、次のとおりです。

表:モード別機能一覧(ドロワー管理)

动争	分階	操作	キャビ	ネット
V]3K			通常	メンテナンス
ドロワー	基本	ドロワー一覧	\bigcirc	\bigcirc
		ドロワー作成	\bigcirc	\bigcirc
		ドロワー情報の表示	0	0
		ドロワー削除	×	\bigcirc
		ドロワー名の設定	0	0
		注釈の設定	0	0
		アクセス権の設定	\bigcirc	\bigcirc
		ストレージパスの設定	×	0

付録 B [操作ログの削除] メニューの非表示設定

付録 B.1 設定パラメーターを編集する

設定パラメーターは、リソース管理アプリケーションの[システムプロパティ編集]画面で編集します。 設定パラメーターを追加する手順は、次のとおりです。

- Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。 URL は、「http:// {ArcSuite サーバーのホストアドレス} /ArcSuite/rmsadmin/」です。 [ログイン] 画面が表示されます。
- ログインするユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
 [ポータル] 画面が表示されます。
- **3.** [システム管理] リンクをクリックします。 [システム管理] 画面が表示されます。
- **4.** [このシステム] に表示されている RMS のリンクをクリックします。 [管理ログイン] 画面が表示されます。
- 5. リソース管理アプリケーションの管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
- **6.** [ログイン] をクリックします。 [リソース管理アプリケーション] 画面が表示されます。
- 7. メニューから [システムプロパティ編集] をクリックします。

[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。

検索 ライセンス編集 部署追加 ユーザー追加 グルーブ追加 ユー	ザーロール名追加 システムプロバティ編集		
三 システムプロパティ編集			
	リセット 保存		
	li		
com.fujifilm.fb.arcsuite.install.database.instanceType	single		
com.fujifilm.fb.arcsuite.install.database.oracleDatafilesPath	C:#DATABASE#DATAFILES#		
com.fujifilm.fb.arcsuite.proxyHost	proxy.fujixerox.co.jp		
com.fujifilm.fb.arcsuite.proxyPort	8080		
com.fujifilm.fb.collabo rmscollaboinfo.Collabo Externa l UsersGroup $\mathbb D$	nimid:12:1234-000000010		
$com.fujifilm.fb.collabo.rmscollaboinfo.CollaboFileImporter {\rm I\!D}$	nimid:11:1234-00000000f		
${\tt com.fujifilm.fb.collaborrmscollaboinfo.CollaboService {\tt D}$	nimid:11:1234-000000000e		
com.fujifilm.fb.drep.atom.namespace.system	http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/atom/system		
com.fujifilm.fb.drep.atom.namespace.user	http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/atom/user		
com.fujifilm.fb.drep.atom.version	3.0.1		
com.fujifilm.fb.rms.adm.server $\mathbb D$	1234		
com.fujifilm.fb.rms.adm.subTreeID	0001		
com.fujifilm.fb.rms.config.checkUserLicense	TRUE		
com.fujifilm.fb.rms.config.defaultDomain	dc=rdh		
com.fujifilm.fb.rms.config.detailEmorFlag	FALSE		
com.fujifilm.fb.rms.config.encryptPasswordFlag	TRUE		
com.fujifilm.fb.rms.config.getDNURI	http:// /ArcSuite/login/servlet/GetDNServer		
com.fujifilm.fb.rms.config.loginServerURI	http:// /ArcSuite/login/servlet/LoginServer		
com.fujifilm.fb.rms.config.logoutServerURI	http:// /ArcSuite/login/servlet/LogoutServer		

8. キー名「com.fujifilm.fb.drep.admin.share.operationLog.canDelete」の右側に「false」を入力します。

[false] 以外の文字を入力した場合、または空白の場合、[操作ログの削除] メニューが表示されます。

9. [保存] をクリックします。

編集した内容が保存されます。

- **10.**ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
- **11.**Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。 [サービス] 画面が表示されます。
- 12.サービスを選択して、[サービスの停止]をクリックします。次の順序で停止します。

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されている サービスを停止します。

- (1) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy
- (2) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
- (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
- (4) ArcSuite Capturing Service Admin
- (5) ArcSuite Capturing Service
- (6) ArcSuite Monitoring Service
- (7) ArcSuite Web Application Service
- (8) ArcSuite Collabo Service
- (9) ArcSuite Repository Service
- (10) ArcSuite Repository Master Admin Service
- (11) ArcSuite kSearchDuo Service
- (12) ArcSuite Full Text Search Service
- (13) ArcSuite Basic Service
- **13.**サービスを選択して、[サービスの開始]をクリックします。次の順序で開始します。
 - 補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されている サービスを開始します。
- (1) ArcSuite Basic Service
- (2) ArcSuite Full Text Search Service
- (3) ArcSuite kSearchDuo Service
- (4) ArcSuite Repository Master Admin Service
- (5) ArcSuite Repository Service
- (6) ArcSuite Collabo Service
- (7) ArcSuite Web Application Service
- (8) ArcSuite Monitoring Service
- (9) ArcSuite Capturing Service
- (10) ArcSuite Capturing Service Admin
- (11) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
- (12) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
- (13) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

付録 C スタンプを設定する流れ

スタンプとは、電子文書に署名または捺印をして、証拠として文書を残すためのものです。ArcSuiteでは、スタ ンプするイメージに使用するファイルを用意して、文書にスタンプするための設定ができます。 スタンプを使用するには、ドキュメント管理サービス管理ツールを使用して次の操作をします。




必要に応じて、キャビネットでスタンプが正しく設定されているか テストするコマンドを実行します。

クラスを設定したドキュメントにスタンプする場合は、ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版で、スタンプルールを設定します。

参照 ドキュメント管理サービス管理コマンドでの操作については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を 参照してください。

ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版での操作については、『ドキュメント管理サービス 管理アプリケーションWeb版のヘルプ』を参照してください。